

湯川ゼミ学生のための基礎技術

——イスラーム史研究基礎入門——

大足 恭平
(慶應義塾大学大学院文学研究科)

平成17年7月13日

概要

本稿はこれから湯川ゼミで、東洋史、それも西の方のやつを勉強・研究してみっか、という人のために書かれています。本稿ではつぎのようなことを説明します。ネタの見つけ方、ネタの深め方(関連文献の探し方)、関連文献の手に入れ方、参考文献リストの作り方などです。つまり、ここでは網羅的なデータと非常に細かいテクニカルなことを扱います。「どのように考えたらよいか」「どのように書けばよいか」「どのように発表・討論すればよいか」は扱われません。

はじめに

本稿はこれから湯川ゼミで、東洋史、それも西の方のやつを勉強・研究してみつか、という人のために書かれています。本稿ではつぎのようなことを説明します。ネタの見つけ方、ネタの深め方（関連文献の探し方）、関連文献の手に入れ方、参考文献リストの作り方などです。つまり、ここでは網羅的なデータと非常に細かいテクニカルなことを扱います。「どのように考えたらよいか」「どのように書けばよいか」「どのように発表・討論すればよいか」は、さすがに私には荷が勝ちすぎています。そのようなことを知りたければ、分野は違いますが、野村一夫さんによる *Socius*¹⁾ の「社会学の作法・初級編」²⁾ をご覧ください。授業の受け方やレジュメの作り方で、その思想的背景とともに説明されています。

さて。当然のことながら、本稿は湯川ゼミ向けに調整されていますので、注意してください。つまり、ここに書かれていることが universal（普遍的）ではない、ということです。学生が書いたものだということも忘れないでください。この件で湯川先生に苦情を出したりしないでください。私に苦情を下さい。喜んで受け取り反映させます。というわけで、図書館情報学もイスラームもさわりしか知らない私に、専門的見地からのアドバイスを大歓迎します。また、この文書のユーザーの方もご忌憚ないご意見をお寄せください。メールを kotoito@2001.jukuin.keio.ac.jp までお願いいたします。本文書は成長します。時と場合によってどんどん修正されます。ご協力をお願いいたします。

本文書の更新履歴やほかの版については http://web.mita.keio.ac.jp/~mb030025/islam_history_tech_basic_index.html をご覧ください。ここにはご覧のプリントアウト版のほかに、コンピュータでの閲覧に適した版³⁾ も置いてあります。Web 版では、書物を紹介したあとには Amazon.com や慶應義塾図書館の OPAC 上での当該書物へのリンクなど、Web ページへのリンクを用意してあります。また更新した場合のアナウンスや HTML 版もここからリンクしてあります。

¹⁾ <http://www.socius.jp/>

²⁾ <http://www.socius.jp/manner/index.html>

³⁾ http://web.mita.keio.ac.jp/~mb030025/islam_history_tech_basic_print.pdf

目次

はじめに	iii
------	-----

第Ⅰ部 技術	1
--------	---

第1章	ネタを見つける	3
1.1	図書館をうろつく	4
	• 配架分類	4
	• 配架場所	4
	• 内部配架	5
	• 歩こう	5
1.2	概説書をあさる	6
1.3	論集をあさる	11
1.4	辞典を「読む」	17
1.5	目的なく雑誌を読む	20
	• 和文	20
	• 欧文	20
1.6	イスラーム史じゃない本も見てみる	21
	• 民族と国民国家	21
	• 漂う「日本」と日本のあいだ	21
	• 国際政治のアクターたち	22
	• あの頃——時空間へのまなざし	22
	• 帝国を生きる	22
	• 近代という冷たく燃える焔の中で	22
	• 未来、と、夢	23
第2章	ネタを深める	25
2.1	概論	26
2.2	KOSMOS-OPAC を使う	28
	• キーワードによる検索	28
	• 主題による検索	31
2.3	NDL-OPAC を使う	34
	• 書籍	34

目次

	● 雑誌記事索引	34
2.4	その他のオンライン蔵書目録を使う	35
	● WINE	35
	● 東京大学蔵書検索	35
	● NACSIS-Webcat	35
	● World Cat	35
	● Library of Congress Online Catalogs	35
	● Bibliothèque nationale de France	36
	● Deutsche Bibliothek	36
2.5	その他のオンライン雑誌目録を使う	37
	● Magazine-Plus	37
	● First Search	37
2.6	書誌を使う	38
	● 解題付き	38
	● 解題なし	39
2.7	参考文献を芋づる	41
	● 引用註の利用	41
	● 概説から	41
	● 研究史から	41
2.8	最後は Web にする	43
2.9	気合いで聞く	44
2.10	本書の価値は——書評を知る	45

第3章	文献への言及——註をつける・リストを作る	47
3.1	概論	48
3.2	和書の場合	49
	● 基本	49
	● 応用	49
3.3	洋書の場合	52
	● 基本	52
	● 応用	52
3.4	和文論文の場合	54
	● 単行本所収の論文	54
	● 雑誌所収の論文	54
3.5	欧文論文の場合	55
	● 単行本所収の論文	55
	● 雑誌所収の論文	55
3.6	新聞、辞典など	56
	● 新聞	56
	● 新聞記事	56
	● 辞典、事典	57
	● アラビア文字は転写する	57
3.7	文献リストをつくる	58

第4章	関連文献を手に入れ、読む	59
4.1	探す前に	60
4.2	うちにあるか？ あれば幸せ	61
4.3	ない？ じゃ、どこにあるんだべ？	62
4.4	電子ジャーナルからダウンロードする	63
4.5	コピーや本を送ってもらう	64
	● コピーを送ってもらう	64
	● 本を送ってもらう	64
4.6	紹介状を持って行く	65

第II部 資料 67

第5章	日本十進分類法 イスラーム関連項目一覧	69
5.1	解説	70
5.2	日本十進分類法関連項目一覧	71
	● 1 類 哲学	71
	● 2 類 歴史	71
	● 3 類 社会科学	73
	● 4 類 自然科学	74
	● 5 類 技術	74
	● 6 類 産業	75
	● 7 類 芸術	75
	● 8 類 言語	75
	● 9 類 文学	76
	● 一般補助表 I-a. 地理区分	76

第6章	論集所収の関連論文一覧（簡略版）	79
6.1	論文一覧	80
	● 東京大学出版会「イスラーム地域研究叢書」,2003-	80
	● 岩波書店「講座 世界歴史」 新版,1997-2000	81
	● 青木書店 歴史学研究会編「地中海世界史」 1999,2000	85
	● 山川出版社「地域の世界史」 1997-2000	86
	● 東京大学出版会「講座 世界史」 1995,1996	87
	● 栄光教育文化研究所「講座イスラーム世界」 1994,95	88
	● 岩波書店「世界史への問い」,1989-91	90
	● 岩波書店「講座 東洋思想」,1988-1989	91
	● 筑摩書房「講座イスラム」 1985,86	91
	● 東洋経済新報社「イスラム世界の人びと」 1984	92
	● 学生社 前嶋信次編「オリエント史講座」 1982-1986	93
	● 評論社「世界の女性史」,1975-1978	95

目次

- 岩波書店「講座 世界歴史」旧版,1969-1970 95
- 東京大学出版会「講座 東洋思想」,1967. 97

第7章

日本語で読める原典たち

99

7.1

.....

100

● 凡例

.....

100

● 一覧

.....

100

第8章

慶應義塾図書館の歩き方——探検のために

107

8.1

新館一階

108

8.2

新館地下一階

110

8.3

新館地下二階

112

8.4

新館地下三階

114

8.5

新館地下四階

115

8.6

新館地下五階

116

8.7

新館二階

117

8.8

新館三階

118

第9章

参考文献、リンク（紹介付き）

119

更新履歴

121

おわりに

123

第I部

技術

1

ネタを見つける

関心のあるテーマを見つけなければ、物事が始まりません。この章ではテーマを見つけるための方法について述べます。あわせて図書館の使用方法についても少しは学べるでしょう。

……1.1……

図書館をうろつく

イスラーム史に限らず、なにか調べたいと思ったら、図書館は非常に有用な場所です。そしてまた、何かに興味を見いだすにも有用な場所です。図書館には、知識が山のように積まれています。そんな場所をふらふらし、気になった本を手にするというだけでも、だいぶ世界は広がります。

当然のように思っているかもしれませんが、慶應義塾図書館の最大の魅力は、ほぼ全館開架であるということです。以前の大学図書館は、ある程度の本だけを開架にしておいて、それ以外の本は書庫にしまっていました。それらの本を見ただけで、請求番号を調べて、図書館の人をお願いして取ってきてもらわなければならないのです。慶應義塾図書館では、我々は書架をながめて、興味次第で本を手にとってパラパラとめくることができます。この強み、生かさない法はありません。

しかし、慶應義塾図書館は広大です。以前、私が新館の全ての書架の間を歩いたときには、本を手にとって眺めた時間もあわせて、約7時間かかりました。そんな場所に何の案内もなく足を踏み入れると迷子になること必至です。その一方で、イスラームの本はこのあたり、と目星がついてしまうと、それ以外の場所にいなくなる傾向があるようです。とりあえずここでは、まず慶應義塾図書館での配架の方法と概ねの場所について説明します。しかし、実際に歩いた方が理解は圧倒的に早いはずです。「第8章 慶應義塾図書館の歩き方——探検のために」と併せて参照してください。

1.1.1 配架分類

慶應義塾図書館の蔵書は、非常に大雑把にいうと次の五種類に分類され、配架されています。

- 一般図書（和書）
- 一般図書（洋書）
- 雑誌
- 学部・研究科図書
- リファレンス

本は普通の本が一般図書、専門性の高いものが学部・研究科図書となります。請求番号は、この分類に従って付与されています。一般図書（和書）はA、一般図書（洋書）はB、学部・研究科図書は、たとえば東洋史ならOHとなります。リファレンスはRが付され禁帯出となります。

1.1.2 配架場所

具体的な配架場所は例外（例えば日本の地方史）を除いて次の通りです。

- | | |
|-----------|----------------|
| 一般図書（和書） | ： 地下一階から地下二階 |
| 一般図書（洋書） | ： 地下二階から地下三階 |
| 学部・研究科図書 | ： 地下三階および旧図書館 |
| 和雑誌（大学紀要） | ： 二階（慶應義塾をのぞく） |

1.1. 図書館をうろつく

和雑誌（一般雑誌）：三階
洋雑誌：四階
レファレンス：一般的なものは一階（歴史と概ねの社会科学）と地下一階（総記～哲学、社会学～文学）、年鑑などは四階

なお、古い一般図書は白楽に移されます。三田にある古い一般図書と雑誌は地下四階にあります。

1.1.3 内部配架

●● 一般図書 ●●

一般図書は、和書、洋書とも後述する日本十進分類法¹⁾によって配架されます。具体的には、和書では地下一階に1類「哲学」から3類「社会科学」まで、地下二階に4類「自然科学」から9類「文学」までが収められています。洋書は地下二階にほとんどのものが、地下三階に独文仏文その他の文学が収められています。

●● 学部・研究科図書 ●●

学部・研究科図書は、地下三階と旧図書館に配架されます。文学部図書は、中文以外はすべて地下三階にあります。ただし近現代を扱う場合は、旧図書館のPL法学部政治学科図書を利用することがあるかもしれません。配列は、ある独特のルールに従っています。これらの図書は、PDA/PDBの教育学図書以外は、十進分類法は適用されません（あくまで配架に際して）。

●● 雑誌 ●●

雑誌の場合は、配架場所の項で述べたとおりです。配列順はアルファベット順となります（たとえば『イスラム世界』ならiの項にあります。大学紀要は発行大学のアルファベット順の配列です（たとえば『史学雑誌』は東京大学の発行ですからtになります）。

1.1.4 歩こう

では、説明はこれくらいにして歩いてみましょう。ここまで書いてきたことは、頭で理解するより歩いて目で見ただけのほうが、よくわかるはずです。さらに一度でも日本十進分類法の順を追って歩いていくことがあるかないかで、「道具」としての図書館の使い勝手はかなり違うはずです。これについては、「第8章 慶應義塾図書館の歩き方——探検のために」として、具体的にまとめましたのでご覧ください。

¹⁾2.2.2 項における説明を参照してください。

……1.2……

概説書をあさる

概説書を読んでみるのは、興味への第一歩です。幸いなことに、イスラーム史の先生は文章のうまい方が多いし、ここ数年で世界史シリーズのイスラーム史の部分もずいぶんと整備されてきました。とりあえず以下のようなものがあります。意外と一つや二つは聞いたことがないんじゃないでしょうか。

ただし一般的な概説書全てに視野を広げると膨大な量になりますので、ここでは、一般向けの世界の歴史シリーズの類を紹介します。紹介する書籍は読みやすいものですし、図版が多いので楽しいはずです。ついでに全巻読むと、もっと楽しいかもしれません。一方で註がきちんと付いていたり、参考文献リストが完全に示されているわけではありません。本の内容について、わずかでも説明が欲しければ東京大学情報基盤センターの「ブックコンテンツ・データベース」¹⁾を利用するとよいでしょう。

概説書の類を多く知りたければイスラーム地域研究総括班の「現代イスラーム世界を知るための基本的な日本語文献リスト」²⁾（現代となっていますが歴史も扱っています）や、「あらたな地平線をめざして」³⁾、「東京外国語大学図書館（イスラーム関係資料所蔵目録）」⁴⁾などをご利用ください。また英語が入ってもいいという人は、同じく東京外大の「中東・イスラーム関係文献」⁵⁾が役に立つでしょう。

中央公論（新）社「世界の歴史」新版、1996-2000.

- | | | |
|----|-------------------------------------|------------------|
| 8 | 佐藤次高『イスラーム世界の興隆』1997. | ISBN: 4124034083 |
| 15 | 永田雄三, 羽田正『成熟のイスラーム社会』1998. | ISBN: 4124034156 |
| 20 | 山内昌之『近代イスラームの挑戦』1996. | ISBN: 4124034202 |
| 9 | 杉山正明, 北川誠一『大モンゴルの時代』1997. | ISBN: 4124034091 |
| 13 | 石澤良昭, 生田滋『東南アジアの伝統と発展』1998. | ISBN: 412403413X |
| 14 | 佐藤正哲, 中里成章, 水島司『ムガル帝国から英領インドへ』1998. | ISBN: 4124034148 |

核となる中東イスラーム史は、8,15,20の三巻からなります。図版の量、新しさ、読みやすさなどを総合的に勘案すると、まず読んでおくべき概説でしょう。

講談社「新書 イスラームの世界史」1993.

- | | | |
|---|-----------------------------|------------------|
| 1 | 佐藤次高, 鈴木董編『都市の文明イスラーム』1993. | ISBN: 4061491628 |
| 2 | 鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』1993. | ISBN: 4061491660 |

¹⁾http://contents.lib.u-tokyo.ac.jp/contents/index_j.html

²⁾<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/Japanese/soukatsu-han/MIW/MIW-booklist.html>

³⁾<http://homepage1.nifty.com/arukunakama/g000.htm>

⁴⁾<http://www.tufts.ac.jp/common/library/guide/list/islam.html>

⁵⁾<http://www.tufts.ac.jp/common/fs/asw/ara/list/contents.html>

1.2. 概説書をあさる

- 3 坂本勉, 鈴木董編『イスラーム復興はなるか?』1993. ISBN: 406149175X

三巻からなる初めてのイスラーム世界の通史。現代新書に収められています。コンパクトですが、ポイントごとに専門家が執筆しているので、非常に充実しています。各巻末に「もっと勉強したい人のためのブックガイド」が所収。

山川出版社「世界各国史」新版, 1998-.

- 8 佐藤次高編『西アジア史Ⅰ アラブ』2002. ISBN: 4634413809
9 永田雄三編『西アジア史Ⅱ トルコ・イラン』2002. ISBN: 4634413906
4 小松久男編『中央ユーラシア史』2000. ISBN: 463441340X
6 池端雪浦編『東南アジア史Ⅱ 島嶼部』1999. ISBN: 4634413604
7 辛島昇編『南アジア史』2004. ISBN: 4634413701
10 川田順三編『アフリカ史』未刊.
16 立石博高編『スペイン・ポルトガル史』2000. ISBN: 4634414600

こちらでも時代・地域ごとに専門家が執筆。考古学年代から説き起こしています。特に近現代の比重が重いようです。ブックガイドはかなり詳細なので是非参照すべきでしょう。

山川出版社「世界史リブレット」1996-.

- 11 梅村坦『内陸アジア史の展開』1997. ISBN: 4634341107
15 東長靖『イスラームのとらえ方』1996. ISBN: 4634341506
16 三浦徹『イスラームの都市世界』1997. ISBN: 4634341603
17 佐藤次高『イスラームの生活と技術』1999. ISBN: 4634341700
18 杉田英明『浴場から見たイスラーム文化』1999. ISBN: 4634341808
19 林佳世子『オスマン帝国の時代』1997. ISBN: 4634341905
37 加藤博『イスラーム世界の危機と改革』1997. ISBN: 4634343703
52 白杵陽『中東和平への道』1999. ISBN: 463434520X
53 田村愛理『世界史のなかのマイノリティ』1997. ISBN: 4634345307
57 蓑勇造『歴史意識の芽生えと歴史記述の始まり』未刊.
58 高山博『ヨーロッパとイスラーム世界』未刊.
59 関哲行『スペインのユダヤ人』2003. ISBN: 4634345900
60 私市正年『北アフリカと内陸アフリカを結ぶもの』未刊.
62 荒川正晴『オアシス国家とキャラヴァン交易』2003. ISBN: 4634346206
69 飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』未刊.
70 濱田正美『中央アジアのイスラーム』未刊. ISBN: 4634347202
71 中里成章『近代インドのヒンドゥーとムスリム』未刊.
72 弘末雅士『東南アジアの建国神話』2003. ISBN: 4634347202
73 陣内秀信『地中海世界の都市と住居』未刊.
76 真道洋子『イスラームの美術工芸』2004. ISBN: 4634347601
79 小松香織『オスマン帝国の近代と海軍』2004. ISBN: 4634347903
85 清水宏祐『イスラーム農書の世界』未刊.

第1章 ネットを見つける

高校生向けのテーマごとの小冊子です。やさしく書いてありますが、新しい論点が詰め込んであるので非常に楽しいシリーズです。また各テーマについて理解を固めるのに有用です。

同朋社「アジアの歴史と文化」1994-2000.

- | | | |
|---|--------------------|------------------|
| 8 | 間野英二編『中央アジア史』1999. | ISBN: 4810408612 |
| 9 | 間野英二編『西アジア史』2000. | ISBN: 4810408620 |

コンパクトにまとめた通史。割付が洒落ていますが、そのせいで文章量が減っているという話もあります。各所のコラムがためになります。編者を見ればわかりますが、中央アジアが強く、西アジアもイランが詳しくなっています。

世界思想社「イスラームを学ぶ人のために」1993.

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| 山内昌之, 大塚和夫編『イスラームを学ぶ人のために』1993. | ISBN: 4790704769 |
|---------------------------------|------------------|

時代的展開、地域的展開、主題的展開の基礎をそれぞれわかりやすく、かつ必要最低限度に論じています。巻末に文献目録があります。

朝日新聞社「地域からの世界史」1992-94.

- | | | |
|----|----------------------------------|------------------|
| 4 | 桜井由躬雄, 石沢良昭, 桐山昇『東南アジア』1993. | ISBN: 4022584998 |
| 5 | 辛島昇『南アジア』1992. | ISBN: 4022585005 |
| 6 | 間野英二, 中見立夫, 堀直, 小松久男『内陸アジア』1992. | ISBN: 4022585013 |
| 7 | 屋形禎亮, 佐藤次高『西アジア 上』1993. | ISBN: 4022585021 |
| 8 | 永田雄三, 加藤博『西アジア 下』1993. | ISBN: 402258503X |
| 10 | 松本宣郎, 牟田口義郎『地中海』1992. | ISBN: 4022585056 |

全然売れなかったということですが、コンパクトな冊子に広いスパンの通史が展開されています。特に内陸アジアや地中海など、これまで通史の書かれなかった「地域」に焦点をあてています。

講談社「ヴィジュアル版 世界の歴史」1983-85.

- | | | |
|---|-------------------|------------------|
| 6 | 本田實信『イスラム世界』1985. | ISBN: 4061885065 |
|---|-------------------|------------------|

ペルシア語史料を使ったモンゴル帝国史研究を開いた本田實信さんは、イラン史の専門家でもあります。ヴィジュアル版の名の通り、写真・図版が多く楽しめます。やはりイラン寄りという感はありませんが、アラムート砦のドキュメントは圧巻です。

三省堂「人間の世界歴史」1981.

- | | | |
|---|-------------------------|--------|
| 9 | 矢島文夫『アラブ民族とイスラム文化』1981. | [三田所蔵] |
|---|-------------------------|--------|

1.2. 概説書をあさる

人びとの生き方としての「文化」に重点をおいた通史。アッバース朝下のバグダードにもっとも重点を置いています。

講談社「世界の歴史」1976-83.

- 10 前嶋信次『イスラムの時代』1977;rep.2002 (文庫) ISBN: 4061595369
22 護雅夫, 牟田口義郎『アラブの覚醒』1978. [三田所蔵]

古いというほどには古くなく、新しいというほどには新しくないという微妙な位置にある通史。10巻はジャーヒリーヤのアラビアからサファヴィー朝のエスファハーンまでをカバーします。前嶋さんの河出版「世界の歴史」での記述と比べてみるのもよいでしょう。

河出書房「生活の世界歴史」1975-76.

- 7 前嶋信次『イスラムの蔭に』1975;rep.1980;rep.1991 (文庫) . [三田所蔵:1980]

10世紀のバグダードとコルドバに注目し、人びとの生き方を活写します。この時代を詳しく扱った概説はほかにはありませんし、史料の引用も多いので、貴重です。私は概説書の類では、この本の文章が一番気に入っています。巻末に史料についての言及があります。他の巻も堀米庸三ら文章に香りのある人たちが書いています。

誠文堂新光社「世界歴史体系」1969.

- 9 『イスラーム』1969. [三田所蔵]

でかい本。写真を含め非常に図版の多い本です。また、預言者の時代から近代までをバランスよく専門家が記述しています。

世界文化社「世界歴史シリーズ」1968.

- 8 嶋田襄平編『イスラム世界』1968. [三田所蔵]

ばかでかい本です。ゆえに非常に写真が多く楽しめます。この時代としては珍しく一部カラーです。見たことのない図版もあるかもしれません。

河出書房「世界の歴史」1968.

- 8 前嶋信次『イスラム世界』1968. [三田所蔵]

若干古くなっているきらいはありますが、サーサーン朝からコンスタンティノープル・グラナダの陥落までを扱う通史です。

中央公論社「世界の歴史」旧版,1961.

5 岩村忍編『西域とイスラム』1961;rep.1983.

[三田所蔵]

あえて挙げておいてなんですが、あまりに古いので読まない方がいいです。シルクロードが中心で、イスラーム世界の扱いはきわめて弱く、「オスマン＝トルコ人の暴虐」とか結構いかなものかという記述が散見されます。

山川出版社「世界各国史」旧版,1955-1987.

11 前嶋信次編『西アジア史』1955;2nd ed.,1972.

[日吉所蔵:1955]

16 江上波男編『中央アジア史』1987.

ISBN: 4634411601

世界各国史の旧版です。三十年間強に渡って刊行されたあげくに、十年後には新版が出ています。『中央アジア史』と新版の『中央ユーラシア史』では注目する場所が全然違っているのがわかるでしょう。といっても、これらの本は、内容がそれほどひどく古くなっているわけではありませんし、味わいのある文章を読むことが出来ます。

.....1.3.....

論集をあさる

これまた最近、ずいぶんと出回ってきました。主な論集は次の通り。基本的に収められているのは論文ですから、参考文献リストがきちんとしています。

東京大学出版会「イスラーム地域研究叢書, 2003-.

- 1 佐藤次高編『イスラーム地域研究の可能性』2003. ISBN: 4130341812
- 2 小松久夫, 小杉泰編『現代イスラーム思想と政治運動』2003. ISBN: 4130341820
- 3 私市正年, 栗田禎子編『イスラーム地域の民衆運動と民主化』2004. ISBN: 4130341839
- 4 三浦徹, 岸本美緒, 関本照夫編『比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』2004. ISBN: 4130341847
- 5 酒井啓子, 白杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』未刊.
- 6 加藤博編『イスラームの性と文化』未刊.
- 7 赤堀雅幸, 東長靖, 堀川徹編『イスラームの神秘主義と聖者信仰』未刊.
- 8 林佳世子, 梶屋友子編『記録と表象——史料が語るイスラーム世界』未刊.

1998 年から 2002 年までイスラーム関係研究者をはじめ、日本の各界、海外の識者を集めておこなわれた文部省科学研究費補助金創成的基礎研究「現代イスラーム世界の動態的研究——イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積」(略称: イスラーム地域研究)¹⁾の成果を集めたシリーズ。現在のイスラーム研究の関心と問題の所在を知ることができるでしょう。

岩波書店「講座 世界歴史」新版, 1997-2000.

- 1 『世界史へのアプローチ』1998. ISBN: 4000108212
- 5 『帝国と支配——古代の遺産』1998. ISBN: 4000108255
- 6 『南アジア世界・東南アジア世界の形成と展開——15 世紀』1999. ISBN: 4000108263
- 7 『ヨーロッパの誕生』1998. ISBN: 4000108271
- 8 『ヨーロッパの成長』1998. ISBN: 400010828X
- 10 『イスラーム世界の発展——7-16 世紀』1999. ISBN: 4000108301
- 11 『中央ユーラシアの統合——9-16 世紀』1997. ISBN: 400010831X
- 12 『遭遇と発見——異文化への視野』1999. ISBN: 4000108328
- 13 『東アジア・東南アジア伝統社会の形成——16-18 世紀』1998. ISBN: 4000108336
- 14 『イスラーム・環インド洋世界——16-18 世紀』2000. ISBN: 4000108344
- 15 『商人と市場——ネットワークの中の国家』1999. ISBN: 4000108352
- 16 『主権国家と啓蒙』1998. ISBN: 4000108360
- 18 『工業化と国民形成』1998. ISBN: 4000108387

¹⁾<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/Japanese/index-j.html>

- | | | |
|----|----------------------------------|------------------|
| 19 | 『移動と移民——地域を結ぶダイナミズム』1999. | ISBN: 4000108395 |
| 20 | 『アジアの＜近代＞』1998. | ISBN: 4000108409 |
| 21 | 『イスラーム世界とアフリカ——18世紀末-20世紀初』1998. | ISBN: 4000108417 |
| 22 | 『産業と革新』1998. | ISBN: 4000108425 |
| 23 | 『アジアとヨーロッパ』1998. | ISBN: 4000108433 |
| 24 | 『解放の光と影』1998. | ISBN: 4000108441 |
| 25 | 『戦争と平和』1998. | ISBN: 400010845X |
| 26 | 『経済成長と国際緊張』1998. | ISBN: 4000108468 |
| 27 | 『ポスト冷戦から21世紀へ』1998. | ISBN: 4000108476 |
| 28 | 『普遍と多元』1998. | ISBN: 4000108484 |

歴史学界の総力をあげて1997年から2000年にかけて発行された世界史全体を扱う論集。時代別地域別に扱う巻とテーマ別に扱う巻にわかれています。テーマ別に扱う巻は、上に挙げた中では1, 5, 12, 15, 19, 22, 25, 28の各巻で地域や時代を超えてテーマを扱います。各巻の論文は、総説的テーマを扱う「構造と展開」が一本、周縁部をあつかう「境域と局所」が三から四本、個々のテーマについての「論点と焦点」に分かれ、さらにテーマ巻では「交流と比較」数本が追加されます。イスラーム世界を中心的に扱う10, 14, 21は最低限読んでおいて損はないでしょう。

青木書店 歴史学研究会編「地中海世界史」1999,2000.

- | | | |
|---|---------------------|------------------|
| 3 | 『ネットワークの中の地中海』1999. | ISBN: 4250990230 |
| 4 | 『巡礼と民衆信仰』1999. | ISBN: 4250990281 |
| 5 | 『社会的結合と民衆運動』1999. | ISBN: 4250990435 |

地中海学会の活動の成果を「地域としての地中海世界史」としてまとめた論集。東洋史と西洋史の壁をこえた執筆者の構成が特徴的です。

山川出版社「地域の世界史」1997-2000.

- | | | |
|----|--------------------------|------------------|
| 1 | 濱下武志, 辛島昇編『地域史とは何か』1997. | ISBN: 4634442108 |
| 2 | 辛島昇, 高山博編『地域のイメージ』1997. | ISBN: 4634442205 |
| 3 | 辛島昇, 高山博編『地域の成り立ち』2000. | ISBN: 4634442302 |
| 4 | 川田順造, 大貫良夫編『生態の地域史』2000. | ISBN: 463444240X |
| 5 | 松本宣郎, 山田勝芳編『移動の地域史』1998. | ISBN: 4634442507 |
| 6 | 佐藤次高, 福井憲彦編『ときの地域史』1999. | ISBN: 4634442604 |
| 7 | 松本宣郎, 山田勝芳編『信仰の地域史』1998. | ISBN: 4634442701 |
| 8 | 川田順造, 石毛直道編『生活の地域史』2000. | ISBN: 4634442809 |
| 9 | 佐藤次高, 岸本美緒編『市場の地域史』1999. | ISBN: 4634442906 |
| 10 | 木村靖二, 上田信編『人と人の地域史』1997. | ISBN: 4634443007 |
| 11 | 濱下武志, 川北稔編『支配の地域史』2000. | ISBN: 4634443104 |
| 12 | 木村靖二, 長沢栄治編『地域への展望』2000. | ISBN: 4634443201 |

1.3. 論集をあさる

「地域史」という観点からの論文をテーマ別に振り分けた論集。必要なときは各巻の必要な論文だけ読めばいいでしょうが、各巻通読すると地域のイメージが広がり絡まり合います。

東京大学出版会「中東イスラム世界」1995-1998

- 1 山内昌之『イスラムとロシア——その後のスルタンガリエフ』1995. ISBN: 4130250213
- 2 杉田英明『日本人の中東発見——逆遠近法のなかの比較文化史』1995.
ISBN: 4130250221
- 3 大塚和夫『テキストのマフディズム——スーダンの「土着主義運動」とその展開』1995.
ISBN: 413025023X
- 4 高山博『神秘の中世王国——ヨーロッパ、ビザンツ、イスラム文化の十字路』1995.
ISBN: 4130250248
- 5 高橋和夫『燃えあがる海——湾岸現代史』1995. ISBN: 4130250256
- 6 加藤博『文明としてのイスラム——多元的社会叙述の試み』1995. ISBN: 4130250264
- 7 小松久男『革命の中央アジア——あるジャディードの肖像』1996. ISBN: 4130250272
- 8 内藤正典『アッラーのヨーロッパ——移民とイスラム復興』1996. ISBN: 4130250280
- 9 八尾師誠『イラン近代の原像——英雄サッタール・ハーンの革命』1998.
ISBN: 4130250299

各冊とも一冊で論文としての体を為すシリーズ。論集にいれるかどうか考えましたが、一応いれておきました。興味のあるテーマのものがあれば、参考文献の宝庫となります。

東京大学出版会「講座 世界史」1995,1996.

- 1 『世界史とは何か——多元的世界の接触の転機』1995. ISBN: 4130250817

第1部「多元的世界の接触」:清水宏祐「十字軍とモンゴル～イスラム世界における世界史像の変化」、新谷英治「オスマン朝とヨーロッパ」、荒野泰典「東アジアの華夷秩序と通商関係」、辛島昇「仏教・ヒンドゥー教・イスラム教」、宮治昭「トゥルフアン」、林邦夫「トレード」、高山博「シチリア王国」、第2部「大航海時代」:清水透「コロンブスと近代」、菅谷成子「フィリピンとメキシコ」、加藤榮一「銀と日本の鎖国」、長島弘「海上の道～15c-17cのインド洋、南シナ海を中心に」、堀直「草原の道」、宮地正人「台湾」、田中一生「ドゥブローヴニク」

- 2 『近代世界への道——変容と摩擦』1995. ISBN: 4130250825
- 3 『民族と国家——自覚と抵抗』1995. ISBN: 4130250833
- 4 『資本主義は人をどう変えてきたか』1995. ISBN: 4130250841
- 5 『強者の論理——帝国主義の時代』1995. ISBN: 413025085X
- 6 『必死の代案——期待と危機の20年』1995. ISBN: 4130250868
- 7 『「近代」を人はどう考えてきたか』1996. ISBN: 4130250876
- 8 『戦争と民衆——第二次世界大戦』1996. ISBN: 4130250884
- 9 『解放の夢——大戦後の世界』1996. ISBN: 4130250892
- 10 『第三世界の挑戦——独立後の苦悩』1996. ISBN: 4130250906
- 11 『岐路に立つ現代世界——混沌を恐れるな』1996. ISBN: 4130250914

12 『わたくし達の時代』 1996.

ISBN: 4130250922

いきなりモンゴルに始まり、第一巻でオスマン朝までカバーしてしまう近代に重点をおいた論集通史。各地域史の集成ではなく、ここまで「世界史」の共時性を感じることもできるシリーズはありません。試みに第一巻所収の論文を一覧してみました。個人的に、ぜひ一度通読して欲しいと思います。

栄光教育文化研究所「講座イスラーム世界」1994,95.

- | | | |
|----|------------------------------------|------------------|
| 1 | 片倉もとこ編『イスラーム教徒の社会と生活』 1994. | ISBN: 4946424849 |
| 2 | 後藤明編『文明としてのイスラーム』 1994. | ISBN: 4946424873 |
| 3 | 堀川徹編『世界に広がるイスラーム』 1995. | ISBN: 4946424881 |
| 4 | 竹下正孝編『イスラームの思考回路』 1995. | ISBN: 494642489X |
| 5 | 湯川武編『イスラーム国家の理念と現実』 1995. | ISBN: 4897110009 |
| 別巻 | 三浦徹、東長靖、黒木英充編『イスラーム研究ハンドブック』 1995. | ISBN: 4897110017 |

地域や時代ではなく「イスラーム」を軸としてまとめられた論集。思想から歴史、生活まで幅広い分野をおさえています。別巻はもはやなくてはならぬ一冊となりました。

岩波書店「世界史への問い」,1989-91.

- | | | |
|----|------------------------|------------------|
| 1 | 後藤明編『歴史における自然』 1989. | ISBN: 4000040413 |
| 2 | 川北稔編『生活の技術生産の技術』 1990. | ISBN: 4000040421 |
| 3 | 濱下武志編『移動と交流』 1990. | ISBN: 400004043X |
| 4 | 二宮宏之編『社会的結合』 1989. | ISBN: 4000040448 |
| 6 | 柴田三千雄編『民衆文化』 1990. | ISBN: 4000040464 |
| 7 | 小谷汪之編『権威と権力』 1990. | ISBN: 4000040472 |
| 8 | 板垣雄三編『歴史のなかの地域』 1990. | ISBN: 4000040480 |
| 9 | 川北稔編『世界の構造化』 1991. | ISBN: 4000040499 |
| 10 | 板垣雄三編『国家と革命』 1991. | ISBN: 4000040502 |

岩波書店のテーマ別歴史論集。各巻に一本から二本のイスラーム関連論文が収められています。同じテーマで他地域を扱う論文も収められているので、比較の視座が得られるでしょう。

岩波書店「講座 東洋思想」,1988-1989.

- | | | |
|---|--|------------------|
| 3 | 『イスラーム思想1——イスラーム思想史, イスラーム思想の展開』 1988. | ISBN: 4000103237 |
| 4 | 『イスラーム思想2——イスラーム思想の特質』 1989. | ISBN: 4000103245 |

イスラーム思想のエッセンスが二冊に凝縮されています。歴史的展開と法学、哲学、神学の論点がバランスよく記述されています。もっとも思想系が苦手ですとつらい思いをします。

1.3. 論集をあさる

筑摩書房「講座イスラム」1985,1986.

- | | | |
|---|--------------------------|--------|
| 1 | 中村廣治郎編『イスラム—思想の営み』1985. | [三田所蔵] |
| 2 | 森本公誠編『イスラム—転変の歴史』1985. | [三田所蔵] |
| 3 | 佐藤次高編『イスラム—社会のシステム』1986. | [三田所蔵] |
| 4 | 板垣雄三編『イスラム—価値と象徴』1986. | [三田所蔵] |

「講座イスラム世界」と似たような意図をもったシリーズ。こちらは『イスラム世界』に連載された講座を再編成したものです。なお、各巻末に若干の解説付きの文献案内があります。

東洋経済新報社「イスラム世界の人びと」1984.

- | | | |
|---|------------------------|------------------|
| 1 | 上岡弘二, 中野暁雄ほか編『総論』1984. | ISBN: 449281261X |
| 2 | 佐藤次高, 富岡倍雄編『農民』1984. | ISBN: 4492812628 |
| 3 | 永田雄三, 松原正毅編『牧畜民』1984. | ISBN: 4492812636 |
| 4 | 家島彦一, 渡辺金一編『海上民』1984. | ISBN: 4492812644 |
| 5 | 三木亘, 山形孝夫編『都市民』1984. | ISBN: 4492812652 |

生活類型ごとに編まれた各巻からなる人類学や社会史の方面からの論集。宮本常一も加わった東京外大A A研による「アジア・アフリカにおけるイスラームかと近代化に関する調査研究」のまとめです。なかなか目にするものの出来ない貴重な論考を多く含みます。また各巻テーマに沿った文献案内が巻末にあります。

学生社 前嶋信次編「オリエント史講座」1982-1986.

- | | | |
|---|------------------|--------|
| 4 | 『カリフの世界』1982. | [三田所蔵] |
| 5 | 『スルタンの時代』1986. | [三田所蔵] |
| 6 | 『アラブとイスラエル』1986. | [三田所蔵] |

やたらと古くなっている感じがして、実はまだあまり古くなっていない論集。「オリエント」という地域が焦点です。したがって、東方すぎたり西方すぎたりするとあまり論文が載っていません。

評論社 「世界の女性史」1975-1978.

- | | | |
|----|------------------|------------------|
| 13 | 『東方の輝き』1977. | ISBN: 4566053628 |
| 14 | 『閉ざされた世界から』1977. | ISBN: 4566053636 |

女性史というジャンルからの論集。マムルーク朝の初代スルタン、シャジャール・トゥッドウルの伝承なども載っていてなかなか貴重な二冊です。13巻が前近代、14巻が近代～現代です。

岩波書店「講座 世界歴史」旧版,1969-1970.

- | | | |
|----|-------------------------------------|--------|
| 7 | 『中世1——中世ヨーロッパ世界(1)』1969. | [三田所蔵] |
| 8 | 『中世2——西アジア世界』1969. | [三田所蔵] |
| 10 | 『中世4——中世ヨーロッパ世界(2)』1970. | [三田所蔵] |
| 13 | 『中世7——内陸アジア世界の展開(2)；南アジア世界の展開』1971. | [三田所蔵] |
| 15 | 『近代2——近代世界の形成(2)』1971. | [三田所蔵] |
| 20 | 『近代4——近代世界の展開(4)』1971. | [三田所蔵] |
| 21 | 『近代5——近代世界の展開(5)』1971. | [三田所蔵] |
| 22 | 『近代9——帝国主義時代(1)』1971. | [三田所蔵] |
| 23 | 『近代10——帝国主義時代(2)』1971. | [三田所蔵] |
| 24 | 『現代1——第一次世界大戦』1971. | [三田所蔵] |
| 25 | 『現代2——第一次世界大戦直後』1971. | [三田所蔵] |
| 27 | 『現代4——世界恐慌期』1971. | [三田所蔵] |
| 28 | 『現代5——1930年代』1971. | [三田所蔵] |
| 29 | 『現代6——第二次世界大戦』1971. | [三田所蔵] |
| 30 | 『現代歴史学の課題』1971. | [三田所蔵] |

1970年代はじめの歴史学集大成。発展段階論にしばられているような記述も散見できますが、敬遠するにはあたりません。実証研究の基礎がほぼ固まったのがこのころですから、いまでも研究の出発点となしうる論文が数多く収められています。

東京大学出版会「講座 東洋思想」,1967.

- | | | |
|---|----------------|--------|
| 7 | 『イスラムの思想』1967. | [白楽所蔵] |
|---|----------------|--------|

イスラーム思想の論集。ただし後の岩波のものとは違って、それほど「思想思想」していませんので、意外と読みやすいかもしれません。

.....1.4.....

辞典を「読む」

最近の辞典は「読む辞典」という概念が導入され、個々の項目を読んでもそれなりにおもしろく読めるようになっていきます。何の気なく、暇なときにでもペラペラとめくりましょう。そして、ある項目を読んだら、その中で登場する他の語を調べ……とどんどんリンクしていくと、楽しく時間をつぶせます。また2001年9月11日のテロのあと、2002年中に「イスラム事典」の増補改訂版を含めて、総合的な事典が三冊も発行されました。まったく古くなっていない事典を手にとることができるのも魅力的です。

2002年の一連の事典の改題を書いた工具書は出ていないので、拙いながら私が解説を試みます。なお本節は網羅的な工具類の紹介を試みているわけではありません。最低限の手近なものとしてイスラームには直接関係ないものだけを紹介します。さらに、さまざまなものを知りたいければ、第2章で紹介する「イスラーム研究ハンドブック」などの工具書の項を参照してください。

辞典類は原則として、新館1階レファレンスカウンター向かって右、三つ目の書棚の手前側、一番奥にあります。

日本イスラム協会編『イスラム事典』平凡社,1984.

ISBN: 4582126014

日本イスラム協会編『新イスラム事典』平凡社,2002.

ISBN: 4582126332

イスラームに関する基本事項を、きちんと説明している事典です。まず参照すべきは、この事典です。また、記述も丁寧でわかりやすいので、とりあえず読むのにも向いているでしょう。新版は、平凡社の経営危機とテロ後の緊急出版という困難をのりこえて2002年に出版されました。増補された項目（巻頭の便利な総説も含めて）は300あまり、また既存の項目もかなり修正されています。その間の日本のイスラーム研究の進展がうかがわれます。なお、旧版に関しては、東京大学東洋文化研究所がオンラインでデータベースを提供しています¹⁾ので、手軽に利用できます。

全般に歴史的項目（特に政治史、社会史）に強い印象を受けます。旧版では、現代関連は壊滅的でしたが（出版年からいって当然）、新版ではかなり充実してきていますし、アフリカや東南アジア、地中海などについての増補が数多くあります。また社会史についての充実ぶりは、素晴らしいものです。

旧版と新版をどちらを使うか。まず旧版にあつて、新版で消滅した項目はあまりありません。記述についても、旧版のほうがどう考えてもいいだろうというものもほとんどありませんし、ほとんどが改訂されています。したがって、これから手にするのなら新版を選ぶべきです。新版の難をいえば旧版より高いこと、そして紙が厚いことです。より詳しいことは、三浦徹さんによる紹介²⁾を参照してください。

大塚和夫, 小杉泰, 小松久男, 東長靖, 羽田正, 山内昌之編『岩波イスラーム辞典』岩波書店,2002.

ISBN: 4000802011

例のテロ後に新たに発行された辞典。項目数は『イスラム事典』の4倍ほどになり、あえて「辞典」となっている意味はそこにあります。近現代に強い傾向があり、現代の組織・政党、人名はかなり綿密に挙げてあります。特に現代政治は「イスラム事典」（旧版）では刊行年か

¹⁾ イスラム事典検索ページ: <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islam2/search.shtml>

²⁾ 三浦徹「新イスラム事典について」『イスラム世界』59,2002.

ら当然湾岸戦争さえも含まれないわけで、我々はこの分野にかかわる事典をはじめて手にしたといってよいでしょう。どちらにしろ、とにかく詳細です。全部の項目を読むのに一週間かかりました。では、以下こまかいことを。

概念的な項目が非常に充実しています。思想史や法学・モラルエコノミーの関連項目は、現代とのつながりも説明しており、「イスラム事典」(旧版)と比べても大変詳しいものといえるでしょう。さらに、非アラブ圏への目の配り方が細やかです。特に中央アジアが充実しています。非イスラーム世界におけるムスリムについての記事が多いのも特色といえるでしょう。その他、意外に建築史・美術史、特に陶器とモスク建築に関して詳しいです。また、どう考えても山内さんの趣味ですが、日本に関連する項目が異様に詳細です。「新井白石」とか「乃木希典」なんて項が立てられています。付け加えて、表記・転写法が比較的厳密です。

一方で欠点は、前近代の歴史的な事件についての項目は、かなり端折ってある感じがすること、各記事末尾の参照項目や索引については不備が目立つことでしょうか。関連項目でも違う執筆者の場合、参照が設定されていないことがありますし、巻末索引は項目一覧にすこし足したもの、という感じです。よって「読む」にはあまり向いていないといえるでしょう。そして、高いです。需要を考えればこの程度かもしれませんが、おなじ岩波の「現代中国事典」が1457 ページで6600 円であることを考えると、1257 ページで7500 円は少々考えものです。装丁はきれいですけど。

総じて、持っておいて損はない辞典という感じです。ただし短所もないわけではないとおもうので「イスラム事典」と併せて参照（特に歴史の分野での工具としての使い勝手からいえば、少々ものたりない）というスタイルが推奨されます³⁾。「イスラム事典」(旧版)がイスラーム史の事典としての面が顕著であったとすれば、「岩波イスラーム辞典」は地域研究としての側面が強いといえるでしょう。

片倉もとこ責任編集『イスラーム世界の事典』明石書店, 2002. ISBN: 4750315478

装丁は辞典というより本。編者を見れば分かりますとおり、人類学方向にめったやたらと強いです。コンセプトは「生きているイスラーム」「生活のイスラーム」です。あえて「イスラーム世界」となっているのは、そのあらわれでしょう。「クルアーン・コンクール」なんて見慣れない項目も立てられています。

歴史的な項目についても、砂漠の生活、衣服、都市システムなどのソフト面が非常によく記述されています。さらに「女性」などの関連の項目も充実しています。各項目ひとつひとつの文章がよく推敲されている感じがしており、写真、イラストが多く、割付も洒落ていて活字も読みやすいのが特徴です。したがって「読む」のにもっとも向いています。ただし、いまここを書いている時点で、私はまだそれほど使い込んでいませんので、大嘘が多いかもしれません。

C.E. Bosworth et al. (eds.), *The Encyclopædia of Islam*, Vol.1-, new ed., Leiden, 1960-.

ISBN: 9004081143

言わずとした最強の事典 *The Encyclopædia of Islam* です。上記の和書の事典で探したい項目が見つからなければ、とつとこれに当たったほうが幸せになれます。また項目末尾に、その項目に関わる基本文献が挙げられているので、これも便利です。

もちろん英語で書かれていますが、項目名は概念的なことであれば、基本的にアラビア語ラテン転写で出ています（たとえば justice ではなく 'adl で出ている）。『イスラム事典』などで綴りを確認した上で使用するとよいでしょう。

³⁾ 前掲の三浦さんの『新イスラム事典』の紹介によれば、本辞典では、『イスラム事典』旧版に項目がある場合、その項目についての記事の依頼は『イスラム事典』での執筆者にはしていないそうです。したがって本辞典とイスラム事典を併せ読むことの価値はより高くなると言えるでしょう。

1.4. 辞典を「読む」

2002 年によくアルファベットが Z まで完結しました。2004 年中に索引も含めた完成版が出版される予定です。しかし刊行され続けて 40 年。第 1 巻などは、すでに 40 年前のものだということも記憶の片隅に置いておいてよいことだと思います。図書館のレファレンスカウンター並びの書棚にあります。なお、一緒に旧版も置いてありますが、こちらはさらに 50 年前つまり一世紀近く前のものです。

これをまとめた CD-ROM が出ており、レファレンスカウンターに申し出れば使用することができます。

E. Yar-Shater (ed.), *Encyclopædia Iranica*, Vol.1-, London and Boston, 1982-.

ISBN: 0710090994

こちらはイランの辞典。やはり刊行途中ですが、*Encyclopædia of Islam* なみの分量になりそうなので、かなり細かいことまで載っています。現在三田では 10 巻までそろっており、Gindaros まで⁴⁾見ることができます。

『歴史学事典』弘文堂, 1994-. ISBN: 4335210310

歴史学一般の事典で、テーマ別に巻がわかれています。各項目は非常に詳細に書かれています。しかも、読んでいて楽しい事典でもあります。たとえば、「平和 (イスラムの)」とか「池」とか「コルドバの殉教」とか「犬 (イスラムの)」とか、とにかく何でも項目が立てられています。また、項目それぞれに参考文献が付いているのも、よい点です。なにか、ポツとおもいついたことを、とりあえず引いてみるのがおすすめです。全巻の完結が待ち遠しい。以下に各巻を示します。なお、このシリーズは事典であるにもかかわらず、レファレンスではなく新館地下 1 階の歴史学の場所にあり、貸出も可能です。

1. 交換と消費; 2. からだとくらし; 3. かたちとしるし; 4. 民衆と変革; 5. 歴史家とその作品; 6. 歴史学の方法; 7. 戦争と外交; 8. 人と仕事; 9. 法と秩序; 10. 身分と共同体; 11. 宗教と学問; 12. 王と国家 (未刊); 1?. 所有と生産 (未刊); 1?. コミュニケーション (未刊); 1?. ものとなご (未刊); 別巻. 総索引 (未刊)

『事典 イスラームの都市性』亜紀書房, 1992. ISBN: 4750592099

「イスラーム地域研究」の一回前の大プロジェクトの成果。五十音順に並んでいるわけではなく、さまざまな角度から都市性を分析する事典です。イスラーム世界の都市だけでなく、「平城京」とか「長崎とムスリム商人」とかいろいろな項があります。なお、これは社会学の都市の分類なので、地下一階、階段を降りて右折、右折で、閲覧席を抜けて奥に行った左側のところにあります。

⁴⁾ なぜか三田では 9 巻が欠落しています。日吉では見ることができます。

.....1.5.....

目的なく雑誌を読む

目的の論文をみるためでなく、ただばらばらと専門誌をめくるとももしかしたら興味のあることが載っているかもしれません。イスラーム研究と関連する主な雑誌は日本語では次の通りです。あわせて総目次が閲覧できるものについては、その所在を示します。

1.5.1 和文

- 『オリエント』『日本オリエント学会月報』（日本オリエント学会）1955-. ISSN: 00305219
- 『イスラム世界』（日本イスラム協会）1963-. [三田所蔵:三階東]
- 『日本中東学会年報』（日本中東学会）1986-. ISSN: 09137858
- 『東洋学』（東方学会）1951-. ISSN: 04957199
- 『中東研究（中東事情；中東通報；月刊中東研究）』（中東調査会）1957-. ISSN: 09105867
- 『東洋文化』（東京大学東洋文化研究所）1950-. ISSN: 05640202
- 『東洋文化研究所紀要』（東京大学東洋文化研究所）1943-. ISSN: 05638089
- 『西南アジア研究』（京都大学）1957-. ISSN: 09103708
- 『東洋史研究』（京都大学）1935-. ISSN: 03869059
- 『東洋学報』（東洋協会調査部；東洋文庫）1911-. ISSN: 03869067
- 『内陸アジア史研究』（内陸アジア史学会）1984-. ISSN: 09118993
- 『アジア・アフリカ言語文化研究』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）1968-. ISSN: 03872807
- 『中東研究所紀要』（国際大学）1985-1994.
- 『中近東文化センター研究会報告』（中近東文化センター）1980-.
- 『地中海学研究』（地中海学会）1978-. [三田所蔵：三階西]
- 『アッサラーム』（イスラミックセンター・ジャパン）1976-. [三田所蔵：三階東]

1.5.2 欧文

欧文でも主なものを挙げます（つまり私が参考文献中でよく目にするもの）。

- *Middle East Journal*:MEJ, 1947-. ISSN: 00263141
- *Middle Eastern Studies*:MES, 1964-. ISSN: 00263206
- *International Journal of Middle East Studies*:IJMES, 1970-. ISSN: 00207438
- *Studia Islamica*, 1953-. ISSN: 05855292
- *Der Islam*, 1910-. ISSN: 00211818

.....1.6.....

イスラーム史じゃない本も見てみる

本節は 100%個人の趣味です。強制するつもりはありません。思いついたら足していきます。

1.6.1 民族と国民国家

イスラーム史を学んでいると民族とか国家とかの呪縛をまずほぐさねばなりません。そのような問題に関わる基礎文献を紹介します。各論を考える前にまず方法論的な整理をしておきましょう。

- B. アンダーソン, (白石さや・白石隆訳)『想像の共同体』リブレポート,1987;new ed., NTT 出版, 1997. ISBN: 487188516X
- E. ホブズボウム; T. レンジャー (前川啓治訳)『創られた伝統』紀伊国屋書店, 1992. ISBN: 4314005726
- A. D. スミス (巢山靖司ほか訳)『ネイションとエスニシティ』名古屋大学出版会, 1996. ISBN: 4815803552
- E. ゲルナー, (加藤節監訳)『民族とナショナリズム』岩波書店, 2000. ISBN: 4000021966
- E. サイド, (板垣雄三, 杉田英明監修)『オリエンタリズム』平凡社 (平凡社ライブラリー), 1993. ISBN: 4582760112
- 西川長夫『国境の越え方——国民国家論序説』平凡社 (平凡社ライブラリー), 2001. ISBN: 4582763804
- 関根正美『エスニシティの政治社会学——民族紛争の制度化のために』名古屋大学出版会, 1994. ISBN: 4815802297

1.6.2 漂う「日本」と日本のあいだ

我々は、日本ではない場所の、それも違った時代のことを考えようとしています。そうして考えると自然に「ここが日本と違う」という比較の発想が出てくるでしょう。しかしその時言及した「日本」、我々の知っている「日本」というものが、果たしてどこまで有効な視座なのか。40 年前の日本は「日本」だったのか。私たちの意識とイメージの狭間に漂う「日本」像と日本の間に橋を架けます。

- 宮本常一『忘れられた日本人』未来社, 1960; rep. 岩波書店 (岩波文庫), 1984. ISBN: 400331641X
- 宮本常一, 山本周五郎, 梶西光速, 山代巴監修『日本残酷物語』全 5 巻, 平凡社, 1959-1960; rep. 平凡社, 1972; rep. 平凡社 (平凡社ライブラリー), 1995. [三田所蔵]
- 小熊英二『単一民族神話の起源——「日本人」の自画像の系譜』新曜社, 1995. ISBN: 4788505282

1.6.3 国際政治のアクターたち

東洋史専攻でも、意外と近現代をテーマとする人が多いように思えます。世界が分割されてゆく中で、イスラーム世界もまた国際政治と無縁ではありませんでした。表層から見れば、国家対国家という、国家がアクターとなる舞台です。たとえば、大英帝国とオスマン帝国というように。しかし、国際政治、特に近現代のそれは、膨大な資料とともに、国家の政策を決定した人びと・省庁といった、さらに細かいアクターたちの行動まで迫れるのです。たとえばイギリスの対中東政策で言えば、外務省、植民省、インド政庁、陸軍といったそれぞれの省庁が、必ずしも一枚岩の政策を追求したわけではありません。そして、また国際経済という巨大なアクターが目に見えるかたちで立ちはだかっているのもこの時代からです。前者はキューバ危機における合衆国の政策決定を三つのアプローチから、後者は国際政治が国際政治として構造化されてゆく世界を活写します（カーは「史学概論」の教科書の著者としてのみ記憶されるべきではありません！）。

- G. T. アリソン（宮里政玄訳）『決定の本質』中央公論社, 1977. ISBN: 4120007340
- E. H. カー（井上茂訳）『危機の二十年——1919-1939』岩波書店, 1952; rep. 岩波書店（岩波文庫）, 1996. ISBN: 4003402219

1.6.4 あの頃——時空間へのまなざし

- E. ブローデル（浜名優美訳）『地中海』全5巻, 藤原書店, 1991-1995. ISBN: 4938661373
- A. コルバン（渡辺響子訳）『記録を残さなかった男の歴史——ある木靴職人の世界 1798-1876』藤原書店, 1999. ISBN: 4894341484
- R. ダントン（海保真夫, 鷺見洋一訳）『猫の大虐殺』岩波書店, 1986; rep. 岩波書店（同時代ライブラリ）, 1990. ISBN: 4002600173
- 井上章夫『愛の空間』角川書店, 1999. ISBN: 4047033073

1.6.5 帝国を生きる

- A. ネグリ, M. ハート（水嶋一憲ほか訳）『帝国——グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』以文社, 2003. ISBN: 4753102246
- A. アシモフ（岡部宏之訳）『銀河帝国興亡史』全7巻, 早川書房（ハヤカワ文庫SF）, 1984.
- 根津由喜夫『ビザンツ——幻影の世界帝国』講談社（講談社選書メチエ）, 1999. ISBN: 406258154X
- 石光真清『城下の人』『曠野の花』『望郷の歌』『誰のために』龍星閣, 1958-1977. [日吉所蔵]
- G. リッツァ（正岡寛司監訳）『マクドナルド化の世界——そのテーマは何か』早稲田大学出版部, 2001. ISBN: 4657014137

1.6. イスラーム史じゃない本も見てみる

1.6.6 近代という冷たく燃える焔の中で

- M. フーコー (田村俣訳) 『監獄の誕生——監視と処罰』新潮社, 1977. ISBN: 4105067036
- R. バルト (宗左近, 諸田和治訳) 『エッフェル塔』審美社, 1979; rep. 筑摩書房 (ちくま学芸文庫), 1997. ISBN: 4480083472
- J. ハーバーマス (細谷貞雄, 山田正行訳) 『公共性の構造転換——市民社会の一カテゴリーについての探究』未来社, 1973; 2nd ed., 未来社, 1994. ISBN: 4624011236

1.6.7 未来、と、夢

- 山内進 『北の十字軍——「ヨーロッパ」の北方拡大』講談社 (講談社選書メチエ), 1997. ISBN: 4062581124
- 田村明 『江戸東京まちづくり物語——生成・変動・歪み・展望』時事通信社, 1992. ISBN: 4788792095
- T. バーナーズ＝リー (高橋徹監訳) 『Web の創成——World Wide Web はいかにして生まれどこに向かうのか』毎日コミュニケーションズ, 2001. ISBN: 4839902879
- M. ハタミ (平野次郎訳) 『文明の対話』共同通信社, 2001. ISBN: 4764104822

2

ネタを深める

ネタを見つけたらそれに関連する知識を調べたいと考えることでしょう。そして、ネタを見つけても先行研究を熟知しなければ「車輪の再発明」をすることになります。そのためには、そのネタを深める、言い換えれば関連文献を見つけることが重要になります。以下では、その方法を説明します。

……2.1……

概論

関連文献を探すには、さまざまな方法があります。まずは、どんな風を探すかをパターン別に示します。その後で、それぞれのやり方を詳しく説明します。三田メディアセンターの「資料の探し方（学部学生のための情報検索ツール選）」¹⁾も参照してください。

とりあえず、ある地域ある時代の概説を軽く知りたい。

本稿で挙げた概説で充分です。第 1.2 節を読んでください。

ある大きなテーマ（イランの歴史とか）に関連する単行本を網羅的に知りたい。

慶應義塾で持っているものについては KOSMOS-OPAC（第 2.2 節参照）の件名検索や分類検索を使用します。所蔵にこだわらないなら NACSIS-Webcat（2.4.3 項参照）や NDL-OPAC（第 2.3 節参照）、World Cat（2.4.4 項参照）、アメリカ議会図書館（Library of Congress: LC と略す。2.4.5 項参照）の件名検索を使用します。

ある中くらいのテーマ（シーア派とかマムルーク朝のエジプトとか）に関連する単行本を網羅的に知りたい。

慶應義塾で持っているものについては KOSMOS-OPAC の件名検索を英語で行います。所蔵にこだわらないなら NACSIS-Webcat や NDL-OPAC、LC の件名検索を使用します。

ある中くらいのテーマ（シーア派とかマムルーク朝のエジプトとか）に関して定評ある単行本・論文を知りたい。

解題付きの書誌を使用します。分かっているとは思いますが、KOSMOS-OPAC では単行本になっていない論文は検索できません。

ある中くらいのテーマ（シーア派とかマムルーク朝のエジプトとか）に関して論文を知りたい。

NDL-OPAC でキーワード検索を、および *Index Islamicus*（2.6.2 項参照）で地域や時代を特定した検索やキーワード検索などをします。それでも、中くらいのテーマではかなり大量の結果が出てくるでしょうから、覚悟が必要です。

ある小さなテーマ（オスマン朝 1627 年の大宰相交代の背景における後宮勢力の役割について、とか）に関して知りたい。

1. 解題付きの書誌で、ちょうどよいものがないか、とりあえず見てみます。
2. NDL-OPAC、Web 版「日本における中東・イスラーム研究文献目録の検索」²⁾、および *Index Islamicus* でテーマの時代や分野で、何か書いている研究者の名前を入れて検索します。

¹⁾<http://www.lib.mita.keio.ac.jp/reftool/index.html>

²⁾http://61.197.194.9/Database/CA_ISLM_QueryInput.html

2.1. 概論

3. NDL-OPAC、Web 版「日本における中東・イスラーム研究文献目録の検索」、および *Index Islamicus* で関係ありそうな言葉をバカスカ打ち込んで検索します。それ以外の解題なしの書誌も目を皿にして走査してみます。
4. *Encyclopædia of Islam* や『歴史学事典』などで関係ありそうな言葉を引いてみて、その項最後に挙げられている文献を見ます。そこから芋づります。
5. 解題付きの書誌で、その時代に関する定評ある概説を見つけ、その概説中の註や文献リストで挙げられている文献を走査します。見つけたら、とにかく芋づる式に探します。
6. Google で関係ありそうな言葉を日本語と英語で検索します。.edu や.ac ドメインのサイト（すなわち教育機関のドメイン以下のサイト）があれば、それを見ます。もしかしたらその中で、なにか文献に言及しているかもしれません。そしてその文献から芋づります。
7. 解題付きの書誌などで、その分野について一番知っていそうな人を見つけます。その人の所属機関の Web サイトを見て、連絡手段を知ります。しかるべきのちに気合いで聞きます。不安なら先生を通します。
8. 英語ができるなら、イスラーム研究のメーリングリストやニュースグループに加入して聞いてみるのも手でしょう。
9. それでもなければ、文献がないのでしょう。あなたが文献を作ります。もしかしたら史料がなくて、どうにもならないのかもしれませんが。

……2.2……

KOSMOS-OPAC を使う

まずは、みなさんも最低一度は使ったことがあるであろう KOSMOS II-OPAC¹⁾で、関連書籍を見つけてみましょう。慶應義塾図書館は前嶋文庫をはじめとてなかなか資料の収集でも優秀です。とりあえずは、その蔵書を探しましょう。

◆ ただし KOSMOS II-OPAC はあくまで、慶應義塾図書館の所蔵目録だということを忘れないください。本筋から言えば、書誌などで文献を見つけ、それを本塾図書館が持っているか確認するのが OPAC です。従って、本来ならば、この項は第四章に含まれるべき項目です。たまたま手近で、もっとも利用頻度が高そうな検索ツールが OPAC なので、ここに記載されているだけです。

KOSMOS II-OPAC²⁾は、丸善がこれまで開発してきた OPAC の中でもかなり強力なデータ検索機能を実装しています。それを使わない手はありません。では、まず OPAC を開いてみましょう。

ご覧のように、キーワード検索の画面では、上から、キーワードによる検索（全て、書名・誌名中の語、正確な書名・誌名、著者名、人名件名、出版者、ISSN、ISBN、内容注記、その他の番号）、主題による検索、絞り込み検索となっています。

この中で書名、著者名以外のキーワード検索や、主題による検索（件名・分類）を使う機会はあまり無かったのではないのでしょうか。実は、これを使いこなすことが KOSMOS II-OPAC をより便利にするのです。

また、さらに上記の各項で、AND 検索、OR 検索、NOT 検索を行うことが出来ます。特に NOT 検索の実装は Web-OPAC では珍しいので活用してみましょう。たとえば「件名に、コーランないしは Koran ないしは Quran を含み、かつ英語ではなく、1980 年以降に出版されたもの」という指定が出来ます。

2.2.1 キーワードによる検索

キーワード検索は、著者や題名などのキーワードで調べるモードです。デフォルトで、キーワード入力欄が二つ表示されており、ひとつ目が「書名・誌名中の語」、ふたつ目が「著者名」となっています。

これらのキーワード入力欄は、増やしたり減らしたりすることができます。そしてこれらのキーワード間でも、AND 検索、OR 検索、NOT 検索を行うことが出来ます。キーワード入力を増やせば増やすほど絞り込みが正確になるでしょう。

●● 全般的な注意と tips ●●

各項目について詳説する前に全般的な注意を行います。HELP に書いてあることの繰り返しですが。

とにかく気をつけて欲しいのが、Web 上の検索サイトのお約束と違って、スペースは AND 検索の区切り文字ではないということです。つまり Yahoo! などでは、「イラン」革命」と入力すれば、「イラン」と「革命」という語を含むリソースを検索しますが、KOSMOS-OPAC は正直に「イラ

¹⁾ 正確には KeiO university System of Multimedia Online Services 2 - Online Public Access Catalogue

²⁾ <http://wwwopac.lib.keio.ac.jp/helpfrm.htm>

2.2. KOSMOS-OPAC を使う

ン」革命」という語、およびスペースを削除した「イラン革命」という語を含む書籍を検索します。したがって「イランの革命」という書物はヒットしません。これはFAQに属することですが、勘違いをしている人が非常に多い問題です。

AND 検索をするにはキーワード入力欄を増やせばよいのですが、面倒です。同一フィールド内でAND 検索をするには、*（アスタリスク）を用います。上記の例では「イラン*革命」です。アスタリスクは半角（*）でも全角（＊）でも構いません。同様に OR 検索は「+」、NOT 検索は「!」を用います。

●● 各項目について ●●

書名・誌名中の語

そのまんまです。書名・誌名に含まれる言葉を入力します。部分一致なので、書名の一部でもヒットします。また、タイトルの場合、副題中の語もヒットします。ただし、くれぐれも上記の注意を忘れないでください。

- ❖ 書名が分かっているときは、名詞はできる限り単語に分割してください。また、その時は助詞を入れてはいけません。オンライン検索のお約束です。たとえば「イラン立憲革命」は「イラン*立憲*革命」とします。こうすることで「イランの革命と立憲制」などという書名でも検索されます。日本語には分かち書きの伝統がありませんので、検索する方で対応する必要があります。
- ❖ 上の方法で一件もヒットしなかったら、一般的ではない言葉から削除していきます。「イラン*立憲*革命」では、どれも一般的ですが、歴史学の方法上、まず「立憲」を削ってみるのがオーソドックスです。そうすれば『イランの二つの革命』がヒットするかもしれません。
- ❖ 細かいことですが、「イランの歴史」系の概説が欲しいときなどは、「イラン*歴史」ではなく「イラン*史」とするほうがよいでしょう。日本では「地名」+「史」という使い方が一般的です。
- ❖ 調べたい言葉、たとえば「イスラーム神学」のように「イスラーム」という語が入る場合は、常にそれを「イスラム」「回教」とした語でも検索してみてください。これは以下のどのプロセスでも共通です。

正確な書名・誌名

そのまんま。こちらは完全一致です。自信があれば使ってもいいでしょう。

- ❖ 雑誌を探すときはこちらを使うほうがいいです。雑誌は一般的な言葉がタイトルになっていることが多いからです。

著者名

これまた解説の必要がありません。ただし複数著者の書物などの場合、必ずしも著者それぞれが著者名でヒットするとは限りません。また編者がいる場合は編者がここに入ってしまうます。

KOSMOS-OPAC のヘルプにもありますが、たとえ訳書であっても、著者が非漢字姓の外国人の場合は、必ずアルファベットで入力してください。カタカナで打ってもヒットしません（たとえば「イブン」と入力しても「鎌倉遺文」関連しか出てこないでしょう）。

また必ず姓は先にします。ただし、姓のほかに最低限イニシャルは付してください。たとえば、バーナード・ルイスなら「Lewis,B?」と姓の後にコンマ（半角）を打ち、イニシャルを付して前方一致を意味する？（それ以下はいつでもよいということ。つまり Lewis, Bernard でも、Lewis, Barbara でもヒットする）をつけます。そうでないとヒット量が半端でなく

なって、OPAC が止まりかねません。

- ㄟ 上記のファーストネームのイニシャルを付しての検索における検索式について、疑問を持たれた方がいるかもしれません。上記のような方式をとる理由は KOSMOS II-OPAC が著者名検索については前方一致固定になっているためです。たとえば「Lewis*B?」とすると、「Lewis」という姓の著者および「B」から始まる姓の著者をともに含む書籍（つまり著者が複数）を探しに行きます。したがって、バーナード・ルイスの著作はヒットしないのです。

人名件名

伝記など、ある人物が当該書籍の何らかの対象となっている場合、その人物名がこのフィールドに入ります。たとえば張佐良（早坂義征訳）『周恩来・最後の十年——ある主治医の回想録』日本経済新聞社, 1999.では「周恩来」がこのフィールドに入力されます。

出版者

一般的には出版社のことです。あまり使用する機会はないとおもいます。

ISSN

ISSN とは *International Standard Serial Number* のことです。ISSN は、世界中の雑誌に一意のナンバーがふられています。したがって、ISSN さえあれば、ある雑誌を特定できます。ISSN がわかっている限り、雑誌を検索するには ISSN を使用してください。ISSN に含まれているハイフンは取り除いて、数字のみを入力します。

- ㄟ もっとも ISSN があっても、KOSMOS-OPAC に入力されていないものがあります。代表的な例としては『イスラム世界』。馬鹿馬鹿しいですが、そこは注意してください。

ISBN

ISBN とは *International Standard Book Number* のことです。ISBN は、世界中の書籍に一意のナンバーがふられている URN です。その辺で買った本でも背表紙を見れば、ISBN が記載されているはずです。ですから ISBN さえあれば、著者がわからなかりうが、題名がわからなかりうが、ある書籍を特定できます。誤入力による誤ヒットを防ぐためにも、ISBN がわかっている限り、書籍を検索するには ISBN を使用してください。ISBN に含まれているハイフンは取り除いて、数字のみを入力します。

- ㄟ もっとも ISBN があっても、古い書物については、KOSMOS-OPAC に入力されていないものがあります。

内容注記

KOSMOS-OPAC では、「岩波講座 世界歴史」などのシリーズはまとめて表示することができます。その場合に各巻の情報が入るのがこのフィールドです。「書名=世界の歴史」「内容注記=イスラーム」などと使います。

その他の番号

たとえば、本塾図書館が独自に、物理的な各書籍一冊一冊に対して与えている一意の Book ID や請求番号などです。

全て

2.2. KOSMOS-OPAC を使う

上記全てです。しかし、各書籍の付録として付いている「文献案内」や「年表」などを記した「注記」フィールドは、残念ながら検索できません。

2.2.2 主題による検索

本節はどちらかというと、キーワード検索よりも、こちらを説明したくて書いてあります。たぶん使ったことがないでしょうから、試してみてください。主題による検索には、「件名による検索」と「分類による検索」があります。

●● 件名による検索 ●●

では、主題による検索のうち、まず件名について説明します。件名とは、書物の内容についてのキーワードのことで、複数設定されています。たとえば「トルコ・歴史」など。

この項目についての検索対象は、デフォルトで「全て」となっています。普通はこれで構いませんが、各項目について説明しておきます。ここで注意しておきたいのは、日本語で検索するより、英語で検索したほうが、より詳細に検索できるということです。その理由は下に記してあります。このフィールドは前方一致です。「Safavi」か「Safavid」か迷ったら、「Safavi?」としてください。

BSH

Basic Subject Headings 「基本件名標目表」で件名を検索します。この標目表は、日本の図書館で標準の標目表です。日本語で調べられるので楽ですが、たとえばサファヴィー朝に関する本でも「イラン——歴史」などの件名が精一杯なので、軽く検索することしかできません。どのような標目があるかについては OPAC トップの「索引語一覧」から「件名 (BSH)」で検索します。書籍の形では日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表』日本図書館協会, 4th ed., 1999. ISBN: 4820499122 があります。

- つい最近まで標目表では、イスラームやイスラムではなく「回教」という表記が用いられていたということにも注意してください。代表的な標目としては「歴史——回教圏」などがあります。「回教圏*婦人」などとして使ってください。

MESH

「医学図書館件名標目表」。要するに医学用。この際、どうでもいいです。

LCSH

Library of Congress Subject Headings 「議会図書館件名標目」で件名を検索します。洋書ではこちらが標準となります。BSH と違い、かなり細やかな件名が設定されています。どのような標目があるかについては OPAC トップの「索引語一覧」から「件名 (LCSH)」で検索します。

たとえば上で挙げたサファヴィー朝関連の文献でしたら「Iran, Politics and government」および「Iran, History, Safavid dynasty, 1501-1736」のような件名が設定されます。したがって、「主題による検索」を行う際には、英語で検索するのが賢い方法です。

LCSH に記載される件名は Library of Congress, *Library of Congress Subject Headings*, Washington, 197x-. に記載されています。最新版は第 25 版で Cataloging Policy and Support Office³⁾から毎週追加が出ます。

³⁾<http://lcweb.loc.gov/catdir/cpsa/cpsa.html>

その他

慶應義塾図書館では、件名項目に、上記以外の方法で入力しているものもあります（かなりの量）。たとえば羽田正『勲爵士シャルダンの生涯』では、BSH や LCSH に従った件名はありませんが、「Chardin, John, Sir, 1643-1713」という件名が付されています。この場合は、滅多に日本語では入力されません。このことも英語で「全て」を検索したほうがよい理由です。

●● 分類による検索 ●●

次に分類による検索の項目についてです。分類は、ある本を分類表のあるカテゴリにあてはめ、その本に分類表上の番号を与えたものです。件名と違って番号ですので、番号さえわかれば検索がしやすいと言えます。こちらでもデフォルトで「全て」となっています。普通はこれで構いませんが、一応各項目について説明しておきます。なお、分類番号は時に二つ以上の番号が付与されることがあります。

NDC

NDC とは *Nippon Decimal Classification* の略で、『日本十進分類法』という本の分類数字です。3 桁＋コンマ以下によって規定されています。日本の図書館での書架は、一般的に日本十進分類法によって配列されています。したがって当分類法を知ること、検索だけではなく、上記に掲げた図書館をうろつくためにも非常に重要です。最低限次の第一レベルだけは覚えてください。

000:総記; 100:哲学; 200:歴史; 300:社会科学; 400:自然科学; 500:技術; 600:産業; 700:芸術;
800:言語; 900:文学

関連のありそうな分野については第5章で列記します。もっとも、そちらを見てももらえれば分かるとおり、件名の場合と同様で、NDC ではイスラーム関連のものについては、たいした分類がされません。

★ しかし、それでもやっぱり日本の図書館を利用する限りつきまとうものですから、知っておいたほうが身のためのような気がします。ついでですから、おおまかなことを解説します。

十進分類の名の通り、大まかな分類から順に、ひと桁ずつ細かくしていくのが、NDC の分類法です。たとえば、300（概念上は3ですが便宜上0を付して300と表記します）は社会科学です。第二桁にさらに2を付して320（同様に32）は法律です。さらに2を付して322は法制です。三桁目と四桁目の間にはピリオドが打たれます。そして322.9は外国法となります。これが基本です。

さて、「外国法」や「歴史」「政治事情」などは、それ以下で地域別に分けることができますね。そして、それらの分類は共通のものを使うことが出来るはず。そこで作られたのが「一般補助表 I-a.地理区分」で、地域ごとに分類がふられています。地理区分も十進分類で、たとえばアジアは2、インドは25、パキстанは257、バングラデシュは（東パキстанだったから）2576となります。この番号を「外国法」や「歴史」「政治事情」の概念的な分類に付すことで、地域分類が完成するわけです。外国法は322.9でした。論理的には322.9+25で322.925はインド法です。そして200+257で225.7はパキстан史です（このとき200の0は削除します）。以上が十進分類法の概要です。簡単ですね。なお、標目としてない項目については、NDC 別巻の「一般補助表・相関索引編」の相関索引を利用するとよいでしょう（イスラーム関連のものはたいしたキーワードが載っていませんが）。以上に関して、より詳しいことは、もり・きよし原編（日本図書館協会分類委員会改訂）『日本十進分類法』日本図書館協会、新訂9版、1995。ISBN:

2.2. KOSMOS-OPAC を使う

4820495100 を参照してください。なお、同書の巻頭「解説」は日本の大学の B.A. を持つ者は必ず一度は読んでおくべき文書だと思います。

DDC

海外で一般的なデューイ十進分類法のこと。私はよく知りません。一応 NDC のご先祖様。ですが、分類の仕方は第一レベルから違います。

その他

分類方法には、大英図書館だの中国科学院だのいろいろな方法があります。それらのことです。

……2.3……

NDL-OPACを使う

NDL-OPAC は国立国会図書館の OPAC です。まずは「国立国会図書館：資料の検索」¹⁾を開いてみましょう。

国立国会図書館は、国内で発行されたものなら、法的には何でも持っているはずです。また各種学位論文なども収められています。

NDL-OPAC では一般に出ていない博士論文なども検索できます。さらに 2002 年 11 月から、完全に公開されたかたちで「雑誌記事索引」を検索できるようになりました。なお、後述する NACSIS-Webcat では国立国会図書館の蔵書は検索されませんので、注意してください。

2.3.1 書籍

日本の書籍なら、まず見つかることでしょう。件名などもわりと忠実に入力されているので、使ってみてもよいでしょう。

2.3.2 雑誌記事索引

NDL-OPAC の最大の強みは、インターネット上から「雑誌記事索引」を利用できることです。「雑誌記事索引」には、学術雑誌などに投稿された論文の論題や著者などが登録されており、それを検索することが出来ます。これまでは契約をして Magazine-Plus を導入している大学などからしか利用できませんでしたが、2002 年 11 月よりインターネット上に無料で公開されました。

なお 1989 年までの雑誌記事索引は書籍化された国立国会図書館編『雑誌記事索引人文社会編』1948-1989. ISBN: 4314100842 があります。メインカウンター前の吹き抜けを囲む書架のうち、言語辞書の側にあります。

¹⁾ <http://www.ndl.go.jp/jp/data/opac.html>

.....2.4.....

その他のオンライン蔵書目録を使う

慶應義塾図書館や国立国会図書館が世界中で出版された全ての書物を持っているわけではありません。単に文献があるかどうか知るのであれば、どこの図書館で持っていて関係ありませんから、他機関の蔵書目録も調べてみましょう。

2.4.1 WINE

早稲田大学の OPAC、^{ワイン}WINEです¹⁾。使い方は KOSMOS-OPAC と酷似しています。早稲田大学の図書館は、慶應義塾の図書館と同じように利用でき、コピーを取り寄せても 1 枚 10 円で済むので、利用してみる価値はあるでしょう。

2.4.2 東京大学蔵書検索

東京大学の OPAC です²⁾。WINE や KOSMOS-OPAC より若干使い勝手がいいシステムです。内容に簡略な説明を加えてある「コンテンツデータベース」と連動しているのが魅力的です。また i-mode 版もありますので、授業中に書誌を示したくても忘れてしまった場合などに有用です。

2.4.3 NACSIS-Webcat

国立情報学研究所が運営する各大学の蔵書を横断的に検索できる Webcat システム³⁾。検索機能は各図書館独自の検索システムより劣りますが、国内の数多くの図書館と大英図書館、オックスフォード、ケンブリッジの図書館など⁴⁾を一気に検索できるのが強みです。

実際には文献を手に入れる段階で、その強みが発揮されます。ただし国立国会図書館、早稲田大学の蔵書は検索できないので注意が必要です。

2.4.4 World Cat

全世界の書籍とその所蔵情報を検索することができます。所蔵情報量は億単位です。特に英語書籍はほぼ全て収められているといわれます。所蔵館は合衆国の図書館が中心となり、必ずしも慶應義塾図書館に文献を取り寄せられるとは限りませんので、レファレンス・カウンターに確認が必要です。

また、このデータベースは有料であり、インターネットに接続しているだけでは利用できません。慶應義塾設置のコンピュータから図書館の Web サイトのデータベース一覧⁵⁾にアクセスし、First Search というデータベースを選択します。その中の 1 データベースとして利用することができます。

¹⁾http://wine.wul.waseda.ac.jp/screens/mainmenu_jpn.html

²⁾<http://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

³⁾<http://webcat.nii.ac.jp/>

⁴⁾接続機関一覧：<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/BIN/sanka-kanan.cgi?>

⁵⁾<http://www.lib.mita.keio.ac.jp/db/web.html>

2.4.5 Library of Congress Online Catalogs

アメリカ議会図書館⁶⁾。世界最大の蔵書数とされています。洋書ならまず持っているのではないのでしょうか。検索機能も充実しています。

2.4.6 Bibliothèque nationale de France

フランスの国立図書館⁷⁾。フランス語書籍ならここです。

2.4.7 Deutsche Bibliothek

ドイツの国立図書館⁸⁾。ドイツ語書籍ならここです。

⁶⁾<http://catalog.loc.gov/>

⁷⁾<http://catalogue1.bnf.fr/catalogue.htm>

⁸⁾http://www.ddb.de/index_txt_e.htm

.....2.5.....

その他のオンライン雑誌目録を使う

国立国会図書館の「雑誌記事索引」以外で雑誌に掲載された論文を横断的に検索できるシステムを紹介します。イスラームに関して専門的に扱うものは第 2.6 節の書誌の使い方で説明します。

2.5.1 Magazine-Plus

Magazine-Plus は日外アソシエーツの運営する雑誌記事索引サービスです。実質的に NDL-OPAC の雑誌記事索引と同じですが、こちらは記念論文集（～退官記念とか）が検索できる点、月 2 回の更新のため最新の論文の登録は NDL-OPAC よりずっと速いという点が利点、1975 年以降の国内発行の雑誌に限られることが欠点となります。

Magazine-Plus は慶應義塾設置のコンピュータから使用することができます。図書館の Web サイトのデータベース一覧¹⁾から Magazine-Plus を選択して利用します。

使用方法是特に難しくありませんので、OPAC の項で説明したキーワードの選び方などを考えて、検索してください。

2.5.2 First Search

米 Online Computer Library Center: OCLC が提供するシステムです。複数の専門分野データベースから最大 3 つのデータベースを選択し、横断的に論文を選択できます。対象は欧文論文に限ります。歴史では *Arts & Humanities Search* や *Humanities abstract* を使用する機会が多いでしょう。双方ともおおむね 1980 年以降の雑誌記事を検索することができます。更新は頻繁で最新のものを見つけることができます。

利用は Magazine-Plus と同じく慶應義塾設置のコンピュータからとなります。図書館の Web サイトのデータベース一覧²⁾から First Search を選択して利用します。

¹⁾<http://www.lib.mita.keio.ac.jp/db/web.html>

²⁾<http://www.lib.mita.keio.ac.jp/db/web.html>

……2.6……

書誌を使う

文献目録の親玉のようなものを書誌と言います。特に解題のついている文献目録は、非常に役に立ちます。

2.6.1 解題付き

三浦徹・東長靖・黒木英充編『イスラーム研究ハンドブック』（講座イスラーム世界別巻）、栄光教育文化研究所,1995. ISBN: 4897110017

本書は、イスラーム研究に関わる工具類、文献紹介、語彙集、年表、地図などを備えた総合的なハンドブックです。この本を参照するとしないとでは、ずいぶん文献の広がり印象が変わるでしょう。一冊持っておくとよいように思います。なお、文献紹介の項目は以下の通りです。

東長靖編：道具類；小田淑子：コーラン・ハディース；柳橋博之：法学；東長靖：スーフィズム；鎌田繁：シーア派等諸派；塩尻和子：神学；小林春夫：哲学；飯塚正人：政治思想；黒木英充：東方キリスト教；藤井悦子：ユダヤ教；私市正年：マグリブ・アンダルス（前近代）；小山田紀子：マグリブ（近現代）；清水和裕：マシュリク（前近代 11世紀以前）；長谷部史彦：マシュリク（前近代 12世紀～18世紀）；黒木英充：マシュリク（近現代 シリア・イラク）；長沢栄治：マシュリク（近現代 エジプト・スーダン）；福田安志：マシュリク（近現代 アラビア半島）；羽田正：イラン（前近代）；小牧昌平：イラン（近現代）；三沢伸生：トルコ（前近代）；新井政美：トルコ（近現代）；久保一之：中央アジア（前近代）；宇山智彦：中央アジア（近現代）；日野舜也：東アフリカ；嶋田義仁：西アフリカ；小名康之：インド（前近代）；内藤雅雄：インド（近現代）；弘末雅士：東南アジア；片岡一忠：中国；家島彦一：地域間コミュニケーション；宮田律：国際政治におけるイスラーム；岡野内正：国際経済とイスラーム；白杵陽：パレスティナ問題；小杉泰：イスラーム復興運動；吉村慎太郎：マイノリティ・エスニシティ問題；加藤博：経済と社会：社会経済史から；堀内正樹：社会と文化：社会人類学から；大稔哲也：「聖者」と「聖者崇拜」；三浦徹：ウラマー；林佳世子：ワクフ；宮治美江子：女性；加納弘勝：社会分析の視点；杉田英明：アラブ文学；藤井守男：ペルシア文学；勝田茂：トルコ文学；麻田豊：ウルドゥー文学；中原道子：マレー文学；ヤマンラール・水野美奈子：美術；山田幸正：建築；水野信男：音楽；高野晶弘：映画・演劇；鈴木孝典：科学・技術；保坂修司：コンピュータ・ネットワークとイスラーム研究

『アジア歴史研究入門4 内陸アジア・西アジア』同朋舎出版,1984. ISBN: 4810403696

日本語で先行研究を知るために使うのが『イスラーム研究ハンドブック』であるとすれば、こちらは研究とともに史料を知るのに非常に有用です。かなり古くなっているとはいえ、日本語で網羅的な史料紹介をしている書物は、いまだ本書しかありません。ただしそれぞれの項とも全て前近代だけです。

- 間野英二：トルキスタン
- 佐藤次高：イスラーム総論（文献解題・工具類・概説書・雑誌）
- 森本公誠：アラブ（前期）

2.6. 書誌を使う

- 佐藤次高：アラブ（後期）
- 本田實信：イラン
- 濱田正美：トルコ

「回顧と展望」『史学雑誌』1892-. ISSN: 00182478

東京大学の史学雑誌五月号には、毎年 of 歴史学界の動向について「回顧と展望」と題して評論がのります。したがって、古い方から順番にこれを読むとおおむねの研究動向が分かるわけです。地域別、時代別のそれぞれの分野について、その当時の若手～中堅の研究者が執筆しています。図書館2階の西閲覧室（つまり中庭側）の大学紀要コーナー中「東京大学」の項にあります。

なお、1985年分までについては史学会編『日本歴史学会の回顧と展望 10 西アジア・北アフリカ 1949-1985』山川出版社,1988. ISBN: 4634311003 でまとめられています。

『世界各国史』山川出版社 ISBN: 4634413809

各巻巻末の文献紹介は、かなりしっかりしていますが、膨大に紹介するというわけでもないので、的確に読むべき本を見つけるには有用です。

2.6.2 解題なし

Index Islamicus,1958- ISSN: 13600982

1958年にまとめられた文献目録。その後、逐次最新の研究をまとめて目録化、発行するようになりました。イスラーム研究上、最大の文献目録です。現在は年四回発行。時代、地域ごとに発表された論文が欧文を中心に掲載されています。三田メディアセンターでは、メインカウンター前の階段を下りた地下1階の正面一番右側の棚、その左の方にあります。製本される前のものは、かなりどぎつい緑色なのですぐわかるでしょう。

1995年分までをまとめたCD-ROMが出されており、1階レファレンスカウンターで、「Index IslamicusのCD-ROMを貸して」といえば、貸してくれます（開館～17時50分まで）。全てを書籍で調べるには、とんでもない労力が必要なので、CD-ROMを使うのが賢いといえるでしょう。ただし、検索用のアプリケーションは賢くありません。一覧表の状態で印刷しても表題が切れ切れになったりして役に立ちません。フロッピーディスクをもちこみ、テキスト形式で保存した上で、Excelなりで編集して使うのが実用的です。

ユネスコ東アジア文化研究センター編『日本における中東・イスラーム研究文献目録 1868年-1988年』全2巻,1992. ISBN: 4896563344

ユネスコ東アジア文化研究センター編『日本における中央アジア研究文献目録 1879年-1987年3月』全2巻,1988. ISBN: 4896563271

表題年号までの日本で発表された全ての研究が掲載されています。和文での論文を知りたいければ、まずは本書にあたるのが確実です。若干古くなっているのは否めませんが、東洋文庫で「日本における中東・イスラーム研究文献目録の検索」¹⁾と「中央アジア研究文献目録の検索」²⁾として、その後のデータを追加したデータベースをオンラインで公開しています。これを利用するとよいでしょう。

¹⁾http://61.197.194.9/Database/CA_ISLM_QueryInput.html: 2003年12月12日更新・冊子に比べ10000件追加

²⁾<http://www.toyo-bunko.or.jp/ceacs/CentralAsia.html>: 2003年2月20日更新・冊子に比べ7341件追加

但し、1988年以降のものについては、必ずしも入力されているわけではありません³⁾。また、入力されていても、入力やインデクサイズの不備により、全てのキーワードで必ずヒットするというものではありませんので、いくつかキーワードを変えながら検索するとよいでしょう。

「イスラーム関係新刊書リスト」「最新主要欧文論文」『イスラーム世界』[三田所蔵：三階東]

イスラーム関係で発表された最新の欧文論文を雑誌別に、イスラームおよびイスラーム世界に関連して出版された日本語の書籍、論文を地域、テーマ別に一覧できます。日本語の書籍の出版情報はなかなかないので、これを参照するとよいでしょう。1993年の第41号から設けられました。

「第6章 論集イスラーム関連題目一覧」

日本語論文の場合、雑誌に掲載された論文についてはNDL-OPACやMagazine-Plusで調べることができます。また、論集（たとえば『岩波講座 世界歴史』）や単行本に収められている論文でも、上記にあげた東洋文庫の「日本における中東・イスラーム研究文献目録」で調べることが出来ます。しかし東洋文庫のデータベースは、新しい論集などに含まれる論文を必ずしも網羅していません。そうすると芋づる式に調べるか、偶然目にしていない限り、たどりつくことができません。それを補うために論集所収の論文題目一覧を作成しました。かなり抜けはありますが、ないよりはましでしょう。

³⁾ ユネスコ東アジア文化研究センターの廃止により更新は停止された模様です。また、このデータベースが今後維持されるのかも不明です。

……2.7……

参考文献を芋づる

ここまで、長々と OPAC や書誌などのいろいろな使い方を説明してきました。しかしながら、文献目録のようなものは、その性格上、網羅的であって、個別的ではありません。したがってテーマを細かく絞れば絞るほど、目録などから関連文献を見つける困難さの度合いは増してゆきます。

2.7.1 引用註の利用

そのような時は、どうするのか。ここで学術論文という体裁が生きてくるのです。学術論文は、原則として、誰かの何らかの成果によってわかったことに言及する箇所には、註をつけて、何を根拠にそんなことをいっているかの情報源を示すことになっています。ですから、自分のテーマにぴったりの論文が見つからなくても、関連する論文をいくつか読んで、註に示された文献を次々にあたってゆくことによって、ぴったりの論文や、あるいは原典にたどりつくことができるのです。たとえば、ある論文で一行しか言及していないことでも、そこに註がついていて、文献が示されていれば、さきに見た論文の一行を導くために、註に示された文献では数十頁を費やしているかもしれません。そしてその数十頁には、これまた註が山ほど付けられているでしょう。

以上をふまえれば、文献目録をいくらか調べて、テーマにぴったりの論文が見つからなければ、それを文献目録などだけから、血眼になって探すのはあまり効率のよいことではないことがわかります。目録から探すと同時に、文献を芋づっていくことが、関連文献を探すスタイルとして推奨されます。

2.7.2 概説から

まずは、目録などから、ある中くらいのテーマに関する概説的な論文を見つけることです。そしてその概説についている註から、次の文献に当たり、さらにその註から、さらに次の文献を見つける、言うなれば文献の連鎖を辿ることによって、目指すテーマに直接関わる論文にたどり着くことが出来るでしょう。

たとえば「イラン立憲革命期のテヘランでのカーヌーン紙の流通状況」について知りたければ、書誌を検索すると同時に、イラン近代史の概説論文を見つけ、それを読んで、新聞について言及した箇所を探します。そしてその部分につけられた註から「イラン新聞史」に関わる論文を見つけます。そして、その「イラン新聞史」に関わる論文に、目指すテーマについて直接書かれているかもしれません。あるいは個々の新聞へ言及した論文についての註が付いていて、その中に「カーヌーン紙」に関する論文があるかもしれません。

また、似たような時代、地域の論文をいくつか読んで、必ず言及されている論文があるようなことがあります。それは、言及された論文が重要な研究であるということを示しています。自然科学の世界では、引用の回数で論文の重要性が決定される指標にもなっています。そのようなことにも注意してください。

2.7.3 研究史から

また「研究史」というジャンルの論文があります。このような論文は、特定のテーマについて、これまでの研究がどのように展開してきたかを整理しています。すなわち、特定のテーマに関わる「解題付き書誌」のようなものですから、ぜひ利用すべきです。このような論文を利用することで、自分の疑問は解決しているのか、あるいは現在最新の研究の関心はどこにあるのか、がわかります。

.....2.8.....

最後は Web にする

世の中にはテーマが細かすぎて、ぴったりのものが出てこないことがよくあります。これは、単に史料がないだけかもしれません。しかし一方で、単行本の場合に最低限の商業ベースにも乗らなかった、あるいは論文の場合、きちんとした研究者がそのテーマに関心を抱かなかった、などの理由が考えられます。しかし世界は広いもので、まったく別の仕事をしている「在野の学」ともいうべき人が Web で論文を発表していたり、あるいは学生や研究者が Web で研究ノートなどを公開しているかもしれません。そのようなリソースが利用できることも知っておくべきです。

Web で公開されているということは、全文が電子化されていることを意味します。したがって、Web で公開された情報は、Web 上をおよぎまわる検索エンジンのロボットに、文中に含まれる一語まで拾われます。そして我々は、その情報を検索サイトから調べることができます。

検索エンジンの中でも特に優秀なのが、Google¹⁾です。ロボット型の検索サイトはどれでも、ある語で検索すると、その語が含まれるリソースを表示します。Google では、さらに表示するリソースを、見出し中に検索語が含まれたか、本文中に検索語が何回出現したか、あるいは研究機関など重要なサイトからリンクされているか、などを総合的に勘案して、重要そうな順に表示してくれます。表示されたそれらの情報を一つ一つみていけばよいでしょう。その中でも特に.edu や.ac などのドメインに含まれるリソースであれば、若干は信用がおけます。論文体裁のものがあって、なにか文献を見つけることができれば、しめたものです。

ただし、それらのリソースを 100%信用してはなりません。論文が学術雑誌に掲載されているということは、専門家のそれなりのジャッジを経て掲載されているので、信用できるものだということなのです。ですから、Web 上で集めた情報は、関連文献を見つけるためのもの、と割り切るのが吉です。信用できないリソースにもとづいた論文は、やはり信用できないものとなってしまいうからです。

100%信用できないということは、過渡的な現象です。Semantic Web の理想が徐々に実現すれば、信用してよい指標も現れることと思います。現に電子工学や通信工学の世界では、紙ではなく Web 上のリソースをオリジナルとする場合も出てきています。

¹⁾<http://www.google.com/>

.....2.9.....

気合いで聞く

さて、本当に最後の手段、気合いで聞く、です。実は一番手っ取り早いのですが、あまりに多用するとただの「教えて君」だと思われるから、一応は上記の手順を踏んだ上で、実行すべきオプションです。

まず、第一に聞くべき相手は、図書館のレファレンス係の人です。それぞれ専門があるので当たりはずれはありますが、時々信じられないほど親切かつ博識で、まったく思いもつかなかった文献を教えてくれることがあります。逆に、こちらも知っているようなことしか教えてくれないこともあります。そのような時は、日を変えて再度アタックしてみましょう。

そして、とりあえず先生に聞いてみる、というのは正しい判断です。先生は、そのためにもいるのですから。そうすれば、何らかのヒントはいただけると思います。そこからまた自分でがんばるということです。

やたらと込み入った話で、専門としている人に聞きたい、ということがあるかもしれません。そのような時は、別の大学の先生などに聞いてみることになるでしょう。面識があれば、まだましですが、知らないことのほうが多いでしょう。大学院生はいろいろな研究会に出ていたりして、いろいろな研究者を知っています。とりあえず院生に聞いてみましょう。そうすれば何らかのアクセス方法を教えてくれるかもしれません。もしかしたら院生自身が聞きたいことに関して知識を持っているかもしれません。これは湯川先生でも同じです。とにかく礼を尽くして、伺いを立てることです。

あるいは Web で検索すれば、専門家が自分の Web サイトを持っていて、メールアドレスを公開しているかもしれません。質問が歓迎されるかどうかはその人次第ですが、電子メールで質問するという手段もないわけではありません。しかし、軽く調べてわかるようなことを質問してはいけません。電子メールを出すということだけで、たとえわずかでも相手の時間を自分に割かせているということは自覚しておくべきです。もし質問に答えてくれても、それはボランティアなのです。

またインターネット上には、ニュースグループというオープンなメーリングリストのような存在もあります。日本語のものではたいしたものはありませんが、英語では著名な研究者も投稿しているようなニュースグループもあります。そのようなグループに参加して質問を投げしてみるのも手です。この場合に注意すべき事は、過去ログをきちんと読んで似たような質問がなかったかも調べておくこと、そして、質問するだけして消滅してはいけないということです。ニュースグループの原則は Give&Take です。自分も何らかのかたちで、他の参加者に利益を還元するようにならなければなりません。詳細は書きません。自分で調べてください。Google で「newsgroup "islamic history"」などとすれば、いくつか出てくることでしょう。ただくれぐれも護教論を展開するためのグループか、研究が目的のグループかは注意するようにしてください。

……2.10……

本書の価値は——書評を知る

論文には、「書評論文」というジャンルがあります。これはある書物について、その位置づけ、意義などを論文にしたものです。専門家が執筆するきちんとした論文ですから、手にした書物やこれから読んでみようという書物に書評論文があるなら、とりあえず読んでみるのがよいでしょう。

たまたま手に取った本だったけれど、それを参考文献リストに載せただけで馬鹿にされる、というような本もないわけではないのです。そのようなものをわざわざ評する人はあまりいないでしょうが、私たちが読んでいるときに、あまりに淡々と書いてあるので見過ごしてしまったけれど、専門家が読めば重大な新解釈だったりするようなことがあるかもしれないわけです。書評論文はそのことを教えてくれます。

書評論文は結構よく出ますので、Magazine-Plusなどで「書評」という語もキーワードとして検索してみるとよいでしょう。日本の新聞の書評などは、感想文に毛の生えたようなもので、本を読んだ後に読んでもあまり意味のないものが多いのですが、欧文の新聞の場合は、役に立つ書評などがよく出ます。書評の見つけ方を自分で勉強してみてください。

また Web 上にも日本中東学会（イスラーム地域研究第5班にあったやつが復活）の「文献短評」¹⁾や京都大学大学院アジア・アフリカ研究科東南アジア専攻連環地域論講座の「サイバー図書室」²⁾などがあります。こんなにまとまって読めて、かつ信頼の置けるものはないので、ぜひ参照してください。

¹⁾<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/books/book.html>: 新刊書の書評など。院生や研究者が書いてます

²⁾<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/renkan/library/chosha50on-j.html>

3

文献への言及——註をつける・リストを作る

関連して文献があるのか？

何を根拠にそんなことを言っているのか？

見る人にもわかってもらうための共通ルールがあります。逆に言えば、そのルールに従っていれば、ある資料を特定することができます。本章では資料を特定するための書き方、ルールを説明します。なお、ここで述べるのは歴史学での一般的な方法であって、社会学や法学、政治学ではまた別のやり方もあることは覚えておいてください。また一般的によくお目にかかるレベルでの書き方しか解説していません。特殊な場合は参考文献を参照してください。

……3.1……

概論

自分のテーマにとって参考になりそうな文献をリストアップして、徐々に読んでゆくということは、研究の入口ともいえるものでしょう。しかし、このリストアップの際にも作法があり、一定の形式で文献の情報を記述しなければなりません。

また先学の知見を論文やレポート内で利用したときには、その知見の出所を必ず記さねばなりません。イスラーム史の周辺では本文の当該箇所に註をつけ、引用註として文献の情報を記述します。

本章では、まず脚注での文献情報の記述の方法を説明したあと、文献リストでの書式について簡略に説明します。より詳しいことは、桜井雅夫『レポート・論文の書き方 上級』慶應義塾大学出版会, 1999. などが非常に詳細です。ただし法学系をターゲットとしているため、やや方法が違うということも付記しておきます。

- ❖ 歴史学での文献情報表示の方法は、きわめて原始的なので、あまり細かい点までこだわる必要はありません。文献リストと引用註が連動していないということが最大の特徴といえます。しかし、別の分野のレポートなどでは、それなりの形式が要求されることがあるので注意した方がよいでしょう。自然科学や社会科学の諸分野では文献リストと引用註が連動するのが一般的です。たとえば自然科学では文献リストの各文献に番号を付し、註にせず本文内に番号のみを表示するのが一般的ですし、社会学では著者名と年代のみを本文内に記すのが一般的です。これらの方法については上記の桜井雅夫『レポート・論文の書き方 上級』慶應義塾大学出版会, 1999. や *The Chicago Manual of Style*, 14th ed. Chicago, 1993. および科学技術庁『参照文献の書き方』（科学技術情報流通技術基準, 02）：SIST 02を参照してください。

……3.2……

和書の場合

きわめて単純なルールです。書物の奥付を見れば、必要な情報はそろわずです。

3.2.1 基本

次のパターンが基本です。気をつける点は二重鍵括弧『』を使うということと、「著」は必要ないということです。慣れれば特に何ということはありません。出版年は大幅な改版が施されていない限り、初版年で構いません。

著者『書名』出版社, 出版年.

これが実際の論文の註では、参照したページを次のように加えます。

著者『書名』出版社, 出版年, p.xxx.
著者『書名』出版社, 出版年, xxx 頁.

一般的には前者ですが、縦書きの場合に後者が使われることがあります。複数のページにまたがる場合は次のように書きます。

著者『書名』出版社, 出版年, pp.xxx-yyy.
著者『書名』出版社, 出版年, xxx – yyy 頁.

それから著者が複数いる場合もあります。普通はそれを全て挙げます。もし煩雑になりすぎるようなら5人以上の場合について、代表ひとりを挙げて「ほか」などとすることができます。

著者1, 著者2, 著者3『書名』出版社, 出版年.
著者1 ほか『書名』出版社, 出版年.

3.2.2 応用

応用と言ってもたいしたことはありませんが。

副題

副題は普通倍角ダッシュでつながります。ただし副題は必ずしも示す必要はありません。

著者『書名——副題』出版社, 出版年.

編者がいる本

編者編『書名』出版社, 出版年.

この場合は、著者が複数（多数）いることは前提ですので著者はいれる必要はありません。また編者が複数いる場合は、著者が複数いる場合に準じます。

編者1, 編者2, 編者3 編『書名』出版社, 出版年.
編者1 ほか編『書名』出版社, 出版年.

訳書

著者（訳者訳）『書名』出版社, 出版年.

ファースト、ミドルはイニシャルで略して構いません。

ブライアン S. ターナー（香西純一, 筑紫建彦, 樋口辰雄訳）『ウェーバーとイスラーム』第三書館, 1994.
E. I. ローゼンタール（福島保夫訳）『中世イスラムの政治思想』みすず書房, 1971.

聖典などの場合は見解が分かれます（著者の場所にムハンマドと書くわけにも行かず、アッラーとも書くわけにもいかず）が、概ね次のような形が一般的なようです。

井筒俊彦訳『コーラン（上）』岩波書店（岩波文庫）, 1978.

シリーズ物・巻数

著者『書名』（シリーズ名と巻数）出版社, 出版年.

たとえば次のようになります。

3.2. 和書の場合

山内昌之『近代イスラームの挑戦』（世界の歴史 20）中央公論社, 1998.

なお、文庫や新書、双書、叢書をシリーズと考え、上記の規則に従う場合もありますが、一般的には出版社のあとにカッコをつけて示すことが多いようです。

桜井啓子『現代イラン——神の国の変貌』（岩波新書新赤版 742）岩波書店, 2001.
桜井啓子『現代イラン——神の国の変貌』岩波書店（岩波新書）, 2001.

また数巻に渡る書物の場合は、次のように表記します。

著者『書名』全 x 巻, 出版社, 出版年.

そのうち一冊を特に示す場合は、書名に巻数を入れてしまって構いません。

ブハーリー（牧野信也訳）『ハディース』全 6 巻, 中央公論新社（中公文庫）, 2000-2002.
ブハーリー（牧野信也訳）『ハディース 3』中央公論新社（中公文庫）, 2001.

.....3.3.....

洋書の場合

3.3.1 基本

洋書の場合は、和書とはかなりおもむきが違います。注意点は、書名は二重鍵ではなくイタリックで示すこと¹⁾と、出版社ではなく出版地で構わないことです。著者のファミリーネームが最初に来るのは和書と同じです。

- Author's name, *Title of the Book*, Place, Year.
- Author's name, *Title of the Book*, Place(Publisher), Year.
- Author's name, *Title of the Book*, Publisher, Year.

具体例を挙げると次のようになります。

H. A. R. Gibb, *Studies on the Civilization of Islam*, London, 1962.

手書き場合や、イタリックが使えない場合は、書名のイタリックはアンダーライン（下線）で代用できます。

H. A. R. Gibb, Studies on the Civilization of Islam, London, 1962.

3.3.2 応用

副題

副題は普通コロンのつなぎます。ただし必ずしも副題を示す必要はありません。

Author's name, *Title of the Book: Subtitle of the Book*, Place, Year.

編者

編者がいる場合には、(ed.) を加えます。カッコは記載しない場合もあります。編者複数の場合は (eds.) になり、また編者多数の場合は一人を挙げて et al.(eds.) とします。

¹⁾Microsoft Word を用いてレポートなどを作成する場合には注意すべきことがあります。Word ではデフォルトの欧文フォントが Century になっていますが、Windows 付属の Century はイタリックの字形を持っていません。そのためイタリック *Italic* にしようとしても斜体 *slanted* で代用されてしまいます。これを避けるために欧文フォントには「ファミリー」－「ページの設定」－「フォント」で Times New Roman などをデフォルトに設定します。

3.3. 洋書の場合

Editor's name (ed.), *Title of the Book*, Place, Year.

Editor's name 1, and Editor's name2(eds.), *Title of the Book*, Place, Year.

Editor's name 1, et al.(eds.), *Title of the Book*, Place, Year.

シリーズ物・巻数

巻数や全巻数を示す必要がある場合は次のようにします。

Editor's name (ed.), *Title of the Book*, X vols., Place, Year.

Editor's name (ed.), *Title of the Book*, Vol.X, Place, Year.

各巻に書名がついている場合は、巻数が間に入ります。

Editor's name (ed.), *Title of the Series*, Vol.X., *Title of the Book*, Year.

叢書名を示す必要があるときは、末尾にカッコを付して示します。

Editor's name (ed.), *Title of the Book*, Place, Year, (title of the Series).

……3.4……

和文論文の場合

3.4.1 単行本所収の論文

単行本所収の場合は、和書のパターンの前に論文著者と論文題目が挿入されます。従って基本的には以下ようになります。

論文著者「論文題目」編者編『書名』出版社, 出版年.

単行本部分は、和書の場合に従って応用を利かせてください。

3.4.2 雑誌所収の論文

雑誌の場合、以下ようになります。出版社のかわりに巻号が入ります。

論文著者「論文題目」『雑誌名』巻号, 出版年.

巻号はどっかに書いてありますから見つけてください。巻と号はハイフンでつなぐ場合と、x 巻 y 号と表記する場合があります。

黒木英充「都市騒乱に見る社会関係：アレppo、1819-20 年」『日本中東学会年報』3-1, 1988.
黒木英充「都市騒乱に見る社会関係：アレppo、1819-20 年」『日本中東学会年報』3 巻 1 号, 1988.

また大学紀要の場合、タイトルが重なることがあります（たとえば『法学研究』とか）。そのような場合は、紀要のタイトルのあとにカッコをつけて発行大学を示します。

久保文明「アメリカの環境保護政策決定過程における専門能力・運動・制度——公害未然防止法の場合——」『法学研究』（慶應義塾大学）68-2, 1995.

……3.5……

欧文論文の場合

3.5.1 単行本所収の論文

和文論文とパターンは同様です。つまり洋書のパターンの前に論文著者と論文題目が挿入されます。

Author's name of the Article, "Title of the Article", Editor's name (ed.), *Title of the Book*, Place, Year.

3.5.2 雑誌所収の論文

これまた和文論文の場合と同様です。論題はダブルクォーテーションでくくります。

Author's name of the Article, "Title of the Article", *Title of the Journal*, Volume number-Issue's number, Year.

なお有名どころの雑誌は頭字語として書かれることがあります。下の例の IJMES とは *International Journal of Middle Eastern Studies* の略です。この場合は前もって IJMES が何の略かを示しておく必要があります。

B. H. S. Gray, "Slavery of Early Ottoman Empire 1388-1412", *IJMES*, 144-6, 1998.

……3.6……

新聞、辞典など

この辺になるとかなり人によって差が出てくるのですが、ある程度一般的と思われる方法を示します。

3.6.1 新聞

新聞の場合は、新聞名を書名に見立てます。題名のあとの発行地は省略しても構いませんが、Times や Tribune などの場合は、あちらこちらの都市に別の新聞があったりするので、入れておいたほうが親切です。

『新聞名』（発行地）発行年.
Title of the Newspaper(Place), Year.

実際には次のようになります。

『慶應塾生新聞』（東京）1969-.
International Herald Tribune (Paris), 1887-.

3.6.2 新聞記事

ある記事について言及する際は次のようになります。版、面は必ずしも添えなければいけないわけではありません。しかし、たとえば朝日新聞の東京第7版と東京第13版でかなり内容が違ふことがあります。また、アメリカの新聞の日曜版のように驚異的な厚さを誇る新聞もあります。したがって、版や面はわかれば添えておくのが親切です。なお、一般的な雑誌もこの形式で構いません。

『新聞名』（発行地）発行日付、版、面.
Title of the Newspaper(Place), Date, Issue's number, Page.

著者名などが分かる場合は、雑誌論文に準じます。

著者「記事題目」『新聞名』（発行地）発行日付、版、面.
Author's name of the Article, "Title of the Article", Title of the Newspaper(Place), Date, Issue's number, Page.

3.6. 新聞、辞典など

3.6.3 辞典、事典

辞典全体について言及する場合は、一般の書籍と異なりません。辞典の記事について言及する場合は、まず項目執筆者がわかる場合には、項目名を論題に見立てて、単行本に収められた論文と同じような扱いをします。

E. Tyan, “‘adl”, C. E. Bosworth et al.(eds.), *The Encyclopædia of Islam*, Vol.3, new ed., Leiden, 1960, pp.421-3.

3.6.4 アラビア文字は転写する

私たちの扱う地域では、アラビア文字が使われていることが多いでしょう（アラビア語、ペルシア語、オスマン＝トルコ語、ウルドゥー語など）。中国語やキリル文字、ハングルなどは転写しなくていいのですが、なぜかアラビア文字は転写することになっています。転写を間違えると、まったく違う人や言葉になる可能性があるので注意しましょう。また、独自の転写法を発明すると、参照する人が混乱します。なんらかの標準に従うべきでしょう。

日本での転写法で標準的なのは、アメリカ議会図書館の方式 ALA-LC:1997¹⁾ 準拠です。『新イスラム事典』の巻頭などに方法が載っています。これは一部を除いて *The Encyclopædia of Islam* の方式とも共通しています。表 3.6.1 の 2 の欄がこれにあたります。

もう一つ標準的な転写法としてドイツ東洋学会方式があります。これは表 3.6.1 の 1 の欄です。さらにペルシア語について *Encyclopædia Iranica* で用いられている 2 つの方式を表 3.6.1 の 3 と 4 の欄に示しました。転写にはさまざまな規則がありますので、上に掲げた LC のマニュアルなどをよく参照してください。

●表 3.6.1 標準アラビア・ペルシア転写文字

字	1	2	3	4	字	1	2	3	4	字	1	2	3	4
ا	a	a	a	a	ب	b	b	b	b	پ	p	p	p	p
ت	t	t	t	t	ث	t̤	th	s	s	ج	ǧ	j	ǰ	ǰ
چ	č	ch	č	č	ح	ḥ	ḥ	ḥ	ḥ	خ	ḫ	kh	k	x
د	d	d	d	d	ذ	d̤	dh	z	z	ر	r	r	r	r
ز	z	z	z	z	ژ	ž	zh	ž	ž	س	s	s	s	s
ش	š	sh	š	š	ص	ṣ	ṣ	ṣ	ṣ	ض	ḍ	ḍ	ẓ	ẓ
ط	ṭ	ṭ	ṭ	ṭ	ظ	ẓ	ẓ	ẓ	ẓ	ع	ʿ	ʿ	ʿ	ʿ
غ	ḡ	gh	ḡ	ḡ	ف	f	f	f	f	ق	q	q	q	q
ك	k	k	k	k	گ	g	g	g	g	ل	l	l	l	l
م	m	m	m	m	ن	n	n	n	n	ه	h	h	h	h
و	w	w	v	v	ي	y	y	y	y					

¹⁾<http://lcweb.loc.gov/catdir/cpsd/romanization/arabic.pdf>

……3.7……

文献リストをつくる

ここまで述べてきたことは、はじめに書いたように歴史学における引用文献の示し方です。それは脚注による文献の提示でした。しかしながら、引用文献を示す方法は文末にまとめて文献リストを作り、番号や著者名と出版年をラベルとして本文中に提示するのが一般的です。文献リストでの情報の提示方法は、ここまで述べてきた脚注による提示方法とは若干異なったリストアップの仕方をしますので注意してください。具体的には、著者の次に出版年のみを抜き出して入れます。また、きちんと行揃えができるようなら、コンマを省略して構いません。

著者 出版年 『書名』, 出版社.

ある著者に同一出版年の著書がある場合は、なんらかの方法で配列し、年号のあとに [a-z] の記号を付して示します。

加藤博 1993a 「イスラム政治における公正と秩序——中心なき政治原理」『一橋論叢』114-4.
加藤博 1993b 『文明としてのイスラム——多元社会叙述の試み』東京大学出版会.

このようなリストを作っている場合は、本文中での文献に関する説明は、ここまで説明してきたような方法をとることなく、[加藤 1993a pp.100-113] のような形で示すことができます。

4

関連文献を手に入れ、読む

読みたい文献が見つかったら、探してみましょう。一般的な書籍ならば、まず間違いなく本塾図書館で所蔵しているでしょう。しかしながら、雑誌論文になったり、史料となったりするとかなりおぼつかなくなってきます。それを手に入れるための方法を以下で説明します。

……4.1……

探す前に

文献を探す前に、探すために必要なことを確認しておきます。著者、題目、書籍（雑誌）名、出版年などの基本的な書誌情報は、必ず押さえておいてください。

さらに、実際の所蔵確認などで非常に有用なのが、ISBN や ISSN などのコードです。これらのコードは、各書籍、各雑誌について全世界で一意的なものが用いられます。はやり話が著者名がわからなくても ISBN さえ分かれば、書籍を特定できるということです。NDL-OPAC や Magazine-Plus などで調べれば論文が掲載された雑誌名とともに、その雑誌の ISSN コードも表示されます。これを控えておいてください。ISBN や ISSN がわかると、検索が非常に楽になりますし、ILL（図書館相互貸借）などの際にも、連絡が非常に速くなります。

なお、三田メディアセンターの用意してくれている「図書の探し方フローチャート」¹⁾は一部を除き非常によくできています。まずは、これをチェックです。

¹⁾ http://www.mita.lib.keio.ac.jp/pdf/chart_book.pdf

.....4.2.....

うちにあるか？ あれば幸せ

一般的な和書・洋書であれば、まず当たるべきは、KOSMOS-OPAC です。それで出てくれば何の問題もありません。ISSN や ISBN が分かるなら、「キーワード検索」で ISSN や ISBN を指定して検索してください。一発で結果が表示されます。もし返却期限をすぎているのに貸出中なら、「オンラインリクエスト」¹⁾から予約しておきましょう。延滞者に連絡がいきます。なお、雑誌の場合は巻号に注意してください。必ずしも第一巻から所蔵しているわけではありませんし、途中で欠本がある場合もあります。

問題は「在架」なのに、目指す書籍がない場合です。とりあえず周囲を見回してみます。どこかに挟まっているかもしれません。なかったら、書棚の奥を見てみます。押し出されてひっくり返っているかもしれません。それでもなければ、誰かが閲覧席で見ているか、変な場所につこんでしまったかです。一日おきましょう。さらになければメインカウンターに申し出ます。探してくれるでしょう。欠本でなければ、おおむね二日以内にみつかりますが、見つからない場合は、次の特別整理まで待つことになるかもしれません。

さて KOSMOS-OPAC で出てこなかった場合です。KOSMOS-OPAC で出てこなくても本塾図書館で持っている可能性はあります。本塾図書館で所蔵していたとしても、必ずしも OPAC に記載されているわけではないからです。1961 年以前に受入の図書、アラビア語図書、漢籍などは OPAC には登録されていません（詳しくは「資料別収録状況」²⁾を参照してください）。

OPAC に登録されていないものについては、別の検索システムを使用するものと、カードで検索しなければならないものがあります。1961 年以前受入の和漢書、洋書とアラビア語図書などは、オンラインで検索できます。1961 年以前の和漢書は「旧分類和漢書検索」³⁾を、洋書は「旧分類洋書検索」⁴⁾を使用します。アラビア語図書の場合は「中国・朝鮮・アラビア・ロシア語資料検索」⁵⁾を使用します。ただし注意すべきは、この索引はアラビア語図書のみだということです。アラビア文字で記述されていても、ペルシア語やウルドゥー語の書籍は登録されていません。

オンラインで検索できないペルシア語などの書物は「冊子体蔵書目録」を調べてください。図書館に入ってすぐ、2 階への階段の下にあります。アルファベット順に、以前使われていたカードのコピーが記載されています。ただし、この目録で調べることができるのは、三田および白楽所蔵の資料だけであることに注意してください。なお、著者名などの読みは、ALC 方式で、ペルシア語は前近代音で記載されています。

塾内所蔵が確認できたら、図書館メインカウンターの ILL カウンターに行って、申込書に記入するか、オンライン予約を用います。2 日くらいで塾内便にのって三田に到着し、到着票が張り出されます。ILL は試験前後は使えないので注意してください。

なお OPAC は 2002 年夏に文字コードが UTF-8N に変更されました（内部コードまで Unicode かはしりませんが）。したがって、現在冊子体目録に収められている書籍や、別データベースになっているものも、入力がすみ次第、i18n された OPAC に統合されるものと思われます。

¹⁾<http://www.lib.mita.keio.ac.jp/online/index.html>

²⁾<http://catalog.lib.keio.ac.jp/shiryo.htm>

³⁾<http://catalog.lib.keio.ac.jp/obooks/washo/>

⁴⁾<http://catalog.lib.keio.ac.jp/obooks/yosho/>

⁵⁾<http://catalog.lib.keio.ac.jp/ckabooks/>

.....4.3.....

ない？　じゃ、どこにあるんだべ？

慶應内で見つからないと、事態は若干面倒になります。まずは早稲田大学の WINE¹⁾を調べてください。WINE の仕様は KOSMOS-OPAC とほとんど同じなので、使い方を読みながら使えば問題ないでしょう。早稲田にあれば、かなりマシな方です。

WINE で見つからないときは、すでに説明してある NACSIS-Webcat²⁾を用いて検索します。国内の多くの大学（早稲田は含まれません！）、および大英図書館やオックスブリッジなど一部の海外の図書館での所在が確認されます。

所在が確認できたら、自分がいくか、コピーを送ってもらうか、本そのものを送ってもらうかを考えます。その辺は次節以降を参照してください。

もし、NACSIS-Webcat でも見つからないとなると、かなりレアな資料だということになります。欧文資料ならまず Library of Congress³⁾が持っているでしょう。和文のものなら、国立国会図書館の NDL-OPAC⁴⁾を使ってください。イスラーム関連であれば、東洋文庫が持っているかもしれません。アラビア語やペルシア語の文献であれば、東大東文研／東京外大／東洋文庫の蔵書を横断的に検索できる「アラビア文字図書オンライン検索」⁵⁾システムを利用します。また、同時にアラビア語やペルシア語資料の所在目録などもありますから、そちらも調べてみます。

それでもだめなら、図書館のレファレンスに行って、なだめたり、すかしたり、ごり押ししたり、泣き落とししたりしながら、調べてもらいます（相手も慣れているので、その辺は経験が必要です）。場合によっては国外まで電話をして所蔵確認をしてくれることがあります。

それでも所蔵確認ができないことがあります。相手の図書館がいいかげんな所蔵確認しかないときなどがそれです。なんとなく、ここならある、という確信があるときは、まず慶應になくて相手先なら絶対にあるという適当な資料を見つけます。そして、それを口実に後述の紹介状を作ってもらって、直接相手先に出向き調べましょう。相手の図書館に入ってしまうと、こっちのもんです。

¹⁾http://wine.wul.waseda.ac.jp/screens/mainmenu_jpn.html

²⁾<http://webcat.nii.ac.jp/>

³⁾<http://catalog.loc.gov/>

⁴⁾<http://www.ndl.go.jp/jp/data/opac.html>

⁵⁾<http://www.toyo-bunko.or.jp/Database/ArabicDB.html>

.....4.4.....

電子ジャーナルからダウンロードする

2000 年を過ぎた頃からの電子ジャーナルの充実には目を見張るものがあります。イスラーム関連でも主要な欧文雑誌のうち、かなりのものが電子ジャーナルに収められるようになりました。

電子ジャーナルは出版された雑誌の版面を各論文ごとに電子化したもので、多くは PDF 形式でダウンロードすることができ、好きなときに印刷することができます。電子ジャーナルを用いれば、コピーする手間が省けますし、コンピュータに保存しておけば、大量の紙に悩まされることもなく、必要になったときに閲覧できます。

さらに三田の慶應義塾図書館にない場合、従来はコピーを依頼してその到着を待つしかありませんでしたが、電子ジャーナルに収められていれば、見たくなったときにすぐ見ることができます¹⁾。本節では以下、もっとも多く利用するであろう JSTOR を例にとって説明します。

1. まず慶應義塾図書館の電子ジャーナルサイト²⁾を開きます。三田図書館の WEB サイトトップの中ほど「電子ジャーナル検索」をクリックすれば行けます。注意事項を読んで、規約に同意してください。
2. 「慶應義塾大学 電子ジャーナル 検索」というページが開きます。このとき「検索」「一覧」「パッケージ別」とあります。ここからさまざまな方法で雑誌を見つけ、必要な論文に進みます。ここでは例として、検索欄に“Middle”と入力して検索してみます。
3. 関係のありそうなものがいくつか出てきます。このなかから International Journal for Middle Eastern Studies を選びます。
4. この雑誌のトップページが開きます。中程の“Search this Journal”をクリックします。
5. JSTOR Basic Search が開きます。JSTOR はさまざまな雑誌が収められたパッケージで、このパッケージに含まれる雑誌で、著者名、論題名、本文に含まれる単語などさまざまな語句を横断的に検索することができます。

上記の操作は一例です。何回か使用して、どんなパッケージがあるか、それぞれどのような使い方をするか練習してください。なお電子ジャーナルに収められるのは一般に雑誌刊行からある程度時間がたってからです。1 年以内の記事などは、まだ収められていないことが多いので注意してください。

¹⁾たとえば *Middle Eastern Journal* は日吉にしか収められていません。となると複写依頼するか自分で行くしかありませんでした。しかし電子ジャーナルがあるので、今では三田にいるままで見たいときに見ることができます。

²⁾<http://www.lib.mita.keio.ac.jp/db/confirmation.php?key=EJOPAC>

……4.5……

コピーや本を送ってもらう

所蔵確認ができれば、いよいよ文献を手に入れる段階です。これには、現物を送ってもらう方法と、コピーを送ってもらう方法があります。まず、コピーを送ってもらう方法について説明します。

4.5.1 コピーを送ってもらう

ある論文が、雑誌などの何頁から何頁まであるか分かっている場合などは、コピーを送ってもらうとよいでしょう。現物を送ってもらうと、目指す論文以外に用はないですし、自分でコピーするのが面倒くさいからです。

コピーをお願いする論文の書誌情報、すなわち掲載雑誌の誌名、ISSN、巻号、および論文著者、論文題目、掲載ページ数などを用意して、レファレンスカウンターに出向いてください。コピー代金は、国内の図書館の場合、おおむね一枚30円程度、これに送料がプラスされます。高いと見るか安いと見るかはあなた次第です。ただし早稲田の場合は特例で、コピーは一枚10円、送料は無料となります。慶應になくて早稲田にある場合は、コピーを自分でしなくてすむ上、料金は変わりませんから実質的にお得です。国内の大学であれば、概ね一週間以内には資料が届きます。

所蔵が海外の場合は、やっかいになります。NACSIS-Webcatでは、英国図書館などが検索されます。また自分でLCでの所蔵を確認する場合もあるでしょう。その上でレファレンスカウンターに出向くわけですが、基本的に英国図書館からのコピーを勧められることになります。私はよく覚えていませんが、英国図書館のコピーはあまり評判がよくなく、料金は高く時間がかかり、かつ劣悪という評判です。可能な限りLCを利用するほうがよいようです。海外の場合は、送料や為替などで料金がかかります。ちょっとした論文でも1000円はみるべきです。LCなら、はやければ約1週間で届きます。

4.5.2 本を送ってもらう

では、現物を送ってもらわなければならない場合とは、どのような場合でしょうか。

まず、本一冊丸々参照したいときです。著作権法により、本一冊全体の半分以上のコピーは禁じられています。したがって、本一冊全体を参照したいときは、現物が必要となります。

次に、ある本のどこに目指すことが書かれているのかわからない場合です。この場合も送ってもらうしかないでしょう。

レファレンスカウンターで申し込みするのは、コピーの場合と同様で、送料がかかるのも同様です。注意すべきは、現物を送ってもらうと基本的に館内閲覧のみで貸出はできない、ということです。ちょっと不便ですが致し方ないことでしょう。

.....4.6.....

紹介状を持って赴く

所蔵館に自分から出向く、という方法もあります。このような手段をとるのは、必要な文献をいますぐに欲しいとき、あるいは、まとめて見たい本を慶應が全く持っておらず、先方の図書館にたくさんあるときなどです。セルフコピーのほうが安いから自分でいく、という考え方もありますが、多くの場合、交通費のほうが高くつくと思います。

所属外の図書館に入るには、基本的に所属している機関の紹介状が一回ごとに必要となります。私たちの場合は、慶應義塾図書館発行の紹介状によって、身分を明らかにしなければなりません。レファレンスカウンターにいて、紹介状を書いてもらいます。この時、どのような資料が必要なのか、その資料を本塾が所蔵していないか、などの確認がされます。なお、東洋文庫は研究員ないしは専攻研究者の紹介状が必要です。湯川先生にお願いしましょう。

出向くには結構お金がかかりますので、所蔵情報をきちんと確認しましょう。東大の本郷にいったら、実は駒場が持っていた、などという事態は避けなければなりません。

第II部

資料

5

日本十進分類法 イスラーム関連 項目一覧

この文書は、湯川ゼミ学生のための基礎技術の付属書です。第二章で説明した日本十進分類法でのイスラーム史関連標目を一覧にしたものです。なお、本表の転載は、日本図書館協会の許可を受けたものです。

.....5.1.....

解説

本一覧表は、もり・きよし原編（日本図書館協会分類委員会改訂）『日本十進分類法』日本図書館協会、新訂9版、1995.に基づいて、イスラーム史に関連のあると思われる日本十進分類法上の細目を一覧したものです。完全な正しさは保証できません。

以下では、概ねの細目をあげてありますが、歴史以外の分野については、かなり簡略にしています。地理区分を併用してください。「*地理区分」という注記がある場所は、一般補助表 I-a 地理区分に記載されている番号を、当該分類番号に付加することができます。たとえば、「612: 農業史・事情」であれば、「-42: エジプト」を付加して、「612.42」で「エジプト農業史」とすることができます。ただし、「612.271」で「アフガニスタン農業史」とすべき本でも、「612.27」で「西南アジア農業史」と分類されている可能性はきわめて大です（もっとも、そんな本はほとんどないでしょう）。

本表の使用上、注意すべき事は、NDC 第9版準拠だということです。NDC 第9版では、西アジアの地理区分について大幅な見直しが行われました。これまで「-26:西南アジア [近東]」、「-28: アラブ諸国」と区分されていた地域が、「-27:西南アジア・中東 [近東]」に統合されています。たとえば「-263: イラン」は「-272: イラン」に、「-282: シリア」は「275: シリア」になっています。したがって、これまで「226.3」で分類されていた「イラン史」は「227.2」で分類されるようになりました。

慶應義塾図書館において、1996年以降受入の和書は確実にNDC 第9版で分類されていますが、それ以前は第8版に基づいています。分類による検索の際は、NDC9版準拠の番号とNDC8版準拠の番号を併用することが好ましいと思われます。NDC8版での分類も本文中に示してあります。NDC9版で追加された項目については「+」記号を分類番号に付してあります。以上をふまえた上で使用してください。

- 本表をじっと眺めれば、国民国家によって、書物を分類しようとするのがいかに難しいかわかるでしょう。もともとの「十進分類法」を見れば、イスラーム世界に関わる書物の分類が、ヨーロッパ諸国についての分類に比べ、いかに貧弱かもわかるでしょう。たとえば、美術などで、サラセン美術とイスラーム美術が別であり、イスラーム美術は宗教美術扱いされる、ということ。あるいは、エジプトとアラブ諸国を別に扱わざるを得ないということ、などです。このことを考えるだけでも本表を眺める意味はあります。

.....5.2.....

日本十進分類法関連項目一覧

5.2.1 1 類 哲学

100: 哲学

- 102: 哲学史
- 120: 東洋思想
 - 120.2: 東洋思想史<通史>
 - 129: その他のアジア・アラブ哲学
 - 129.3: その他のアジア諸国の哲学
 - 129.7+: アラビア近代哲学
- 130: 西洋哲学
 - 132: 中世哲学
 - 132.2: スコラ哲学
 - 132.28+: アラビア中世哲学
 - 132.29+: ユダヤ中世哲学

160: 宗教

- 162: 宗教史・事情*地理区分
- 167: イスラム教
 - 167.1: 教義・神学
 - 167.2: イスラム史
 - 167.28: マホメット
 - 167.3: 教典: コーラン
 - 167.4: 信仰録・説教集
 - 167.5: 寺院
 - 167.6: 勤行: 告白, 祈祷, 喜捨, 断食, 巡礼, 戒律
 - 167.7: 布教, 伝道
 - 167.8: 教派: スンニ派, シーア派
 - 167.9: バハイズム [バーブ教]

5.2.2 2 類 歴史

200: 歴史

- 201: 歴史学
 - 201.1: 歴史哲学
 - 201.16: 史学方法論
 - 201.2: 史学史
 - 201.28: 史家・歴史学者<列伝>
- 202: 歴史の補助学
 - 202.2: 歴史地理学
 - 202.3: 年代学・紀年法
 - 202.5: 考古学
 - 202.7: 古銭学
 - 202.8: 金石学: 金石文, 金石誌
 - 202.9: 古文書学
- 203: 書誌・辞典・便覧・年表・歴史図など
- 204: 論文・講演集・歴史評論・史話・雑著
- 205: 逐次刊行物・年鑑
- 206: 学会・団体・会議
- 207: 研究・指導法・歴史教育
- 208: 叢書・全集・合集

209: 世界史・文化史

- 209.4: 中世 (注記: 「サラセン帝国は、ここに収める」)

220: アジア史・東洋史

- 220.6+: 19 世紀
- 220.7+: 20 世紀ー
- 222: 中国
 - 222.8: 新疆: ウィグル自治区
- 223: 東南アジア
 - 223.9: マレーシア・マレー半島
- 224: インドネシア
 - 224.1: スマトラ
 - 224.2: ジャワ
 - 224.3: ボルネオ
 - 224.35: サバ、サラワク
 - 224.37+: ブルネイ
 - 224.4: セレベス
 - 224.5: モルッカ
 - 224.6: 小スンダ列島、チモール
 - 224.7: イリアン・ジャヤ
 - 224.8: フィリピン

- 224.81:ルソン
224.82:サマル
224.83:パラワン
224.84:ミンダナオ
224.85:スル諸島
- 225: インド
 <時代史>
225.04:中世・イスラム文化・ムガル帝国
225.05:近代・ヨーロッパ人の侵入、イギリスの支配
225.06:独立以降 1947～
 <各地>
225.1: 東インド（アッサム州、ナーガランド州、マニプル州、トリプラ州、メガーラヤ州、西ベンガル州）
225.2: ビハール州、オリッサ州
225.3: 中央インド（ウッタル・プラデシュ州、デリー、ハリヤナ州、マディヤ・プラデシュ州）
225.4: 北インド（ジャム・カシミール州、ヒマチャル・プラデシュ州、パンジャブ州）
225.5: 西インド（ラージャスターン州、グジャラート州、マハラシュトラ州）
225.7: パキスタン（パンジャブ州、北西辺境州、シンド州、バルチスタン州）
225.76: バングラデシュ
225.9: スリランカ、インド洋諸島（アンダマン諸島、ニコバル諸島、ラッカジブ諸島）
225.97+: モルジブ
- 226: 西南アジア、中東〔近東〕（第8版まで）
226.1: バルチスタン州
226.2: アフガニスタン
226.3: イラン〔ペルシア〕
226.6: トルコ
226.7: キプロス、ロードス島
- 227+: 西南アジア、中東〔近東〕
227.1+:アフガニスタン
227.2+:イラン〔ペルシア〕
227.3+:イラク〔メソポタミア〕
227.4+:トルコ（注記：別法「ヨーロッパ・トルコ 239.6」）
227.5+:シリア
227.6+:レバノン
227.7+:ヨルダン
227.8+:アラビア半島
- 227.81+: サウジアラビア
227.82+: クウェート
227.83+: カタール
227.84+: アラブ首長国連邦
227.85+: オマーン
227.86+: イエメン、アデン
227.89+: バーレーン
227.9+:イスラエル（注記：「パレスチナは、ここに収める」）
- 228: アラブ諸国（第8版まで）
228.1: イラク〔メソポタミア・アッシリア〕
228.2: シリア
228.3: レバノン
228.4: ヨルダン
228.5: イスラエル
228.6: アラビア半島
228.9: バーレーン諸島
- 229: アジア・ロシア
229.6: 中央アジア
229.61: カザフスタン
229.62: キルギスタン
229.63: タジキスタン
229.64: ウズベキスタン
229.65: トルクメニスタン
229.7: コーカサス
229.8: 北コーカサス（アドウイゲア共和国、カラチャイ・チェルケス共和国、カバルダ・バルカル共和国、北オセチア共和国、チェチェン共和国、イングーシ共和国、ダゲスタン共和国）
229.9: 南コーカサス
229.91: グルジア
229.92: アルメニア
229.93: アゼルバイジャン
- 230: ヨーロッパ史・西洋史
230.4: 中世
230.45: 十字軍 1096～1270
236: スペイン〔イスパニア〕
236.04: 中世 711～1516
238: ロシア〔ソビエト連邦〕
 <時代史>
238.04: タタール時代、モスクワ時代
238.05: ペテルブルク時代、ロマノフ王朝
238.07: ロシア革命以降
238.071+: 第2次世界大戦後
238.072+: ソビエト連邦の崩壊以降
 <各地>

5.2. 日本十進分類法関連項目一覧

- 238.1: ヨーロッパ・ロシア（コミ共和国、カレリア共和国、チュバシ共和国、マリヤ・エル共和国、モルドビア共和国、タタールスタン共和国、ウドムルト共和国、バシコルトスタン共和国、カルムイク共和国）
- 240: アフリカ史
- 241: 北アフリカ
- 242: エジプト
- 242.06+: 19 世紀
- 242.07: 20 世紀-（第 8 版では「近代エジプト」）
- 242.8: スエズ運河
- 242.9: スーダン
- 243: バーバリ諸国
- 243.1: リビア
- 243.2: チュニジア
- 243.3: アルジェリア
- 243.4: モロッコ
- 243.5: 西サハラ [旧スペイン領サハラ]
- 244: 西アフリカ
- 244.1: 旧フランス領西アフリカ
- 244.12: ニジェール
- 244.13: ブルキナファソ
- 244.14: マリ
- 244.15: モーリタニア
- 244.16: セネガル
- 244.17: カーボ・ベルデ
- 244.2: 上ギニア地方
- 244.21: ガンビア
- 244.21: ギニア・ビサオ
- 244.21: ギニア
- 244.21: シエラ・レオネ
- 244.3: リベリア
- 244.35: コート・ジボアール [象牙海岸]
- 244.4: ガーナ [黄金海岸]
- 244.45: トーゴ
- 244.47: ベナン
- 244.5: ナイジェリア
- 244.6: カメルーン
- 244.69: 赤道ギニア
- 244.7: 旧フランス領赤道アフリカ
- 244.72: チャド
- 244.73: 中央アフリカ
- 244.74: コンゴ
- 244.75: ガボン
- 244.76+: サントメ・プリンシペ
- 245: 東アフリカ
- 245.1: エチオピア [アビシニア]
- 245.13+: エリトリア
- 245.2: ジブチ [アフアル・イッサ]
- 245.3: ソマリア
- 245.4: ケニア
- 245.5: ウガンダ
- 245.6: タンザニア [タンガニーカ、ザンジバル]
- 245.8: モザンビーク
- 249: インド洋のアフリカ諸島
- 249.1: マダガスカル
- 249.2: モーリシャス
- 249.3: セイシェル
- 249.4: コモロ
- 280: 伝記*地理区分
- 280.3: 書誌・辞典・人名録・肖像集など
- 280.7: 研究・指導法・伝記作法
- 280.8: 叢書・逸話集
- 290: 地理・地誌・紀行*地理区分
- 299: 海洋
- 299.26: 南シナ海
- 299.4: インド洋
- ベンガル湾
- アラビア海
- ペルシア湾
- 紅海
- 299.6: 地中海
- 299.65: エーゲ海
- 299.67: 黒海
- 299.68: カスピ海
- 299.69: アラル海

5.2.3 3 類 社会科学

300: 社会科学

- 302: 政治・経済・社会・文化事情*地理区分
- 309: 社会思想

310: 政治

- 311: 政治学、政治思想
- 311.2: 政治学史、政治思想史*地理区分
- 312: 政治史・事情*地理区分

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 314: 議会*地理区分 | 332: 経済史・事情、経済体制*地理区分 |
| 315: 政党・政治結社*地理区分 | 337: 貨幣、通貨 |
| 316: 国家と個人・宗教・民族 | 337.2: 貨幣史・事情、貨幣制度、各国の通貨*地理区分 |
| 316.2: 国家と宗教 | 337.8: 物価 |
| 316.4: 政治闘争:政治ストライキ,ボイコット | 337.82:物価史・事情*地理区分 |
| 316.5: 革命・反革命 | 340: 財政 |
| 316.8: 民族・人種問題・民族運動・民族政策 | 342: 財政史、事情*地理区分 |
| 317: 行政 | 345: 租税 |
| 317.9: 外国の行政*地理区分 | 345.2: 租税史、事情*地理区分 |
| 318: 地方自治、地方行政 | 360: 社会 |
| 318.9: 外国の地方行政*地理区分 | 361: 社会学 |
| 319: 外交、国際問題*地理区分 | 361.2: 社会学説史*地理区分 |
| 320: 法律 | 361.4: 社会心理学 |
| 320: 法律 | 361.41:社会規範 |
| 320.9: 法令集*地理区分 | 361.42:地方性・国民性・民族性 |
| 321: 法学 | 361.5: 文化、文化社会学:文化変容、社会進歩、社会解体 |
| 321.2: 法学史、法思想史*地理区分 | 362: 社会史、社会体制*地理区分 |
| 322: 法制史 | 367: 家族問題、男性・女性問題、老人問題 |
| 322.2: 東洋法制史 | 367.2: 女性史・事情*地理区分 |
| 322.27:イラン、イラク:ハムラビ法典、トルコ | 380: 風俗習慣、民俗学、民族学 |
| 322.28:アラビア:イスラム法 | 382: 風俗史、民俗誌、民族誌*地理区分 |
| 322.29:アジア・ロシア | 386: 年中行事、祭礼*地理区分 |
| 322.4: アフリカ | 388: 伝説、民話*地理区分 |
| 322.9: 外国法*地理区分 | 389: 民族学・文化人類学*地理区分 |
| 323: 憲法*地理区分 | 390: 国防、軍事 |
| 330: 経済 | 392: 国防史・事情、軍事史・事情*地理区分 |
| 331: 経済学、経済思想 | |
| 331.2: 経済学説史、経済思想史*地理区分 | |

5.2.4 4 類 自然科学

- | | |
|------------------|--------------------|
| 400: 自然科学 | 449: 時法・暦学 |
| 402: 科学史・事情*地理区分 | 449.3: 暦書 |
| 440: 天文学、宇宙科学 | 449.33:純太陰暦:マホメット暦 |
| | 449.8: 各国の暦*地理区分 |

5.2.5 5 類 技術

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 500: 技術・工学 | 522.2: 中国 |
| 502: 技術史・工学史*地理区分 | 522.5: インド |
| 520: 建築学 | 522.6: 西南アジア (8 版まで) |
| 522: 東洋の建築・アジアの建築 | 522.7+:西南アジア |
| | 522.9: 中央アジア、北アジア |

5.2. 日本十進分類法関連項目一覧

523: 西洋の建築、その他の様式の建築	552: 船体構造・材料・施工
523.04: 中世	552.7 推進力による船の種類: 構造と設計
523.043 サラセン	552.72: 櫓船
550: 海洋工学、船舶工学	552.73: 帆船、ジャンク、ローター船

5.2.6 6 類 産業

600: 産業	660: 水産業
602: 産業史・事情、物産誌*地理区分	662: 水産業および漁業史・事情*地理区分
610: 農業	670: 商業
612: 農業史・事情*地理区分	672: 商業史・事情*地理区分
620: 園芸業	678: 貿易
622: 園芸業史・事情*地理区分	678.2: 貿易史・事情*地理区分
630: 蚕糸業	680: 運輸・交通
632: 蚕糸業史・事情*地理区分	682: 交通史・事情*地理区分
640: 畜産業	690: 通信事業
642: 畜産史・事情*地理区分	692: 通信事業史・事情*地理区分
650: 林業	693: 郵便・郵政事業
652: 林業史・事情*地理区分	693.2: 郵便史・事情*地理区分

5.2.7 7 類 芸術

700: 芸術・美術	722.5: インド
701: 芸術理論・美学	722.6: 西南アジア、ペルシア (8 版まで)
701.1: 芸術哲学、美学、美学史	722.7+ 西南アジア、中東
701.2: 芸術思想史	722.8: アラビア (8 版まで)
701.3: 芸術社会学、芸術民族学、芸術経済学	750: 工芸
702: 芸術史、美術史*地理区分	751: 陶磁工芸
702.01: 芸術史学、美術史学	751.2: 東洋
702.04: 中世美術 5-14 世紀: 初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック、サラセン	760: 音楽
702.09: 宗教芸術、宗教美術	762: 音楽史・各国の音楽*地理区分
702.096: イスラム芸術	770: 演劇
720: 絵画	777: 人形劇
722: 東洋画	777.8: 影絵芝居、ギニョル、マリオネット
722.3: 東南アジア	

5.2.8 8 類 言語

- | | |
|--|---|
| <p>800: 言語</p> <p>802: 言語史・事情、言語政策*地理区分</p> <p>829: 東洋の諸言語</p> <p>829.5: アルタイ諸語</p> <p>829.57: チュルク諸語：トルコ語</p> <p>829.58: ウイグル語、突厥語</p> <p>829.69: カフカース諸語：グルジア語</p> <p>829.7: セム・ハム諸語</p> <p>829.73: ヘブライ語</p> <p>829.76: アラビア語</p> <p>829.8: インド諸語</p> <p>829.83+: ヒンディー語</p> <p>829.85+: ウルドゥー語、パンジャブ語、アッサム語</p> | <p>829.9: イラン諸語</p> <p>829.93+: ペルシア語</p> <p>829.98+: その他のイラン諸語：アヴェスタ語、オセッソ語、パシュトー語、クルド語</p> <p>894: アフリカの諸言語</p> <p>894.2: 古代エジプト語、コプト語</p> <p>894.3: ベルベル諸語</p> <p>894.4: クシ諸語・ソマリ語</p> <p>894.5+: チャド諸語：ハウサ語</p> <p>894.6: ナイル・サハラ諸語</p> <p>894.7: ニジェール・コルドファン諸語：バントゥ諸語、スワヒリ語</p> |
|--|---|

5.2.9 9 類 文学

900: 文学*言語区分

- ㄱ 上記の第8類言語中の8を9に変えればよい。たとえば829.76がアラビア語であるから、929.76はアラビア文学である。ただし言語区分ではイラン諸語について、9版から改訂がなされているので、ペルシア文学は929.93とともに929.9も検索するのが好ましい。

5.2.10 一般補助表 I-a. 地理区分

- | | |
|--|---|
| <p>-2: アジア・東洋</p> <p>-22: 中国</p> <p>-228: 新疆：ウイグル自治区：ジュンガリア、東トルキスタン</p> <p>-23: 東南アジア</p> <p>-239: マレーシア・マレー半島</p> <p>-24: インドネシア</p> <p>-241: スマトラ</p> <p>-242: ジャワ</p> <p>-243: ボルネオ</p> <p>-2435: サバ、サラワク</p> <p>-2437+: ブルネイ</p> <p>-244: セレベス</p> <p>-245: モルッカ</p> <p>-246: 小スンダ列島、チモール</p> <p>-247: イリアン・ジャヤ</p> <p>-248: フィリピン</p> <p>-2481: ルソン</p> <p>-2482: サマル</p> <p>-2483: パラワン</p> | <p>-2484: ミンダナオ</p> <p>-2485: スル諸島</p> <p>-25: インド</p> <p>-251: 東インド（アッサム州、ナーガランド州、マニプル州、トリプラ州、メガーラヤ州、西ベンガル州）</p> <p>-252: ビハール州、オリッサ州</p> <p>-253: 中央インド（ウッタル・プラデシュ州、デリー、ハリヤナ州、マディヤ・プラデシュ州）</p> <p>-254: 北インド（ジャム・カシミール州、ヒマチャル・プラデシュ州、パンジャブ州）</p> <p>-255: 西インド（ラージャスターン州、グジャラート州、マハラシュトラ州）</p> <p>-257: パキスタン（パンジャブ州、北西辺境州、シンド州、バルチスタン州）</p> <p>-2576: バングラデシュ</p> <p>-259: スリランカ、インド洋諸島（アンダマン諸島、ニコバル諸島、ラッカジ</p> |
|--|---|

5.2. 日本十進分類法関連項目一覧

- ブ諸島)
-2597+:モルジブ
- 26: 西南アジア. 中東 [近東] (第8版まで)
- 261: バルチスタン州
-262: アフガニスタン
-263: イラン [ペルシア]
-266: トルコ
-267: キプロス, ロードス島
- 27+: 西南アジア. 中東 [近東]
- 271+: アフガニスタン
-272+: イラン [ペルシア]
-273+: イラク [メソポタミア]
-274+: トルコ (注記: 別法「ヨーロッパ・トルコ 239.6」)
-275+: シリア
-276+: レバノン
-277+: ヨルダン
-278+: アラビア半島
-2781+: サウジアラビア
-2782+: クウェート
-2783+: カタール
-2784+: アラブ首長国連邦
-2785+: オマーン
-2786+: イエメン、アデン
-2789+: バーレーン
-279+: イスラエル (注記: 「パレスチナは、ここに収める」)
- 28: アラブ諸国 (第8版まで)
- 281: イラク [メソポタミア・アッシリア]
-282: シリア
-283: レバノン
-284: ヨルダン
-285: イスラエル
-286: アラビア半島
-289: バーレーン諸島
- 29: アジア・ロシア
- 296: 中央アジア
-2961: カザフスタン
-2962: キルギスタン
-2963: タジキスタン
-2964: ウズベキスタン
-2965: トルクメニスタン
-297: コーカサス
-298: 北コーカサス (アドウイゲア共和国、カラチャイ・チェルケッス共和国、カバルダ・バルカル共和国、北オセチア共和国、チェチェン共和国、イングーシ共和国、ダゲスタン共和国)
-299: 南コーカサス
-2991: グルジア
- 2992: アルメニア
-2993: アゼルバイジャン
- 3: ヨーロッパ・西洋
- 36: スペイン [イスパニア]
-38: ロシア [ソビエト連邦]
-381: ヨーロッパ・ロシア (コミ共和国、カレリア共和国、チュバシ共和国、マリ・エル共和国、モルドビア共和国、タタールスタン共和国、ウドムルト共和国、バシコルトスタン共和国、カルムイク共和国)
- 4: アフリカ
- 41: 北アフリカ
-42: エジプト
-428: スエズ運河
-429: スーダン
-43: バーバリ諸国
-431: リビア
-432: チュニジア
-433: アルジェリア
-434: モロッコ
-435: 西サハラ [旧スペイン領サハラ]
-44: 西アフリカ
-441: 旧フランス領西アフリカ
-4412: ニジェール
-4413: ブルキナファソ
-4414: マリ
-4415: モーリタニア
-4416: セネガル
-4417: カーボ・ベルデ
-442: 上ギニア地方
-4421: ガンビア
-4421: ギニア・ビサオ
-4421: ギニア
-4421: シエラ・レオネ
-443: リベリア
-4435: コート・ジボアール [象牙海岸]
-444: ガーナ [黄金海岸]
-4445: トーゴ
-4447: ベナン
-445: ナイジェリア
-446: カメルーン
-4469: 赤道ギニア
-447: 旧フランス領赤道アフリカ
-4472: チャド
-4473: 中央アフリカ
-4474: コンゴ
-4475: ガボン
-4476+: サントメ・プリンシペ
- 45: 東アフリカ
-451: エチオピア [アビシニア]

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|-------------|
| -4513+ | エリトリア | -458: | モザンビーク |
| -452: | ジブチ [アフアル・イッサ] | -49: | インド洋のアフリカ諸島 |
| -453: | ソマリア | -491: | マダガスカル |
| -454: | ケニア | -492: | モーリシャス |
| -455: | ウガンダ | -493: | セイシェル |
| -456: | タンザニア [タンガニーカ, ザン
ジバル] | -494: | コモロ |

6

論集所収の関連論文一覧（簡略版）

この文書は、湯川ゼミ学生のための基礎技術の付属書です。第一章で説明した論集の内容目次を一覧します。各論文の内容目次も付した詳細版もあります。なお、いくつかの修正をほどこしてあります（本田実信→本田實信、黒田寿郎→黒田壽郎）。

……6.1……

論文一覧

6.1.1 東京大学出版会「イスラーム地域研究叢書」,2003-

第1巻 佐藤次高編『イスラーム地域研究の可能性』2003. ISBN: 4130341812

- イスラーム地域研究は何をめざすか：佐藤次高
- 歴史学・東洋学とイスラーム地域研究：羽田正
- 地域間比較の試み：小松久男
- 人類学とイスラーム地域研究：大塚和夫
- 経済学とイスラーム地域研究：加藤博
- 異文化のなかのイスラーム：内藤正典
- これからのイスラーム法研究：柳橋博之
- ムスリム民衆研究の可能性：赤堀雅幸
- イスラーム地域研究に地理情報システムを適用する方法：岡部篤行
- イスラーム地域研究についての回顧と展望：A. ラーフェク
- イスラーム地域研究プロジェクト：D. アイケルマン

第2巻 小松久夫, 小杉泰編『現代イスラーム思想と政治運動』2003. ISBN: 4130341820

- 激動の時代：小松久夫
- 行動の思想、思想の実践：小杉泰, 横田貴之
- トルコのイスラーム潮流：粕谷元
- 南アジア・イスラームの地平：山根聡
- 革命のイスラーム：富田健次
- 中国のイスラーム新文化運動：松本ますみ
- ソ連解体後の中央アジア：B・ババジャノフ
- グローバル時代のマイノリティ：子島進
- イスラーム復興の企業家精神：澤江史子
- インドネシアのイスラーム伝統派の思想革新：小林寧子
- 未来を紡ぐ糸：小杉泰
- 現代イスラーム思想家群像

第3巻 私市正年, 栗田禎子編『イスラーム地域の民衆運動と民主化』2004. ISBN: 4130341839

- イスラーム世界の民衆運動と民主化：宮治一雄
- イスラーム思想における自由：小林春夫
- 裏切るクーファ市民：清水和裕
- 民主主義の受容と混乱：松本弘
- 南部フィリピン・ムスリム社会の山賊と民衆：川島緑
- アラブ共産主義者の受難：長沢栄治
- 中東における非宗派主義と政教分離主義の展開：栗田禎子
- マレーシアの政治体制と二つの民衆運動：鳥居高
- インドネシアの地域騒乱：村井吉敬
- 中央アジアの体制転換と社会的緊張：清水学
- ブルハーミー教団と現代エジプトのイスラーム復興：私市正年

6.1. 論文一覧

- トルコの民主化・宗教自由化とイスラーム運動の発展：間寧

第4巻 三浦徹, 岸本美緒, 関本照夫編『比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』2004. ISBN: 4130341847

- 原理的比較の試み：三浦徹
- 土地を売ること，人を売ること——「所有」をめぐる比較の試み：岸本美緒
- イスラーム法における所有権の構造——基体果実と使用果実を中心として：柳橋博之
- 国家が所有を宣言するとき——東南アジア島嶼部社会における領有について：石川登
- 合意と契約——中国近世における「契約」を手掛かりに：寺田浩明
- 当事者の世界と法廷の世界——イスラーム世界における契約：三浦徹
- マレー世界における契約——商業的契約と政治的契約：西尾寛治
- 比較社会論から見た市場と利得：関本照夫
- イスラーム市場社会の歴史的構造：加藤博
- 中国における市場・仲介・情報：古田和子
- 中国における公正——生存と政治：林文孝
- アドルと「神の価格」——スークのなかのmamlook朝王権：長谷部史彦
- 「公正」の離床：春日直樹

第5巻 酒井啓子, 白杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』未刊.

第6巻 加藤博編『イスラームの性と文化』未刊.

第7巻 赤堀雅幸, 東長靖, 堀川徹編『イスラームの神秘主義と聖者信仰』未刊.

第8巻 林佳世子, 梶屋友子編『記録と表象——史料が語るイスラーム世界』未刊.

6.1.2 岩波書店「講座 世界歴史」新版, 1997-2000

講座 世界歴史の新版です。収められている論文は膨大で、総目次を使用しなければなかなか見つけることが出来ませんでした。ここでは、イスラームに関連のありそうなものと、歴史学を学ぶ上で重要そうなものをピックアップしています。

第1巻 世界史へのアプローチ ISBN: 4000108212

- 時代区分論：岸本美緒
- 地域区分論——つくられる地域、こわされる地域——：古田元夫
- 世界史と日本史の可能性——近代日本人の見た歴史のリアリティ——：山内昌之
- 社会史の視野：福井憲彦
- 自然環境と歴史学——トータル・ヒストリを求めて——：川北稔
- ソーシャル・サイエンス・ヒストリィと歴史人口学：斎藤修
- ジェンダーとセクシュアリティ：本村凌二
- 歴史の叙法——過去と現在の接点——：鶴間和幸
- 史料とはなにか：杉山正明
- コンピュータと歴史家：斎藤修
- 歴史の知とアイデンティティ：樺山紘一

第5巻 帝国と支配 ISBN: 4000108255

- 帝国と支配——古代の遺産：本村凌二, 鶴間和幸
- イスラーム帝国としてのオスマン帝国：鈴木董

第6巻 南アジア世界・東南アジア世界の形成と展開 ISBN: 4000108263

- はじめに：山崎元一, 石澤良昭
- 南アジア世界：山崎元一
- 東南アジア世界：石澤良昭
- イスラーム教徒のインド侵入：稲葉稷
- 東南アジアにおけるイスラームの展開：弘末雅士

第7巻 ヨーロッパの誕生 ISBN: 4000108271

- 地中海のノルマン人：高山博
- ビレンヌ・テーゼとビザンツ帝国——コンスタンティノープル・ローマ・フランク関係の変容を中心に：大月康弘

第8巻 ヨーロッパの成長 ISBN: 400010828X

- 中世スペインのマイノリティ——ムデハル：林邦夫
- 十字軍：八塚春児
- ビザンツ帝国論：和田廣

第10巻 イスラーム世界の発展, ISBN: 4000108301

- イスラーム国家論——成立としくみと展開：佐藤次高
- ビザンツ帝国とイスラーム：太田敬子
- マグリブ中世社会のユダヤ教徒——境域の中のマイノリティ：私市正年
- イスラームとモンゴル：北川誠一
- イスラーム世界の参詣——聖者とスーフィズムを視野に入れつつ：大稔哲也
- イスラーム法と統治システム：柳橋博之
- イスラームの少数派とジャマアの成立：花田宇秋
- マムルークとグラーム：清水和裕
- 王権とイスラーム都市——カイロのマムルーク朝スルタンたち：長谷部史彦
- イスラーム社会とワクフ制度：岩武昭男
- サイイドとシャリーフ——ムハンマドの一族とその血統：森本一夫

第11巻 中央ユーラシアの統合 ISBN: 400010831X

- 中央ユーラシアの歴史構図——世界史をつないだもの：杉山正明
- ティムール朝とその後——ティムール朝の政府・宮廷と中央アジアの輝き：久保一之
- とこしえなる天の力のもとに：小野浩
- モンゴルとペルシア語史書——遊牧国家史研究の再検討：志茂碩敏
- キプチャク草原とロシア：川口琢司

第12巻 遭遇と発見 ISBN: 4000108328

- 遭遇と発見——異文化への視野：樺山紘一
- 『東方見聞録』とその読者たち：大黒俊二
- 東アジアからの地理的世界認識：応地利明
- 中世中東世界から見たヨーロッパ像——学術文献と文学作品を中心に：杉田英明
- イブン＝ハルドゥーンと歴史の発見：森本公誠

第13巻 東アジア・東南アジア伝統社会の形成 ISBN: 4000108336

- モグール・ウルスから新疆へ——東トルキスタンと明清王朝：濱田正美

6.1. 論文一覧

- 東南アジアの港市国家：鈴木恒之

第14巻 イスラーム・環インド洋世界 ISBN: 4000108344

- 三つの「イスラーム国家」：羽田正
- イラン、トゥラン、ヒンド——ペルシア語文化圏の発展と変容：近藤信彰
- ペルシア湾と紅海の間：福田安志
- インド洋とインド商人：長島弘
- イスラーム法の刷新——オスマン朝における新賃貸契約制度の誕生をめぐって：林佳世子
- ユダヤ教徒ネットワークとオスマン朝：宮武志郎
- 前近代イスラーム帝国における圧政の実態と反抗の論理——1748年アレppoの事例から：黒木英充
- ムガル帝国の国家権力と土地制度：佐藤正哲
- ムガル朝とヨーロッパ人：小名康之
- 日本人のアフリカ認識——アフリカおよびアフリカ人をめぐるイメージ形成とその変遷：藤田みどり
- 建築から見たイスラーム・環インド洋世界：深見奈緒子

第15巻 商人と市場 ISBN: 4000108352

- 商人と市場：松井透
- 東南アジアと「交易の時代」：大木昌
- ヨーロッパ商業空間とディアスポラ：深沢克己
- 中東イスラーム世界の国際商人：坂本勉
- 商業の時代と民衆——「イズミル市場圏」の変容と民衆の抵抗：永田雄三
- 貨幣が語る諸システムの興亡：黒田明伸
- 「商人と国家」の経済学——経済史の地域性：原洋之介

第16巻 主権国家と啓蒙 ISBN: 4000108360

- オスマン帝国とヨーロッパ：新井政美
- 公共圏の成立：高橋順一

第18巻 工業化と国民形成 ISBN: 4000108387

- 帝国主義と自由と人権——中東・イスラーム世界からの逆照射：小杉泰
- イギリス帝国とアジア：秋田茂
- 国民国家と「伝統」の創出：工藤光一

第19巻 移動と移民 ISBN: 4000108395

- 近代世界システムと人間の移動：杉原薫
- インド人年季契約制は奴隷制の再来であったのか：脇村孝平
- イスラーム世界の巡礼：後藤明

第20巻 アジアの＜近代＞ ISBN: 4000108409

- イギリスのインド支配とカースト：藤井毅
- フィリピン革命——単一国家と連邦制のせめぎ合い：池端雪浦

第21巻 イスラーム世界とアフリカ ISBN: 4000108417

- 危機と応戦のイスラーム世界：小松久男
- オランダ植民地支配末期におけるジャワ・ウラマーの政治関与——層としてのウラマーの結集（NU）とイスラーム法解釈の展開：中村光男
- ウンマと中華の間——清朝治下の新疆ウイグル社会：王柯
- タンズィマート改革期のボスニア・ヘルツェゴヴィナ：江川ひかり
- マフディー運動の域内連関——19世紀東スーダンと中東・アフリカ世界：栗田禎子
- 「周縁」からみた近代エジプト——空間と歴史認識をめぐる一考察：加藤博
- 宗教学者の権威の確立とイランの近代——二つの革命の底流：嶋本隆光
- オスマン海軍の19世紀——近代化をめぐる：小松香織
- 中東における国際人脈の形成——ヒトの移動の光と影：橋本光平
- 19世紀の西アフリカにおけるイスラーム化と植民地化——トゥクロール帝国を中心に：岡倉登志
- スーダンの「部族」と「民族」——「未開」社会のダイナミズム：大塚和夫

第22巻 産業と革新 ISBN: 4000108425

- ジェンダーとエスニシティ——英国の場合：奥田伸子
- リテラシーから学校化社会へ：松塚俊三

第23巻 アジアとヨーロッパ ISBN: 4000108433

- アジアとヨーロッパ——日本からの視角：山内昌之
- 新聞のなかのイラン立憲革命：黒田卓
- ミンダナオの近代——フィリピン国家形成下のマイノリティ化：早瀬晋三
- インドの植民地化問題・再考：中里成章
- ファイズラ・ホジャエフとその時代——20世紀初頭中央アジアにおける民族・社会主義・イスラーム：帯谷知可

第24巻 解放の光と影 ISBN: 4000108441

- 危機と戦争の20年：木畑洋一
- ソ連における朝鮮人強制移住——ロシア極東から中央アジアへ：岡奈津子
- シオニズムとアラブ問題——ベングリオンと労働運動における民族分離主義を中心に：鴨下（森）まり子
- コミンテルンと東方・植民地：栗原浩英
- インド・パキスタン分離独立——中央の論理・地方の論理：井坂理穂
- イランとソ連の狭間で——アゼルバイジャン国民政府の一年：徳増克己

第25巻 戦争と平和 ISBN: 400010845X

- 世界史のなかの戦争と平和：油井大三郎
- ムジャーヒドたちのたたかい、シャヒードとしての戦死：山岸智子

第26巻 経済成長と国際緊張 ISBN: 4000108468

- 経済成長と国際緊張の時代：古田元夫
- イラン・「イスラーム」革命からイラン・イラク戦争へ：高橋和夫
- 中東戦争とパレスチナ問題：白杵陽
- 東南アジアの経済発展と政治変動：浅見靖仁

第27巻 ポスト冷戦から21世紀へ ISBN: 4000108476

6.1. 論文一覧

- ポスト冷戦から 21 世紀へ——文明論的解釈の試み：山内昌之
- 中東和平とアラブ・イスラエル関係の変容：立山良司
- 「アメリカの世紀」の終わり：古矢旬
- 社会主義は 20 世紀に何を残したのか：袴田茂樹
- 民族問題の過去と現在——旧ソ連地域の経験から：中井和夫
- リベラル・デモクラシーと自由——歴史と現在：松本礼二
- 不戦共同体の形成と ASEAN の経験：山影進
- 地球環境と歴史の未来——人口増加と環境の稀少化：石弘之

第 28 巻 普遍と多元 ISBN: 4000108484

- 普遍と個別——20 世紀文化へ向けて：樺山紘一
- 「社会科学」と「文化史」の相克——歴史のための感覚論：上山安敏
- 混血文化の対位法——オルティスとカルペンティエール：今福龍太
- 電子メディア時代の情報——普遍言語と地球ネットワーク：西垣通
- 中華文明と「少数民族」：武内房司
- 大衆文化の想像力：佐藤健二
- 合理的思想の動揺：内山節
- デザインと身体感覚の変容：北山晴一
- 芸術・機械・創造——芸術の可能性と現代：伊藤俊治
- 思想としての女性——〈女性〉史、〈ジェンダー〉史、それとも？：荻野美穂
- 幸福と所有——消えた二つの主題：鷺田清一
- 「アジア」という価値：佐藤慎一

6.1.3 青木書店 歴史学研究会編「地中海世界史」1999,2000

3. 『ネットワークの中の地中海』1999ISBN: 4250990230

- 序：加藤博
- 第 2 章 中世後期における地中海商業：齊藤寛海
- 第 4 章 レヴァントのフランス商人——交易の形態と条件をめぐって：深沢克己
- 第 5 章 カイロの穀物価格変動とマムルーク朝政府の対応：長谷部史彦
- 第 6 章 18~19 世紀サラエヴォのムスリム名士と農民：永田雄三
- 第 7 章 アレクサンドリアの憂愁——近代地中海世界の光と影：加藤博
- 第 9 章 都市を支えたワクフ制度——イスラム世界の宗教寄進制度の経済的側面：林佳世子

4. 『巡礼と民衆信仰』1999ISBN: 4250990281

- 第 6 章 イスラム巡礼総論：後藤明
- 第 7 章 中世エジプト・イスラム社会の参詣・聖母・聖遺物：大稔哲也
- 第 8 章 メッカ巡礼とイスラム改革運動：坂本勉
- 第 9 章 知られざる信仰——ドゥルーズ派に見る聖者崇拜と聖廟参詣：宇野昌樹
- 第 10 章 現代モロッコの廟参詣——「聖者」を「偉人」とする提案を添えて：堀内正樹

5. 『社会的結合と民衆運動』1999ISBN: 4250990435

- 第 5 章 オスマン朝へのユダヤ教徒移民：宮武志郎
- 第 6 章 「多神教的イスラム」——スーフィー・聖者・タリーカをめぐって：東長靖
- 第 7 章 オラビー革命のソシアビリテ——19 世紀エジプトにおける社会的結合と政治文化：栗田禎子

- 第9章 ギリシア独立戦争と匪賊クレフテス——コロクトロニスに見る「地域」と「国家」：村田奈々子

6.1.4 山川出版社「地域の世界史」1997-2000

1. 濱下武志, 辛島昇編『地域史とは何か』1997. ISBN: 4634442108
2. 辛島昇, 高山博編『地域のイメージ』1997. ISBN: 4634442205
 - アラビア語地理書の世界——ムカッタスィーの世界観・地域観：竹田新
 - 絵画におけるオリエンタリズム——19世紀西欧美術史の視点から：阿部良雄
 - ソ連邦の解体と中央アジア——トルキスタンをめぐって：小松久男
3. 辛島昇, 高山博編『地域の成り立ち』2000. ISBN: 4634442302
 - アラブ・イスラーム世界の拡大：佐藤次高
 - 交易圏としてのアフリカ：川田順造
 - 「インド文化」は存在するのか：辛島昇
5. 松本宣郎, 山田勝芳編『移動の地域史』1998. ISBN: 4634442507
 - 民族移動が開く地域——オスマン帝国の起源：小山皓一郎
 - 出稼ぎ労働者と地域——アルジェリア、カビリー地方の事例から：宮治美江子
 - メッカ巡礼の道——ヒト・モノ・文化情報の交流：家島彦一
6. 佐藤次高, 福井憲彦編『ときの地域史』1999. ISBN: 4634442604
 - イスラームの生活原理と「とき」：佐藤次高
7. 松本宣郎, 山田勝芳編『信仰の地域史』1998. ISBN: 4634442701
 - 死者の街と「エジプト」意識——ムスリム社会の聖墓参詣：大稔哲也
 - 地域性の希薄な宗教のかたち——インド諸教派：宮元啓一
 - 地域社会とイスラーム法——リバーの禁止と賃貸借を例として：柳橋博之
8. 川田順造, 石毛直道編『生活の地域史』2000. ISBN: 4634442809
 - 茶とコーヒー：熊倉功夫
 - 住まいの諸相：陣内秀信
 - ヒトの眠り方について：吉田集而
 - 病気の文明史：池田光穂
 - 入浴と衛生——なぜヒトは風呂にはいるのか：吉田集而
9. 佐藤次高, 岸本美緒編『市場の地域史』1999. ISBN: 4634442906
 - イスラーム都市の市場空間とイスファハーン：坂本勉
 - 東南アジアの港市国家と後背地：弘末雅士
 - アレppo市場圏の構造と機能：永田雄三
10. 木村靖二, 上田信編『人と人の地域史』1997. ISBN: 4634443007

6.1. 論文一覧

- 情報をめぐる人的結合と地域——19世紀前半のシリアにおけるスパイと通訳の軌跡：黒木英充
- 共生の模索——南タイにおけるある改宗者の死をめぐって：西井涼子

11. 濱下武志, 川北稔編『支配の地域史』2000. ISBN: 4634443104

12. 木村靖二, 長沢栄治編『地域への展望』2000. ISBN: 4634443201

6.1.5 東京大学出版会「講座 世界史」1995,1996

1. 『世界史とは何か——多元的世界の接触の転機』1995. ISBN:4130250817

- 十字軍とモンゴル——イスラーム世界における世界史像の変化：清水宏祐
- オスマン朝とヨーロッパ：新谷英治
- 仏教・ヒンドゥー教・イスラーム教：辛島昇
- トレード：林邦夫
- シチリア王国：高山博
- コロンブスと近代：清水透
- 海上の道——15世紀-17世紀のインド洋、南シナ海を中心に：長島弘
- 草原の道：堀直
- ドゥブローヴニク：田中一生

2. 『近代世界への道——変容と摩擦』1995. ISBN: 4130250825

- ハプスブルク帝国とオスマン帝国：稲野強
- 西アジア・インドのムスリム国家体系：羽田正
- イスラーム世界の中の東南アジア：中原道子
- 「ヨーロッパ的世界」の形成：松井透
- オスマン帝国諸地域の反乱とヨーロッパ列強：黒木英充

3. 『民族と国家——自覚と抵抗』1995. ISBN: 4130250833

- オスマン帝国の「近代化」——アラブ世界を中心に：加藤博
- ヤークーブ・ベグ：新免康

4. 『資本主義は人をどう変えてきたか』1995. ISBN: 4130250841

- モノカルチュアへの道——植民地ジャワ：宮本謙介

5. 『強者の論理——帝国主義の時代』1995. ISBN: 413025085X

- 世界分割とアフリカ・東南アジア・オセアニア：富永智津子
- 1905年前後の世界——ロシア・ムスリムの視点から：小松久男
- 第一次世界大戦の構造と性格：三宅立
- 第一次世界大戦とアジア・アフリカ——ロシア帝国中央アジアの事例：伊藤秀一

6. 『必死の代案——期待と危機の20年』1995. ISBN: 4130250868

- ソ連の成立とその影響——アゼルバイジャンにおける民族自決：木村英亮
- 従属地域における国民国家の形成——中国とトルコの国民革命：古厩忠夫
- アラブ民族運動と女性：岡真理

7. 『「近代」を人はどう考えてきたか』 1996. ISBN: 4130250876

- アフガーニー——東方の連帯・イスラームの復興：小杉泰

8. 『戦争と民衆——第二次世界大戦』 1996. ISBN: 4130250884

- パレスティナ・アラブ反乱：白杵陽
- 第二次世界大戦の構造と性格：木畑洋一
- 中東——1945年の世界：山口昭彦

9. 『解放の夢——大戦後の世界』 1996. ISBN: 4130250892

- インド・パキスタンの成立——「インド・パキスタン・バングラデシュ統一連邦案」の崩壊：長崎暢子
- イスラエルの建国：奈良本英佑
- アフリカ諸国の独立：小田英郎
- スエズ危機とハンガリー動乱：鹿島正裕

10. 『第三世界の挑戦——独立後の苦悩』 1996. ISBN: 4130250906

- アラブ民族主義とパレスティナ民族主義：栗田禎子
- 第三次中東戦争：藤田進
- 石油危機：阿部由紀

11. 『岐路に立つ現代世界——混沌を恐れるな』 1996. ISBN: 4130250914

- イラン革命と中東国際関係の変動：吉村慎太郎
- シベリア・中央アジア・モンゴル——「開発」シンδροームからの脱却を求めて：西山克典
- 湾岸戦争とソ連邦の解体：高橋和夫

12. 『わたくし達の時代』 1996. ISBN: 4130250922

- 宗教の復権？——世界史における宗教の現在と未来：浅見定雄
- 国家・民族・社会：二宮宏之

6.1.6 栄光教育文化研究所「講座イスラーム世界」1994,95

1. 片倉もとこ編『イスラーム教徒の社会と生活』 1994. ISBN: 4946424849

- 序——多様なイスラーム社会——アラビアより拡散の歴史のなかで：片倉もとこ
- ナイル河畔のマフディストたち——スーダン：大塚和夫
- イスラーム革命後の人びと——イラン：原隆一
- ムスリムはどう教育されるか——インドネシア：西野節男
- ルソン島に渡ったムスリム——フィリピン：宮本勝
- 中華文明の中のイスラーム——中国：張承志
- ベドウィンのイスラーム——エジプト：赤堀雅幸
- アラブ・ムスリムの家族と結婚——ヨルダン：清水芳見
- 農村の女性とイスラーム——トルコ：中山紀子
- なつめやしオアシスの村の生活誌——チュニジア：鷹木恵子
- ヨーロッパのイスラーム——フランス：宮治美江子

6.1. 論文一覧

- アフリカにきたイスラーム——タンザニア・カメルーン：日野舜也
- 電子メールによるイスラーム・ネットワーク——北アメリカ：中村光男

2. 後藤明編『文明としてのイスラーム』1994. ISBN: 4946424873

- 序——イスラームとは文明の一つの体系である：後藤明
- 人類史上のイスラーム：後藤明
- 古代文明とイスラーム：蔀勇造
- イスラーム史を読み直す：清水宏祐
- 都市の心性——前近代カイロの食糧騒動研究の視座から：長谷部史彦
- 組織と支配——後期イスラーム帝国オスマン朝の場合：鈴木董
- 帝国と異教都市——インドムガルの都市を中心にして：小名康之
- 公益・福祉制度——ワクフ：岩武昭男
- スーフィー教団——宗教権威から政治権力へ：濱田正美
- ムスリムたちの食生活——アッバース朝宮廷社会と中世期カイロの都市社会：鈴木貴久子
- 文明を支えた空間——都市と建築：山中由里子

3. 堀川徹編『世界に広がるイスラーム』1995. ISBN: 4946424881

- 序：堀川徹
- イスラームの拡大とシリア：太田敬子
- ムスリムのイベリア半島征服：村田靖子
- アラブ・ムスリムの東方進出：稲葉穰
- マムルーク朝政権とキリスト教徒：松田俊道
- モンゴル時代中国におけるイスラームの拡大：松田孝一
- イブン・バットゥータの世界：家島彦一
- トルコ系諸王朝の国制とイスラーム：安藤志朗
- 中央アジアの遊牧民とスーフィー教団：堀川徹
- オスマン朝の新都イスタンブル建設：林佳世子
- バルカンにおけるイスラームの拡大：永田雄三
- インドネシアのイスラーム裁判所制度：中村緋紗子
- インド・イスラーム文化の形成：近藤治

4. 竹下正孝編『イスラームの思考回路』1995. ISBN: 494642489X

- 序：竹下政孝
- イスラームの宗教性——イスラーム法の意味を中心として：小田淑子
- 知識と学問：小林春夫
- 比較法上のイスラーム：柳橋博之
- イスラームの倫理：塩尻和子
- イスラームにおける契約——〈原初の契約〉をめぐる：鎌田繁
- 預言者と聖者——イスラームにおける聖なる人びと：竹下政孝
- スンナ派とスーフィズム——ワッハーブ派への反批判をめぐる：東長靖
- イスラームの「セクト」：松本耿郎
- イスラームと芸術：杉田英明
- イスラームと女性：キング・マルクス（桜井啓子訳）
- イスラームと自然環境：松井健

5. 湯川武編『イスラーム国家の理念と現実』1995. ISBN: 4897110009

- 序——ムスリムたちはどのような理念をもち、どのように実現しようとするのか：湯川武

- 統治の目的——イスラーム政治史の眺望から現代へ：小杉泰
- カリフの統治・カリフなき統治——ウンマにとってのカリフ制の意味：ナイーム・クレシー（佐藤規子訳）
- シーア派イマーム論——その現代的意義と実践的適用：櫻井秀子
- 正義と秩序——サイイド・クトゥブの社会的公正論を中心として：湯川武
- イスラーム経済の特質——スークの伝統経済：黒田壽郎
- 「イスラーム世界」とジハード——ジハードの理念とその類型：中田考
- イスラームの国際法——イスラームの国際関係のあり方：古賀幸久
- グローバル世界におけるイスラーム——イメージと構造：モジュタバ・サドリア（河田尚子訳）
- 近代国家の法とイスラーム——エジプトの民法典とイスラーム法：白井正博
- ウンマと国家——国民国家を脅かすパン・イスラーム主義の理論：飯塚正人

6.1.7 岩波書店「世界史への問い」,1989-91

1. 後藤明編『歴史における自然』1989. ISBN: 4000040413

- 14世紀エジプト社会と異常気象・飢饉・疫病・人口激減：長谷部史彦
- アラブの疾病観：三木亘

2. 川北稔編『生活の技術生産の技術』1990. ISBN: 4000040421

- 家僕としての家畜——放牧家畜管理の技法とその地中海・中近東の特質：谷泰
- ダウ船とインド洋海域世界：家島彦一
- 暦——ムスリムの生活技術と社会秩序：佐藤次高

3. 濱下武志編『移動と交流』1990. ISBN: 400004043X

- オスマン帝国と対外的コミュニケーション：鈴木董
- 巡礼とコミュニケーション：坂本勉
- 東部アフリカをめぐる王権と商業——ザンジバルの笛：富永智津子

4. 二宮宏之編『社会的結合』1989. ISBN: 4000040448

- 街区と民衆反乱——15-16世紀のダマスカス：三浦徹
- ナクシュバンディー教団：川本正知

6. 柴田三千雄編『民衆文化』1990. ISBN: 4000040464

- エジプト農民の権力観：加藤博
- ジャワの正義王思想：関本照夫

7. 小谷汪之編『権威と権力』1990. ISBN: 4000040472

- ムハンマドと初期イスラーム世界の権力：後藤明
- イランの諸王朝——アケメネスからホメイニーまで：上岡弘二
- スーダンのマフディー運動における「正統性」：栗田禎子

8. 板垣雄三編『歴史のなかの地域』1990. ISBN: 4000040480

- パン・トルコ主義の基盤：永田雄三

6.1. 論文一覧

- ウラマーの遊学の世界：湯川武

9. 川北稔編『世界の構造化』1991. ISBN: 4000040499

10. 板垣雄三編『国家と革命』1991. ISBN: 4000040502

- イスラーム国家論の展開：板垣雄三・飯塚正人

6.1.8 岩波書店「講座 東洋思想」,1988-1989

3. 『イスラーム思想Ⅰ——イスラーム思想史; イスラーム思想の展開』1988. ISBN: 4000103237

- イスラーム思想史：中村廣治郎
- イスラーム思想の原点：牧野信也
- イスラームの法思想：中村廣治郎
- イスラーム神学とスコラ学; 初期イスラーム神学：黒田壽郎
- イスラーム神学とスコラ学; 後期イスラーム神学とスコラ学：松本耿郎
- イスラームの政治思想：中村廣治郎
- イスラームの科学思想——まなざしの精密化と内面の涵養：五十嵐一
- スーフィズムの文学——詩から説話まで：サイイド・H・ナスル（東長靖訳）
- 東南アジアにおけるイスラーム思想の受容と展開——ハムザー・ファンズーリー試論：中村光男

4. 『イスラーム思想Ⅱ——イスラーム思想の特質』1989. ISBN: 4000103245

- 言語現象としての「啓示」：井筒俊彦
- 古典的スーフィズム——神秘思想とその象徴的表現：シンメル, アンネマリー（小田淑子訳）
- 非現象から現象世界へ——イブン・アラビーの「存在一性論」：チティック, W. C.（小川和久訳）
- スフラワルディーと照明哲学：ジャンベ, クリスチャン（三浦伸夫訳）
- 愛の形而上学——アフマド・ガッザーリーのスーフィズム：プールジャワディ, ナスロラー（三浦伸夫訳）
- アヴィセンナ・ガッザーリー・アヴェロス「崩落」論争——『哲学の崩落』(Destructio Philosophorum)と『崩落の崩落』(Destructio Destructionis)をめぐる：井筒俊彦
- イスラーム思想における「存在」(wujūd)と本質(māhiyyah)：ナスル, サイイド・H.（井筒俊彦・三浦伸夫訳）
- 神・知性・人間——イスラーム的知性論のトポロジー：五十嵐一

6.1.9 筑摩書房「講座イスラム」1985,86

1. 中村廣治郎編『イスラム—思想の営み』1985. [三田所蔵]

- アラブ文化とイスラム：後藤明
- コーランの思想：小田淑子
- 法と共同体：小田淑子
- イスラムの神学と哲学：松本耿郎
- スーフィズムの確立——ガッザーリーの生涯と思想を中心に：中村廣治郎
- 後期スーフィズムの発展——イブン・アラビーを中心に：竹下政孝
- シーア派の発展——モッラー・サドラーを中心に：鎌田繁
- イスラム改革思想の流れ——ハンバル派小史：湯川武

2. 森本公誠編『イスラム—転変の歴史』1985. [三田所蔵]

- 初期イスラム国家の形成：森本公誠
- シーア派の反撃：菟原卓
- 遊牧民族の流入：井谷鋼造
- 後期イスラム国家の支配——サファビー朝の場合：羽田正
- イスラム世界の拡大：中原道子
- イスラムと近代西欧との出会い——イランのシーア派イスラムの場合：八尾師誠
- 現代のイラン：岡崎正孝
- 現代のトルコ——イスラムと世俗主義の問題点：設楽國廣
- 現代のアラブ——アラブ民族主義とイスラム：宮治一雄
- 現代の周縁イスラム圏——ユーゴスラヴィア「エスニックな所属としてのムスリム」：山内昌之

3. 佐藤次高編『イスラム—社会のシステム』1986. [三田所蔵]

- スルタンと奴隷：佐藤次高
- 法の担い手たち：私市正年
- 官僚の世界：鈴木董
- 都市・農村・遊牧：真田安
- 神秘主義教団の実像：古林清一
- 儀礼と社会の慣行：佐藤次高, 湯川武
- 伝統的社会の変容——イエメン都市の昨日と今日：加納弘勝

4. 板垣雄三編『イスラム—価値と象徴』1986. [三田所蔵]

- イスラム文化と理想的人間像：黒田壽郎
- 価値観と評価——トルコ社会におけるナムスをめぐって：松原正毅
- ムスリムの自然観——カビール人の事例から：宮治美江子
- イスラムの歴史観——三人兄弟の歴史：花田宇秋
- イスラム世界の教育：池田修
- イスラム社会の女性——エジプトの場合を中心に：奴田原睦明
- 族認識から見た家族：片倉もところ
- イスラムの都市空間：木島安史

6.1.10 東洋経済新報社「イスラム世界の人びと」1984

1. 上岡弘二, 中野暁雄, 日野舜也, 三木亘編『総論』1984 ISBN: 449281261X

- 世界史のなかのイスラム世界：三木亘
- 聖地の構造——都市と砂漠と死者たちのくに：山形孝夫
- アフリカでムスリムになること：日野舜也
- イラン人の宗教世界——イラン・イスラム革命に関連して：上岡弘二
- イラン・イスラム革命と農村：原隆一
- 座談会1「イスラム世界を考える」：板垣雄三, 上岡弘二, 佐藤次高, 永田雄三, 中野暁雄, 日野舜也, 松原正毅, 三木亘, 家島彦一, 山形孝夫, 渡辺金一
- 座談会2「イスラム世界の暮らしの文化」：麻田美晴, 塩尻和子, 田村愛理, 中野暁雄, 羽田亨一, 日野舜也, 三木亘, 宮治美江子, ヤマンラール・水野・美奈子

2. 佐藤次高, 富岡倍雄編『農民』1984 ISBN: 4492812628

6.1. 論文一覧

- シリア・グータの森の農民たち：富岡倍雄
- イランの「近代化」と村の人びと：後藤明
- エジプト・スィンヌーリス村の生活誌——13世紀の歴史から：佐藤次高
- トルコの豪農地主と地域社会：永田雄三
- インドネシア・西ジャワの農村とイスラム：村井吉敬
- 西アフリカの村のイスラム——北カメルーンのバングブーム村から：日野舜也
- モロッコ・アトラス山村の生活誌——人の一生と年のめぐり：中野暁雄
- 座談会「イスラム世界の農民」：後藤明, 佐藤次高, 富岡倍雄, 永田雄三, 中野暁雄, 日野舜也, 三木亘, 村井吉敬

3. 永田雄三, 松原正毅編『牧畜民』1984ISBN: 4492812636

- あるベドウィンのつぶやき：片倉もところ
- ある遊牧民の半生：松原正毅
- ヒツジにとって牧夫とはなにか——群れ管理の地域的共通性と差異：谷泰
- 内陸アジアの遊牧民——ウイグル族における時間と空間：梅村坦
- 19世紀アフガニスタン・バルーチスタンの遊牧民：松井健
- 歴史上の遊牧民——トルコの場合：永田雄三
- セネガル土着のイスラム教団と牧畜民：小川了
- 座談会「イスラム世界の牧畜民」：梅村坦, 小川了, 高井清仁, 谷泰, 永田雄三, 松原正毅, 三木亘

4. 家島彦一, 渡辺金一編『海上民』1984ISBN: 4492812644

- 海上民のさまざまな顔——中国・東南アジア・日本をめぐって：可児弘明
- 陸に上がる東南アジアの漂海民：野口武徳
- 巡礼・聖戦・救世主——インドネシア・ムスリムの今昔：永積昭
- ユダヤ商人と海——ゲニザ文書から：湯川武
- エーゲ海コス島の村人たち：渡辺金一, 松本栄三
- 地中海商業と海賊——中世イタリアの小話から：清水廣一郎
- チュニジア・ガーベス湾をめぐる漁撈文化——地中海世界史の視点から：家島彦一
- 座談会「イスラム世界の海上民」：清水廣一郎, 永積昭, 三木亘, 家島彦一, 湯川武, 渡辺金一

5. 三木亘, 山形孝夫編『都市民』1984ISBN: 4492812652

- 「交わりの場」に生きる——クアラルンプルに見る相互依存と対立のバランス：田村愛理
- 近代イスラム都市とイラン人：坂本勉
- トルコ・ゲジェコンドゥに住む人々：鴨澤巖
- カイロのくすり問屋たち：三木亘
- ワディ・ナトルンの修道院——コプト修道士の生活史から：山形孝夫
- 自由都市メッカの人びと：後藤明
- スワヒリの町ウジジの人びと——東アフリカのイスラム都市：後藤明
- モロッコの都市と農村の比較生活誌——人の一生と年のめぐり：中野暁雄
- 座談会「イスラム世界の都市民」：鴨澤巖, 後藤明, 坂本勉, 田村愛理, 中野暁雄, 三木亘, 山形孝夫

6.1.11 学生社 前嶋信次編「オリエント史講座」1982-1986

4. 『カリフの世界』1982 [三田所蔵]

- 序説：前嶋信次
- マホメット：嶋田襄平

- アラブ帝国とその矛盾：嶋田襄平
- 激動の世紀——アッバース朝の政治史の流れ：糸賀昌昭
- カイロのカリフたち：藤本勝次
- コルドバのカリフたち：前嶋信次
- イスラム教徒の学問——チャハール・マカーラ：黒柳恒男
- イスラム教徒の学問——バスラ学派とクーファ学派：池田修
- 十字軍と文化交流：佐藤圭四郎
- ミニアチュール：杉村棟
- サラーフッ＝ディーン：黒田壽郎
- アルハンブラ：矢島文夫
- アラビアン・ナイトの世界——カリフたちを中心に：前嶋信次

5. 『スルタンの時代』1986 [三田所蔵]

- セルジューク朝のスルタンたち——その支配の性格をめぐって：清水宏祐
- モンゴルのイラン支配とイクター制の展開：坂本勉
- スレイマン1世とその時代：三橋富治男
- オスマン帝国の近代化運動：尾高晋己
- バイバルス：牟田口義郎
- スルタン＝カリフ制度：佐々木淑子
- 前期イスラーム陶器論——イスラーム陶器史序説：三上次男
- コンスタンティノープルの征服：護雅夫

6. 『アラブとイスラエル』1986 [三田所蔵]

- トルコ革命——青年トルコ人革命：設楽国広
- トルコ革命とパルチザン運動：山内昌之
- イランの民族運動の発展：加賀谷寛
- アラブの覚醒——文芸復興に生きた知的戦士たち：関根謙司
- アル・アフガーニーとムハンマド・アブドゥフ：加賀谷寛
- エジプト社会を描くナギーブ・マハフーズ：池田修
- イスラエルとシオニズム：縫田清二
- メッカ：飯森嘉助
- カイロ：林武
- ナセルの立場：小高正直

6.1.12 評論社「世界の女性史」,1975-1978

13. 『東方の輝き』1977 [三田所蔵]

- 座談「中東の女性像」：板垣雄三、矢島文夫、荒井猷、前嶋信次、池田修、堀内勝、後藤明、飯森嘉助
- マリア観の諸相：荒井猷
- ジャーヒリーヤ時代のアラブ女性：池田修
- アーイシャ伝：後藤明
- 初期イスラムと女性の地位：黒田壽男
- 砂漠の愛と詩の世界：堀内勝
- 都市の宴と歌の世界：堀内勝
- アラビアンナイトの女たち：前嶋信次
- シャジャラトッドル：飯森嘉助

14. 『閉ざされた世界から』1977 [三田所蔵]

- 座談「中東・アフリカの女たち」：板垣雄三、片倉もところ、宮治美江子、福島小夜子、日野舜也、永田真知子、永田雄三、藤田進、堤誓子
- イスラム法と女性：福島小夜子
- オスマン宮廷に生きた女性たち：永田雄三
- E・W・レインによるエジプト女性像：三石玲子
- エジプトの婦人解放運動の歩み：ラウーフ・アッバース・ハメッド（藤田進訳）
- 海の沈黙のように——ライラ・ハーリドと名もなきライラたち：黒田美代子
- 遊牧の女性——アラビア砂漠に生きる人たち：片倉もところ
- 日の沈む国から——現代アルジェリアの女性たち：宮治美江子
- 西アフリカの女たち——北カメルーン・ブーム族の場合：日野舜也
- 一まいのスカート——東アフリカ・タンザニアの牧畜文化と女性：富川盛道

6.1.13 岩波書店「講座 世界歴史」旧版,1969-1970

7. 『中世1——中世ヨーロッパ世界 (1)』1969 [三田所蔵]

- イスラムの発展と地中海世界：平城照介

8. 『中世2——西アジア世界』1969 [三田所蔵]

- 総説：護雅夫
- イスラム国家の成立：嶋田襄平
- イスラム国家の展開：森本公誠
- イスラム国家の完成：羽田明
- イスラムにおける正統と異端：嶋田襄平
- シーア諸派の思想と運動：黒柳恒男
- イスラム文明の西漸：前嶋信次
- イスラムとモンゴル：本田實信
- ティムール朝の社会：間野英二
- ムスリム商人の活動：佐藤圭四郎
- イスラム封建制度論：佐藤次高
- イスラム社会思想：森本公誠

10. 『中世4——中世ヨーロッパ世界 (2)』1970 [三田所蔵]

- 十字軍：木村豊

13. 『中世7——内陸アジア世界の展開（2）；南アジア世界の展開』1971 [三田所蔵]

- トルキスタンの諸ハン国：佐口透
- 内陸アジアと清朝：佐口透, 佐藤長
- 国際商業の展開：佐口透
- 総説：荒松雄
- インドにおけるムスリム支配の成立：荒松雄
- ムガル支配期の農村社会と支配体制：松井透
- ムスリム支配下における宗教と政治権力：荒松雄

15. 『近代2——近代世界の形成（2）』1971 [三田所蔵]

- オスマン帝国とヨーロッパ：三橋富治男

20. 『近代4——近代世界の展開（4）』1971 [三田所蔵]

- 「東方問題」：百瀬宏

21. 『近代5——近代世界の展開（5）』1971 [三田所蔵]

- オスマン帝国のアラブ支配とその解体：三木亘
- 19世紀中葉におけるアラブ社会の変容——エジプトを中心として：中岡三益
- 19世紀イランの民族運動：加賀谷寛
- オスマン帝国の改革運動——トルコの改革運動：護雅夫
- タンジマート下のアラブ——その典型としてのレバノン：林武
- イスラム改革思想——アラブの場合を中心として：板垣雄三

22. 『近代9——帝国主義時代（1）』1971 [三田所蔵]

- 帝国主義とアラブ社会の変容——クローマー統治とエジプト社会の変容：中岡三益

23. 『近代10——帝国主義時代（2）』1971 [三田所蔵]

- 西アジアにおける民族運動：三木亘
- 第一次世界大戦前のヨーロッパ諸国——東ヨーロッパ：百瀬宏

24. 『現代1——第一次世界大戦』1971 [三田所蔵]

- 第一次世界大戦と従属諸地域：板垣雄三, 岡倉古志郎

25. 『現代2——第一次世界大戦直後』1971 [三田所蔵]

- トルコ革命：護雅夫
- イランにおけるレザー＝シャー政権の成立：加賀谷寛
- エジプト1919年革命：板垣雄三

27. 『現代4——世界恐慌期』1971 [三田所蔵]

- 世界恐慌とアラブ社会の変容——エジプト社会の変容を中心に：中岡三益

6.1. 論文一覧

28. 『現代 5——1930 年代』1971 [三田所蔵]

- アラブ地域の民族運動：板垣雄三

29. 『現代 6——第二次世界大戦』1971 [三田所蔵]

- 第二次世界大戦と西アジア：前田慶徳

30. 『現代歴史学の課題』1971 [三田所蔵]

- 西アジアにおける歴史意識：護雅夫
- 地域研究と歴史学：三木亘

6.1.14 東京大学出版会「講座 東洋思想」,1967.

7. 『イスラムの思想』1967 [白楽所蔵]

- マホメットと『コーラン』：嶋田襄平
- 初期イスラム思想：嶋田襄平
- イスラム法学と法思想：嶋田襄平
- 神学・哲学・神秘思想：嶋田襄平
- 遺産の継承者：嶋田襄平
- イスラム世界近代化の歩み：護雅夫
- ペルシアの思想家たち：黒柳恒男
- トルコの思想家——自由主義の父ナームク・ケマル：護雅夫
- アラブの思想家たち：板垣雄三

7

日本語で読める原典たち

ここでは、概ね古典と目されるアラビア語、ペルシア語、トルコ語などの文献の内、日本語に訳されているものを紹介します。また、ラテン語などからの重訳、同時代のヨーロッパ人の手になるものも註を付した上で紹介します。著者の没年昇順で並べてあります。著者名は、これで通るだろうというものを使っています。大足の手作業で集めたので、遺漏が相当数にのぼることが予想されます。下に紹介されていないものをご存じでしたらメールなどでご一報願います。

……7.1……

7.1.1 凡例

題名

- 著者
- 訳者
- 書誌
- 必要に応じて注記

7.1.2 一覧

『コーラン』

- コーラン
- 井筒俊彦
- 全3巻, 岩波書店 (岩波文庫), 1968.

- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では19巻。

『日垂対訳注解 聖クルアーン』

- コーラン
- 三田了一
- 改訂版, 日本ムスリム協会, 1982.
- なお同書は日本ムスリム情報事務所 (Japanese Muslim Information Office・<http://www.isuramu.net/kuruan/index.html>) において全文を Web で見ることが出来る。

『カリーラとディムナ』

- イブン・アル＝ムカッファア
- 菊池淑子
- 平凡社 (東洋文庫), 1978.

「偶像の書」

- イブン・アル＝カルビー
- 池田修
- 『東洋文化』1974.

「マホメット伝」

- イブン・イスハーク
- 嶋田襄平
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房, 1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では19巻。

『コーラン』

- コーラン
- 藤本勝次, 伴安哉, 池田修
- 中央公論社 (世界の名著 17), 1970.

「古詩抄」

- 不明
- 牧野信也
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房, 1964.

アラビア語版『アリストテレスの神学』

- 不詳
- 岩見隆, 高田康一, 野本晋, 大川京, 木下雄介
- Chap.1: 『人文科学』(慶應義塾大学) 13, 1998; Chap.2: 『慶應義塾大学言語文化研究

所紀要』30, 1998; Chap.4-6:『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』31, 1999; Chap.7:『人文科学』(慶應義塾大学) 15, 2000; Chap.8-9:『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』32, 2000;

- 9世紀にバグダードで翻訳されたといわれる偽書で、プロティノス『エンネアデス』がネタ本。

「けちんぼども」

- ジャーヒズ
- 前嶋信次
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房, 1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では19巻。

「知性に関する書簡」

- キンディー
- 竹下正孝
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房, 2000.

『真正集』

- ブハーリー編
- 牧野信也
- 『ハディース——イスラーム伝承集成』全3巻, 中央公論社, 1993, 1994; 全6巻, 中央公論新社(中公文庫), 2000, 2001.

『真正集』

- ムスリム・イブン・ハッジヤージュ編
- 磯崎定基, 飯盛嘉助, 小笠原良治
- 『サヒーフ・ムスリム——預言者正伝集』全3巻, 日本サウディアラビア協会, 1987-1989.
- ブハーリー編と並ぶスンナ派における二大真正集の一。

「諸国征服史」

- アル＝バラズリー
- 花田宇秋
- 『明治学院論叢』406-566, 1987-1995

「有徳都市の住民がもつ見解の諸原理」

- ファーラービー
- 竹下正孝
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房, 2000.

「知性に関する書簡」

- ファーラービー
- 竹下正孝
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房, 2000.

『満悦を求める者の糧』

- フジャーウィー
- 中田考
- 『イスラーム法の存立構造——ハンバリー派フィクフ神事編』ナカニシヤ出版, 2003.
- 神事編部が中心だが、解題などが非常に役立つ。

『満悦を求める者の糧』

- フジャーウィー
- 森伸夫
- 「イスラームの刑法——アル・マクディスィー著「ザード・ル・ムスタクニウから」」『海外事情研究所報告』22, 1988.
- 刑法部の部分訳。

『インドの不思議』

- ブズルク・イブン・シャフリヤール編
- 藤本勝次, 福原信義訳注
- 関西大学出版広報部(関西大学東西学術研究所訳注シリーズ2), 1978.

「イフワーン・アッサファー書簡集」

- イフワーン・アッサファー
- 菊池達也
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房, 2000.

「知性の安息」

- キルマーニー
- 菊池達也
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房, 2000.

「王書」

- フェルドウスィー

- 黒柳恒男
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では19巻。

『王書——ペルシア英雄叙事詩』

- フェルドウシー
- 黒柳恒男
- 平凡社（東洋文庫）,1969.

「救済の書」

- イブン・スィーナー
- 中村廣治郎
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

『医学典範』

- イブン・スィーナー
- 五十嵐一
- 『科学の名著 8』朝日出版社,1981.

『カリフ宮廷のしきたり』

- ヒラル・サービー
- 谷口淳一、清水和裕監訳
- 松香堂, 2003
- IAS のアラビア語写本史料研究会のサイト http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/Japanese/archives/6-hanSGAMS/RDH_front.html で全訳註をみることができる。

「統治の諸規則」

- マーワルディー
- 湯川武
- 『イスラム世界』19,22,27-28,31-32,1981-1989

『鳩の頸飾り——愛と愛する人びとに関する論攷』

- イブン・ハズム
- 黒田壽郎
- 岩波書店（イスラーム古典叢書）,1978.

「カーブースの書」

- カイ・カーウース
- 黒柳恒男
- 『ペルシア逸話集』平凡社（東洋文庫）,1969.

「カーブースの書」

- カイ・カーウース
- 黒柳恒男
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では19巻。

『旅行記』

- ナーシレ・フスラウ
- 森本一夫監訳, 長峯博之解題, 北海道大学ペルシア語史料研究会訳
- 「ナーシレ・フスラウ『旅行記』訳注 (I)『史朋』(北海道大学) 35, 2003.
- 「ナーシレ・フスラウ『旅行記』訳注 (II)『史朋』(北海道大学) 36, 2003.
- ナーシレ・フスラウ『旅行記 (Sa-farnamah)』訳文 <http://homepage3.nifty.com/morikazu/persian.html> で、訳註から註釈と転写を除いた本文を読むことが出来る。なお、監訳者のWeb サイトは森本一夫の連絡版 <http://homepage3.nifty.com/morikazu/> である。情報をお寄せ頂いた森本先生、ありがとうございました。

『哲学者の意図——イスラーム哲学の基礎概念』

- ガザーリー
- 黒田壽郎
- 岩波書店（イスラーム古典叢書）,1985.

「イスラーム神学綱要」

- ガザーリー
- 中村廣治郎
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

「光の壁龕」

- ガザーリー
- 中村廣治郎
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

「誤りからの救い」

- ガザーリー
- 藤本勝次
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では19巻。

『回想録』

- ウサーマ・イブン・ムンキズ
- 藤本勝次, 池田修, 梅田輝代
- 関西大学出版会 (関西大学東西学術研究所訳注シリーズ 3) ,1987.

「ルバイヤート」

- オマル・ハイヤーム
- 黒柳恒男
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では19巻。

「孤独者の経綸」

- イブン・バーツジャ
- 竹下正孝
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

「知性と人間の結合」

- イブン・バーツジャ
- 竹下正孝
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

「ヤクザーンの子ハイイの物語」

- イブン・トゥフアイル
- 垂井弘志
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

「光の拝殿」

- スフラワルディー
- 小林春夫
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

「矛盾の矛盾」

- イブン・ルシュド
- 竹下正孝
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.

「靈魂論註解」

- イブン・ルシュド (アヴェロエス)
- 花井一典, 中澤務
- 上智大学中世思想研究所『中世思想原典集成 11——イスラーム哲学』筑摩書房,2000.
- ラテン語からの重訳

「四つの講話」

- ニザーミー
- 黒柳恒男
- 『ペルシア逸話集』平凡社 (東洋文庫) ,1969.

『七王妃物語』

- ニザーミー
- 黒柳恒男
- 平凡社 (東洋文庫) ,1971.

『ホスローとシーリーン』

- ニザーミー
- 岡田恵美子
- 平凡社 (東洋文庫) ,1977.

『ライラーとマジュヌーン』

- ニザーミー
- 岡田恵美子
- 平凡社 (東洋文庫) ,1981.

『旅行記 (旅路での出来事に関する情報覚書)』

- イブン・ジュバイル
- 藤本勝次, 池田修
- 関西大学出版会 (関西大学東西学術研究所訳注シリーズ 6) ,1991.

『ルーミー語録』

- ルーミー
- 井筒俊彦
- 岩波書店 (イスラーム古典叢書) ,1978.

「精神的マスナヴィー」

- ルーミー
- 蒲生礼一
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では 19 巻。

「薔薇園」

- サアディー
- 蒲生礼一
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では 19 巻。

『薔薇園——イラン中世の教養物語』

- サアディー
- 蒲生礼一
- 平凡社（東洋文庫）,1964.

「果樹園」

- サアディー
- 蒲生礼一
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では 19 巻。

「魂の矯正を内包する花嫁の冠」

- イブン・アター・アッラー
- 東長靖
- 「中世イスラームの倫理説——イブン・アター・アッラー『魂の矯正を内包する花嫁の冠』 解題ならびに訳注 (1)」『東洋大学紀要（教養課程篇）』35. 1996.

『集史』

- ラシード・アッ＝ディーン
- 『集史』 輪読会
- <http://homepage3.nifty.com/yyajima/rashid.html>
- Web 上での公開。フレグ・ハン紀、アバカ・ハン紀が閲覧可能

『イスラーム統治論——シャリーアによる統治』

- イブン・タイミーヤ
- 湯川武・中田考
- 日本サウディアラビア協会,1991

『三大陸周遊記』

- イブン・バットウータ
- 前嶋信次
- 河出書房（世界探検紀行全集 2）,1954;rep. 角川書店（角川文庫）,1961;rep.河出書房新社（世界探検全集 2）,1977.
- 本書は部分訳。でも文章はいい。

『大旅行記』

- イブン・バットウータ
- 家島彦一
- 全 8 巻, 平凡社（東洋文庫）,1996-2002.
- 本書は全訳。ものすごい校注があるのでそれだけで知識量は膨大に。

「抒情詩」

- ハーフェズ
- 蒲生礼一
- 『世界文学大系 68 アラビア、ペルシア集』筑摩書房,1964.
- このシリーズは何回もリプリントされ、7刷では 19 巻。

『ハーフェズ詩集』

- ハーフェズ
- 黒柳恒男
- 平凡社（東洋文庫）,1976.

『歴史序説』

- イブン・ハルドゥーン
- 森本公誠
- 全 3 巻, 岩波書店（イスラーム古典叢書）,1979-1987.;rep. 全 4 巻, 岩波書店（岩波文庫）, 2000.

『ナスレディン・ホジャ物語——トルコの知恵ばなし』

- 不詳
- 護雅夫
- 平凡社（東洋文庫）,1965.

『アラビアン・ナイト』

- アラビアンナイト

- 前嶋信次, 池田修
 - 全 19 卷, 平凡社 (東洋文庫), 1966-1992.
- 『イスラーム法理論序説』
- イブン・ザイヌッディーン
 - 村田幸子
 - 岩波書店 (イスラーム古典叢書), 1985.
- 『存在認識の道』
- モッラー・サドラー
 - 井筒俊彦
 - 『存在認識の道——存在と本質について』
岩波書店 (イスラーム古典叢書), 1978, rep.
『井筒俊彦著作集 10』中央公論社, 1993.
- 『真知をもつ者たちの霊葉』
- モッラー・サドラー
 - 鎌田繁
 - 鎌田繁『モッラー・サドラーの靈魂論——
《真知をもつ者たちの霊葉》校訂・訳注並
びに序説』イスラム思想研究会, 1984.
- 『万有帰神論』
- モッラー・サドラー
 - 鎌田繁
 - 鎌田繁『モッラー・サドラーの「万有帰神
論」訳注』『東洋文化研究所紀要』100, 1986.
- 『イスラームの宗教思想に見られる社会組織論』
- シャー・ワリーウッラー
 - 加賀谷寛
 - アジア経済研究所, 1969.
- 『ボナパルトのエジプト侵略』
- ジャバルディー
 - 後藤三男
 - ごとう書房, 1989.
- 「エブラーヒム・ベクの旅行記」(部分)
- マラーゲイ, ゼイノ・ル＝アーベディーン
 - 八尾師誠
 - 『イスラム世界』35&36, 1991
- 「物言えぬものの主張」
- セガト・ル＝エスラーム, ミールザー・ア
リー・アーガー
 - 八尾師誠
- 「物言えぬものの主張——近代イランに
おけるシーア派モジュタヘドの立憲思想」
『東洋文化研究所紀要』111, 1990
- 『ジャポンヤ』
- アブドゥルレシト・イブラーヒーム
 - 小松香織, 小松久男
 - 第三書館, 1991.
- 『アブドゥッラー物語——あるマレー人の自伝』
- アブドゥッラー・イブン・アブドゥル・カー
ディル, ムーンシー
 - 中原道子
 - 平凡社 (東洋文庫), 1980.
- 『現代イスラーム国家論』
- アッ＝リダー, ムハンマド・ラシード
 - 小杉泰
 - 小杉泰編訳『現代イスラーム国家論——
『アル＝マナール』派思想における政府と
立法, 国際大学国際関係学研究科, 1987.
- 『イスラムの法——法源と理論』
- ハッラーフ, アブドル・ワッハーブ
 - 中村廣治郎
 - 東京大学出版会, 1984.
 - 半世紀前だし内容が内容なので原典扱い。
-
- ヌルスィー
 - 粕谷元
 - 粕谷元『ヌルスィー著作選』未刊
- イスラーム統治論・大ジハード論
- ホメイニー, ルーホッラー・ムーサウィー
 - 富田健次
 - 富田健次訳『イスラーム統治論・大ジハー
ド論』平凡社, 2003.
- 「アラブにおける社会主義への道」
- アニース・アハマド
 - 池田修, 三木亘
 - 『中央公論』84-2, 1969.
- ジャアファリー
 - 中西久枝
 - 中西久枝『ジャアファリー選集』未刊

8

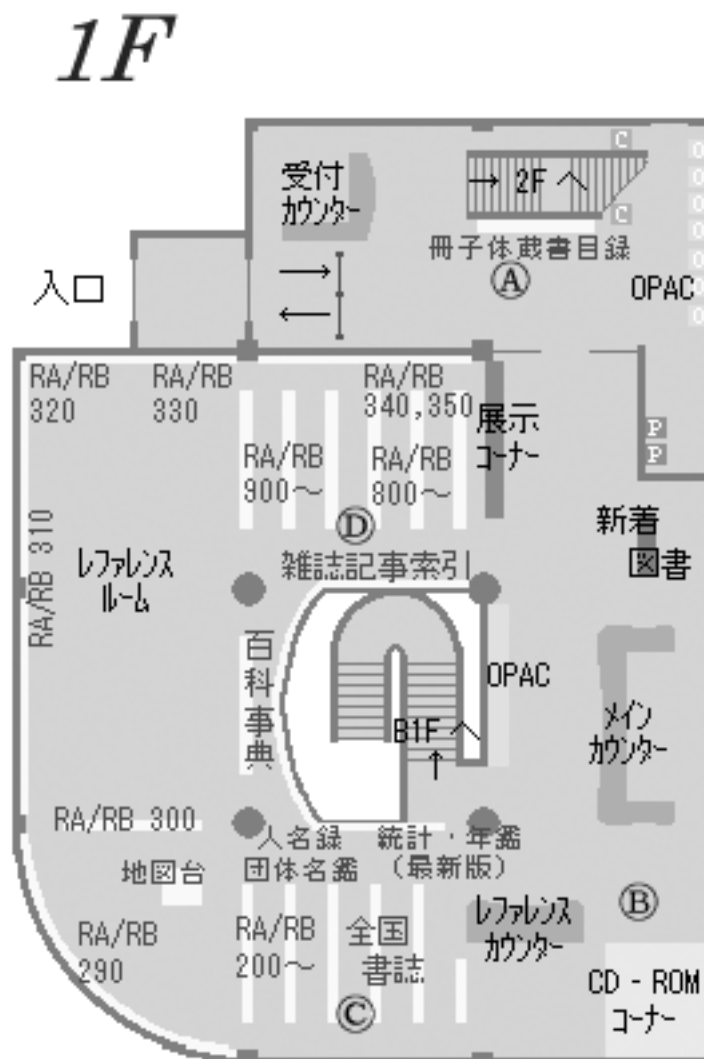
慶應義塾図書館の歩き方——探検 のために

この文書は、湯川ゼミ学生のための基礎技術の付属書です。第一章第一部「図書館をうろつく」のためのマップつきガイドです。なお、本文書に付属する慶應義塾図書館のフロアマップは全て慶應義塾大学三田メディアセンターの許可を受けて、大足が同センターの Web サイトから入手し、加筆、修正したものです。本文書の記述は 2002 年 11 月 01 日現在の配架に基づいています。配架はきわめて頻繁に変更されます。その可能性も考慮してください。

……8.1……

新館一階

●図 8.1.1 新館一階のフロアマップ



まずは地上一階から行きましょう。玄関を入ります。まず二階への階段の下 (A 地点) に「冊子体目録」があるのを確認してください。これは、OPAC で検索できない書籍を調べるのに使います。ではメインカウンターの方に入っていきましょう。そうするとメインカウンターの前に出ますね。そのまますぐに歩

8.1. 新館一階

くとレファレンスカウンターに突き当たります。ここは、我々のさまざまなやっかいな疑問に答えてくれるありがたい場所です。拝んでおきましょう。のちのちいいことがあります。レファレンスカウンターの左側にはコンピュータが並んでいます（B 地点）。ここで Index Islamicus や Magazine-Plus というデータベースを調べることになります。

さて、レファレンスカウンターの右側から書架が並んでいます。ここには歴史学などの事典や文献目録が並んでいます。特に三つめの棚手前側の、一番奥のあたり（C 地点）を注目してください。ここにイスラーム史関連のものがあります。最下段の緑色の事典が、最強の The Encyclopædia of Islam です。地下一階への階段のまわりをぐるりと回りこみます。そうすると、階段を取り囲んで設置してある棚に百科事典がおいであります。さらに回りこむと「雑誌記事索引」（D 地点）があるのがわかります。これで雑誌論文の古いものを調べます。このとき背後には、語学辞書の山が並んでいることになります。なんの関連性もありますが、ロシア語の『現代ロシア話し言葉辞典』は、笑いをこらえるのが実につらい名例文を連ねています。ロシア語など読めなくても問題がないので見てみてください。

わからない日本語もなるべく調べてみる癖をつけると吉です。無用な知識を仕入れることになりますが、細かいことでも意外な背景と意外な歴史を備えているものです。一階はこのくらいでしょうか。では、地下一階に進みます。

一階は以上です。

……8.2……

新館地下一階

●図 8.2.1 新館地下一階のフロアマップ

B1F



地下一階には、我々が利用する日本語書籍のほとんどがあります。くまなく歩いてみましょう。

メインカウンター前の階段を降りていきましょう。突き当たりの一群の書架は、レファレンスブックの続きです。右に曲がって書架に沿って歩いてください。一番奥の書架の一番手前（A 地点）に、イスラーム関連の文献目録があります。緑色をした *Index Islamicus* を確認してください。これでレファレンスは終わりです。次は、一般書籍です。

いま来たのと逆の方向に進み、突き当たったら左折、壁が切れたら右折して、エレベーターの前に出てください。ここからは、日本十進分類法を理解するためにも、その順番で歩いてみましょう（フロアマップの矢印のとおり）。エレベーターの前にあるのが第0類「総記」の書棚です。情報科学などの本が並んでいるのが分かります。徐々に奥に進みましょう。二つ目の棚からは第1類「哲学」となります。四つ目の書棚入ったところ、手前側（B 地点）を見てください。最上段に「井筒俊彦著作集」があります。さらに奥に進みましょう。五つ目の書棚入ったところ、手前側（C 地点）は中世哲学ですが、最下段にイスラーム

8.2. 新館地下一階

哲学の本が何冊かあるのがわかるでしょう。次の書棚からは160 宗教になります。一番奥の書棚壁側の真ん中あたり（D 地点）に「宗教」－イスラームに分類されている本があります。

矢印通りに進み、次の角で左折します。棚3つ分ほど、仏教、キリスト教と宗教が続き、4つ目奥側で、第2 類「歴史」に変わります。このあたり（E 地点）には、歴史学一般と世界史のシリーズ集が集まっており、我々の拠点の一つとなる場所です。そこを過ぎるとしばらく日本史が続きます。広い通路を挟んで、二つ目の書棚から、世界の各地の歴史となります。まずは、220 アジア史です。二つ目の書棚コピー機側（F 地点）にアジア史一般、つまりシリーズ『アジアから考える』とかが集まっています。そしてこれまたしばらく中国史、朝鮮史などが続き、最後から3つ目の書棚（G 地点）で「中東」になります。ここがもう1つの拠点となります。そして最後の棚手前側に「北アフリカ史」があります。エジプトやマグリブは、ここになります（H 地点）。コピー機の脇を抜けて、次の書架の列に進みましょう。この入口の辺りは伝記や家系などです。4つ目の書架を通り抜けたところを入ります。左手（I 地点）には紀行が、右手（J 地点）には地誌があります。シリーズ『イスラム世界の人びと』はここに 있습니다。長かった第2 類「歴史」もこの棚で終わりです。

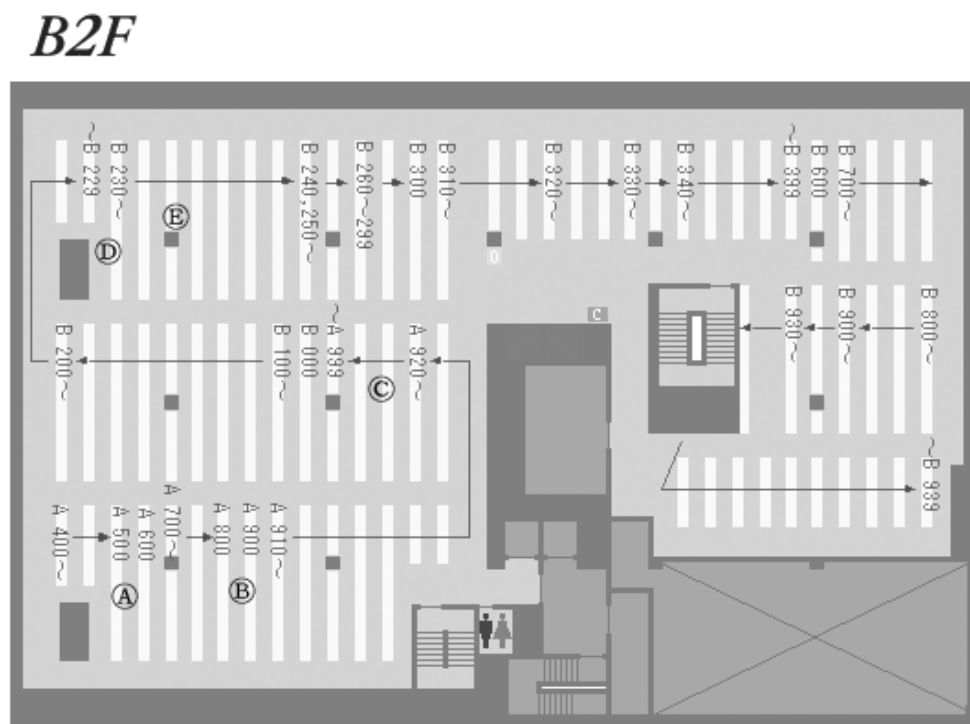
次の書架からは、第3 類「社会科学」となり、地下一階の残りは全てこの類です。まず310 政治の配列が始まります。さきほどの場所から、書棚3つ分入ったところ手前側下段（K 地点）に「中東政治」の類があります。さらに進み配列は折り返します。折り返したところの書棚壁際の一番奥（L 地点）には中東関連の国際政治の書物があります。一つ進んだ書棚からは320 法律が始まります。その書棚、一番奥側最下段（M 地点）には、イスラーム法の書籍があります。中程まで進むと330 経済に変わります。閲覧スペースから見て3つ目の書棚手前側（N 地点）には、中東経済があります。閲覧スペースに突き当たって、再び折り返します。折り返して4つ目の書架は360 社会学ですが、この書棚の中程（O 地点）に『事典イスラームの都市性』があります。ずっと進んで、最後の書棚壁際（P 地点）には、中東の人類学関連の書物があります。なお、このあたりは本当におもしろい本が多いですから、常々うろろするとよい気がします。

地下一階は以上です。

……8.3……

新館地下二階

●図 8.3.1 新館二階のフロアマップ



地下二階には日本十進分類法における第4類「自然科学」以降の一般和書、および概ね全ての一般洋書が収められています。地下二階の配架は、西南隅から始まります。では、参りましょう。3つ目の書棚奥側（A地点）には、第5類「技術」中の建築書があります。モスクの建築や、その写真集もここになります。続く棚が一つずつ、第6類「産業」、第7類「芸術」となります。第7類部にもイスラーム芸術関連の書物があります。さらに進んだB地点は、第8類「言語」です。関連言語の入門書があります。

その次の棚から、第9類「文学」となります。文学一般、それから日本文学が続き、折り返してまた日本文学が棚1つほど続きます。2つ目の棚から外国文学となり、中国韓国と言語分類順に進み、棚4つ目奥側（C地点）で「アラビア文学」「ペルシア文学」などとなります。そこから棚2つにおいて、一般洋書（請求番号B以下）が始まります。これまた日本十進分類法で整理されて配架されています。0類総記、1類哲学と続き、壁際に2類歴史となります。折り返して、D地点のあたりにイスラーム史関連の洋書があります（『ケンブリッジ・イスラーム史』とか『ケンブリッジ・イラン史』とか）。なんでここに分類されるのかわかりませんが、E地点のあたりにはイスラーム美術関連の本が数冊あります。そこからまた延々洋書が続きます。

8.3. 新館地下二階

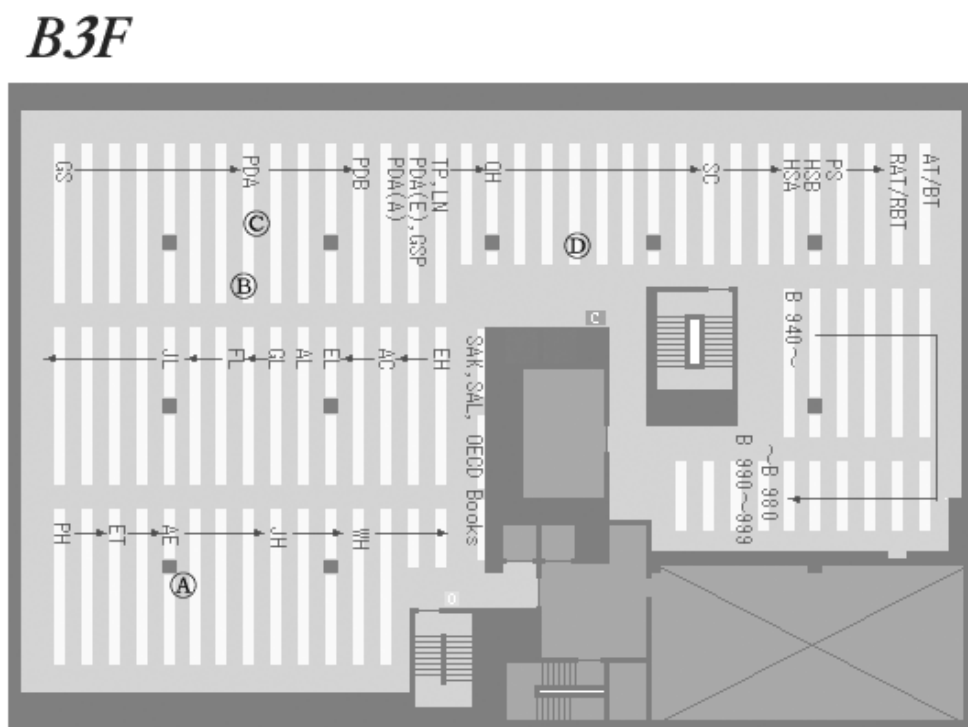
なお第4類「自然科学」第5類「工学」（建築も含みます）は、地下4階に別置となっています。注意してください。

地下二階は以上です。

.....8.4.....

新館地下三階

●図 8.4.1 新館地下三階のフロアマップ



地下三階には、東南隅に一般洋書の残り（9類「文学」のうち独・仏・伊・西・露など）が、残りの大部分の場所には学部・研究科図書（請求番号がA・B以外）の中文をのぞく文学部図書が収められています。どんな本がどの学部で分類されるかは、きわめて不安定に思えますので、この階と旧館は迷子になりやすい場所です。とりあえずは何冊かまとまっているめばしい場所を紹介します。

A 地点は美学美術史図書です。この付近に、イスラーム美術の本が何冊かあります。地下二階より多いように思われます。

B 地点、C 地点は、教育学図書です。実はこの辺りに歴史学の本が多くあります。世界史リブレットは高校生向きなのでここにあります。また、平凡社の東洋文庫はC 地点にまとめてドーンとあります。

そして本命はD 地点付近にある請求番号 OH の東洋史学図書です。和書も若干ありますが、かなりの量のアラビア語・ペルシア語の書籍が異彩を放っています。なんでもいいから適当に手にとって目を慣れさせましょう。

地下三階は以上です。

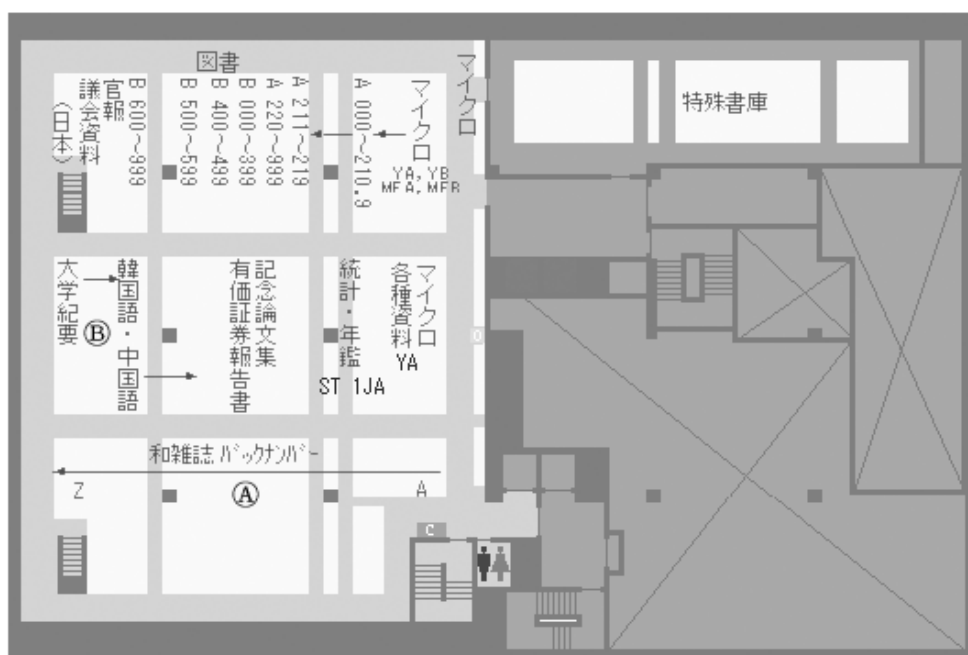
8.5. 新館地下四階

.....8.5.....

新館地下四階

●図 8.5.1 新館地下四階のフロアマップ

B4F



地下四階からは、いよいよ人外魔境の雰囲気が増す場所です。というより地下四階が一番近寄りたたい雰囲気を発散している場所です。慶應義塾図書館の書架の中で、この階のものだけは可動型書架となっています。床にレールが敷いてあって、スイッチを押すと書架が動いて、その隙間に人間が入って、本を探しに行くシステムです。しばらくこれに慣れましょう（というか遊んでみましょ）。

とはいっても、この階で閲覧すべきものはあまり多くはありません。1970年以前の古い雑誌（A地点）と大学紀要（B地点）くらいでしょう。

なお可動式書架を動かす際は、同じエリアに人がいないかどうか、かならずチェックしてください。一応安全装置は付いていますが、書架に挟まれるという恐怖感は理性以前の代物です（マジで超怖い）。他の利用者を怖がらせてはいけません。

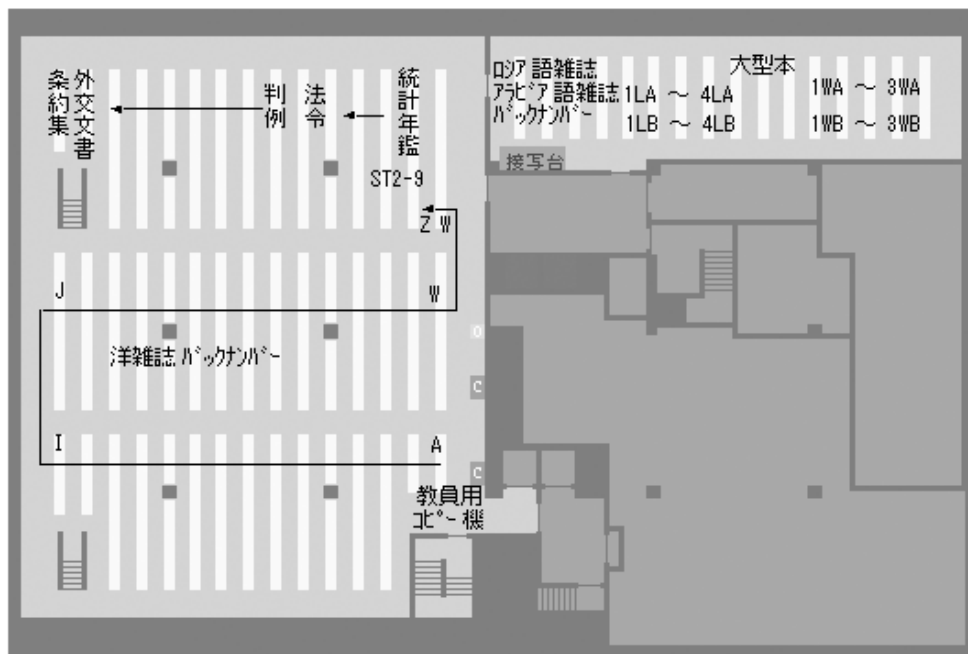
地下四階は以上です。

……8.6……

新館地下五階

●図 8.6.1 新館地下五階のフロアマップ

B5F



ダンジョンの一番下、地下五階です。ここは古い洋雑誌や年鑑などがあります。一番西北隅には外交文書があります。とりあえず確認した限りでは、国連、英米仏のものがありません。近代をやる人は見る機会があるかもしれません。

またエレベータホールの正面のドアを開けると、大型本書庫があります。ここは美術全集や、写真集などのほかでかい本が別置され収められます。ここは本当に楽しい場所です。『国鉄創立 100 年記念写真集』もここで見つけました。ぜひ一度のぞいてください。

地下五階は以上です。

.....8.7.....

新館二階

●図 8.7.1 新館二階のフロアマップ



ようやく穴蔵から出てきました。この階には大学紀要があります。というより、それ以外はありません。OPACで検索して、配架場所が2階になっていれば、それは大学紀要ということになります。西閲覧室に、発行大学のローマ字順に紀要が配架されています。注意すべきことは、大学紀要であっても、慶應義塾の紀要は3階に、1970年以前のものは地下4階にそれぞれ配架されるということです（これはOPACには表示されません）。

もっとも利用頻度が高いのは東京大学の紀要でしょう。「回顧と展望」が掲載される『史学雑誌』も発行大学は東京大学です。配架場所は、地図のA地点です。『西南アジア研究』や『東洋史研究』を出している京都大学はB地点となります。

地上二階は以上です。

……8.8……

新館三階

●図 8.8.1 新館三階のフロアマップ



3階には大学紀要ではない和雑誌と現代研究に必要な年鑑・統計、および新聞が収められています。和雑誌は、一番東北の隅から、南に向かって、誌名のローマ字順に配架されています。雑誌は数冊をまとめて製本されます。したがって一冊には数号分の雑誌が入っていますので注意してください。よく利用するものとしては、A地点に『イスラム世界』、B地点に『日本中東学会年報』(これは何語であっても投稿できるという珍しい学術誌)、C地点に『オリエント』があります。

おおむねOくらいで、東側の配列は途切れ、中央の事務エリアを越えて、続きは西側に配架されます。D地点には『東洋学報』などがあります。その続きに年鑑などがあり、さらに新聞縮刷版となります。三階カウンター前にあるコンピュータ群(E地点)でもMagazine-Plusをはじめとした各種データベースを利用できます。

なお慶應義塾の発行する紀要はF地点に、また雑誌の新着番号は未成本新着雑誌棚に配架されるので注意してください。

地上三階は以上です。

9

参考文献、リンク（紹介付き）

長場紘『現代中東情報探索ガイド』慶應義塾大学出版会,2000ISBN: 4766408357

現代の中東について知りたいことがあったら、まず本書を見て、情報検索の手法を学ぶとよいでしょう。基礎的方法を概述したあとで「パレスチナ問題の背景を知りたい」などの具体事例について、どのような本、どのようなサイトをたどってゆけばよいのかを実に詳細に記述しています。

河野哲也『レポート・論文の書き方 入門 第3版』慶應義塾大学出版会,2002ISBN: 4766409698

本書は、レポート・論文の書き方の入門です。技術的事項を辞典的に説明するわけではありません。まず、本を読んで、どの点に疑問を持つか、そして、その疑問に従って、どのように議論を展開し、ブックレポートとしてまとめるかを、実例に従って述べています。有用ですので必読としたいところです。

桜井雅夫『レポート・論文の書き方 上級』慶應義塾大学出版会,1999ISBN: 4766407245

論文を書く上での技術的事項について微に入り細を穿って記述されています。本書一冊があれば、ほとんどカバーできるでしょう。ただし文献記述方式や、註の付け方は法学分野に一般的なものなので、若干のアレンジが必要でしょう。

更新履歷

更新履歴

2002.11.30 Ver.1.00	●いちおう完成。HTML 版。 ●これ以前についてはhttp://web.mita.keio.ac.jp/~mb030025/islam_history_tech_basic_whatsnew.html を参照。
2003.03.16 Ver.1.01	●細かい字句修正。HTML 版。 ●森本先生からナースィレ・フスラウ『旅行記』についての情報をいただいたので「原典」に追加。
2004.02.26 Ver.1.02	●ナースィレ・フスラウ『旅行記』、『カリフ宮廷のしきたり』、『イスラーム統治論』についての情報を「原典」に追加。 ●細かい字句修正。Word 版を並行。
2004.04.04 1.03β.20040404	●$\text{\LaTeX}$による原稿と PDF による公開へ移行。 ●GNU フリー文書 ●索引を付加
2004.04.06 1.03β.200404061	●概説に世界史リブレット第二期を追加。 ●論集に「イスラーム地域研究叢書」を追加。 ●原典に中田考さんによる法学関連の諸法学の翻訳を追加。
2004.04.06 1.03β.200404062	
2004.04.06 1.03β.200404062	●各書物について amazon.co.jp へのリンクを追加（Web 版）。
2004.05.11 2.0	●電子ジャーナル・電子データベースに関する記述を追加。 ●構成の見直し、提示文献の見直し。

おわりに

おわりに

ここまで「研究の入口」のことを、私の短い経験に基づいて縷々書き連ねてきました。まだまだ多くの誤謬と遺漏があるかもしれません。読まれた方は、実に細かいことまで読まされて、いやになっていることでしょう。ですが「物事を調べる」技法を自家菜籠中のものとする事ができるならば、それは一生ものの価値を持つものだと私は考えています。私自身、その一生ものの技法を学びつつある者です。その中途の成果を私なりにまとめてみました。はじめに書いたように、これは「入口」に過ぎません。逆に言えば、ここまで書いてきたようなことは、一度やってしまえば、すぐに自分のものになるものです。安心してください。

この拙いリソースが、みなさんの何らかのお役に立てていれば幸いです。最後に、このリソースにコメントをくださった指導教授の湯川武慶慶應義塾大学商学部教授、長谷部史彦慶應義塾大学文学部助教授、森本一夫北海道大学大学院文学研究科助教授、野元晋慶應義塾大学言語文化研究所助教授、東京大学大学院総合文化研究科博士課程の橋爪烈さん、慶應義塾大学大学院文学研究科史学専攻東洋史学分野イスラーム史のみなさん、2002年度湯川ゼミの諸君、慶應義塾図書館のフロアマップの転載、修正をご快諾くださった慶應義塾三田メディアセンター（およびその労をとってくださった閲覧係の角田さん）、日本十進分類法細目表の転載をご許可いただいた日本図書館協会に感謝の念を捧げたいと思います。ありがとうございました。